

花 鳥 山 遺 跡

一天竜南線リニア増強工事2期（その1）
（送電線鉄塔建設）に伴う発掘調査報告書

2021

東京電力パワーグリッド株式会社
笛吹市教育委員会
昭和測量株式会社



彩文土器 (関西系)



1 貝殻縞線文 (東海系)、2 木葉文、3 羽状縄文、4 爪形文、5 高い浮線文、6 低い浮線文、7 結節浮線文、8 沈線文、9 結節沈線文

序

本書は令和2年度に実施された花鳥山遺跡（笛吹市八代町竹居）の発掘調査報告書です。花鳥山遺跡の所在する八代町竹居周辺は、山梨県指定文化財になっている「渦文深鉢」が出土した桂野遺跡、硬玉製大珠が出土した三光遺跡など豊かな縄文文化を伝える遺跡で知られています。

今回の調査は送電線鉄塔建設工事に伴い実施しました。調査の結果、竪穴状遺構や土坑が見つかりました。花鳥山遺跡からは縄文時代前期後半の縄文土器が多量に出土しており、大規模な集落跡が存在すると推定されます。

笛吹市では観光再生のため、市内にある様々な地域資源を磨き上げ、ストーリー性を持って結びつける観光振興プロジェクト『笛吹物語』に取り組んでおります。花鳥山遺跡や釈迦堂遺跡に代表される縄文時代遺跡群は本市を特徴づける地域資源でもあります。本報告書の刊行により、笛吹市の縄文文化にさらなる光が当たり、市の歴史観光への取り組みがより厚みを増すことが期待されます。

発掘調査にあたり、ご理解、ご協力を賜りました東京電力パワーグリッド株式会社、ご指導を頂きました山梨県観光文化部文化振興・文化財課をはじめ関係諸機関、発掘調査においてご不便をおかけいたしました地元地権者各位、隣接農地の耕作者各位、発掘調査に参加いただきました作業員各位に深く感謝申し上げます、この発掘調査報告書の刊行の序文に代えさせていただきます。

令和3年8月

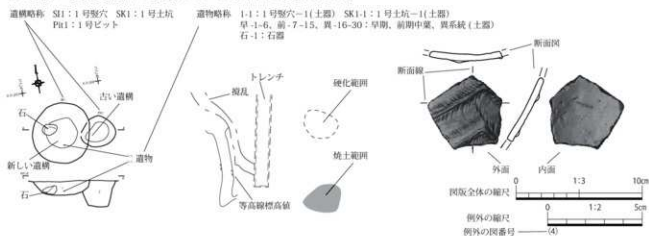
笛吹市教育委員会
教育長 望月 栄一

例言

1. 本報告書は山梨県笛吹市八代町竹居5144に所在する花鳥山遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は天竜南線リニア増強工事2期（その1）（送電線鉄塔建設）に伴う発掘調査であり、笛吹市教育委員会指導の下、昭和測量株式会社が調査を実施した。
3. 調査指導は笛吹市教育委員会文化財課の瀬田正明が担当し、昭和測量株式会社の高野高潔が現地調査及び整理作業を行った。
4. 本調査に関わる費用は東京電力パワーグリッド株式会社が負担した。
5. 発掘調査は令和2年10月19日～令和2年12月15日にかけて実施した。整理・報告書刊行業務は令和2年12月～令和3年8月まで実施した。調査面積は198㎡である。
6. 報告書執筆は第1章第1節を瀬田、第1章第2節～第4章、第6章第1節を高野、第6章第2節を新津健（昭和測量株式会社文化財調査課研究顧問）が担当した。第5章第1節は三浦麻衣子・藤澤明（帝京大学文化財研究所）、第2節は赤司千恵・中山誠二（帝京大学文化財研究所）に寄稿いただき、第3節・第4節は小林克也・パンダリ スタルシャン（株式会社パレオ・ラボ）に委託した。全体の編集は高野が行った。
7. 挿図使用地図は、第2図：大日本帝国陸地測量部発行の1/20,000地形図甲府近傍二号「勝沼」（明治43年7月鉄道補測発行）、五号「石和」（明治43年4月鉄道補測発行）、富士十二号「御阪峠」（明治24年3月発行）、十七号「鶯宿村」（明治24年2月発行）、第3図：国土地理院発行（令和元年5月発行）の電子地形図25,000「石和」、第58図：笛吹市役所GISシステム（PasCAL for LGWAN）収録の「都市計画基本図」1/2,500である。
8. 遺構平面図のXY座標値は平面直角座標系（世界測地系）第Ⅷ系の値である。方位記号は方眼北を示している。遺構断面図の数値は標高である。座標値、標高の単位はメートルである。
9. 本調査における図面・写真・遺物はすべて笛吹市教育委員会で保管している。
10. 発掘調査および遺物の整理においては次の方々にご指導と御協力を賜った。感謝の意を表したい。
赤司千恵、一瀬一浩、伊藤修二、岩永祐貴、植月学、江草俊作、柳原功一、佐賀賢太郎、長澤宏昌、中山誠二、中村有希、野代幸和、畑大介、藤澤明、三浦麻衣子、望月和幸（五十音順、敬称略）

凡例

1. 遺構・遺物の挿図縮尺は、各挿図中に記載した。写真図版の縮尺は任意である。
2. 土層断面図、遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖1990年版』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づいた。
3. 遺物実測には三次元測定機キーエンス社「3Dスキャナ型三次元測定機VL-350」を使用した。
4. 遺構・遺物実測図の表現については下図の通りである。



目次

序

例言・凡例

目次

第1章 経過

第1節 調査に至る経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第2節 調査の目的と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第3節 調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第2節 歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第3章 調査の方法

第1節 調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

第2節 基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

第4章 調査の成果

第1節 調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

第2節 遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

第5章 自然科学分析

第1節 花鳥山遺跡出土の彩文土器に利用された赤色顔料の科学的調査・・・・・・・・78

第2節 花鳥山遺跡、令和2年発掘調査における出土土器の種実圧痕・・・・・・・・80

第3節 花鳥山遺跡出土炭化材の樹種同定・・・・・・・・・・・・・・・・81

第4節 花鳥山遺跡から出土した炭化種実・・・・・・・・・・・・・・・・84

第6章 まとめ

第1節 令和2年調査の遺構と時期・・・・・・・・・・・・・・・・86

第2節 花鳥山遺跡の立地と集落・・・・・・・・・・・・・・・・88

写真図版

挿図目次

第1図	調査地の位置	2	第31図	土器(4号・5号竪穴)	46
第2図	調査地の位置	3	第32図	土器(5号竪穴)	47
第3図	周辺の遺跡分布	4	第33図	土器(5号竪穴)	48
第4図	既存の調査地点(遺跡全体)	5	第34図	土器(6号竪穴)	49
第5図	既存の調査地点(調査区周辺)	6	第35図	土器(6号・7号竪穴)	50
第6図	基本層序	7	第36図	土器(7号竪穴)	51
第7図	調査区全体図	8	第37図	土器(7号竪穴)	52
第8図	1号・2号竪穴(1)	23	第38図	土器(8号竪穴)	53
第9図	1号・2号竪穴(2)	24	第39図	土器(9号・10号竪穴)	54
第10図	1号・2号竪穴(3)	25	第40図	土器(10号竪穴)	55
第11図	3号竪穴(1)	26	第41図	土器(10号竪穴)	56
第12図	3号竪穴(2)	27	第42図	土器(10号・11号竪穴)	57
第13図	4号竪穴(1)	28	第43図	土器(12号竪穴)	58
第14図	4号竪穴(2)	29	第44図	土器(12号・13号竪穴)	59
第15図	5号・6号・12号・14号竪穴(1)	30	第45図	土器(14号竪穴、1号・2号土坑)	60
第16図	5号・6号・12号・14号竪穴(2)	31	第46図	土器(3号～6号土坑)	61
第17図	5号・6号・12号・14号竪穴(3)	32	第47図	土器(7号土坑)	62
第18図	5号・6号・12号・14号竪穴(4)	33	第48図	土器(早期、前期中葉、異系統)	63
第19図	7号竪穴(1)	34	第49図	土器(異系統)、土製品	64
第20図	7号竪穴(2)	35	第50図	石器(石鏃、石錐、垂飾、原石)	65
第21図	8号・9号竪穴(1)	36	第51図	石器(原石、スクレイパー、石匙)	66
第22図	8号・9号竪穴(2)	37	第52図	石器(石匙)	67
第23図	10号・11号竪穴(1)	38	第53図	石器(磨製石斧、打製石斧)	68
第24図	10号・11号竪穴(2)	39	第54図	石器(打製石斧、磨石)	69
第25図	10号・11号竪穴(3)	40	第55図	石器(磨石、砥石)	70
第26図	13号竪穴(1)	41	第56図	石器(石皿)	71
第27図	13号竪穴(2)	42	第57図	遺構の時期	86
第28図	土器(1号竪穴)	43	第58図	花鳥山遺跡の遺構分布	87
第29図	土器(1号・2号竪穴)	44			
第30図	土器(3号竪穴)	45			

表目次

表1	周辺の遺跡一覧表	6	表3	遺物観察表(石器)	77
表2	遺物観察表(土器・土製品)	72			

第1章 経過

第1節 調査に至る経過

東京電力パワーグリッド株式会社によりリニア中央新幹線電力供給工事（送電線鉄塔建設）について平成28年10月に協議があり、計画範囲内に花鳥山遺跡が存在していることから令和2年4月22日に埋蔵文化財包蔵地発掘の届出が東京電力パワーグリッド株式会社より笛吹市教育委員会に提出され、令和2年6月2日から15日にかけて笛吹市教育委員会による試掘調査が行われた。

調査結果を基に、東京電力パワーグリッド株式会社と笛吹市教育委員会とで保存協議を行い、遺構・遺物が確認された範囲198㎡について、記録保存のための本発掘調査を行うこととなった。調査は、東京電力パワーグリッド株式会社が昭和測量株式会社に委託し、令和2年9月9日に笛吹市教育委員会を含めた三者協定を締結して、笛吹市教育委員会が調査を監理することとなった。令和2年9月9日に文化財保護法92条の届出が昭和測量株式会社から笛吹市教育委員会に提出され、令和2年9月23日に山梨県観光文化部文化振興・文化財課から昭和測量株式会社へ埋蔵文化財発掘調査についての通知があり、令和2年10月19日から調査に着手する運びとなった。

第2節 調査の目的と課題

今回の調査は送電線鉄塔建設に伴う土木工事に先立ち、遺構・遺物の記録保存を行うことを目的とする。本遺跡は山梨県内でも古くから知られる縄文時代前期後半を代表する遺跡である。過去の調査の積み重ねから、遺跡が立地する舌状台地上に展開される集落の分布が想定されている。今回の調査は以前の調査地の中間に位置するため、台地上の空白部を明らかにすることで、展開する集落の形を確認することが課題とされた。また、本遺跡は縄文時代前期後半を主体とした密度の濃い遺跡として有名であるが、従前の調査では縄文時代早期や前期前半など時期の異なる土器が出土することも知られている。しかし、これまでは前期後半以外の時期の遺構が検出されてきていないため、この台地上に営まれたと考えられるこれらの時期の遺構について手掛かりを検討するということが課題である。

第3節 調査の経過

発掘調査は令和2年10月19日に開始し、12月15日に終了した。調査面積は198㎡である。詳細は以下のとおりである。発掘調査員：高野高潔、発掘・整理作業従事者：浅川悠起子・朝倉訓・雨宮克好・今福ともみ・尾川正美・垣内律子・川原剛・北野礼子・佐野香織・土屋常子・内藤敏夫・藤巻浩太郎・水上雅人・若林奈な・渡辺麗子、空中写真撮影：吉田泰司・野村亮太、助言・指導：新津健。

10/19 現場設営、20 現況測量・人力による表土掘削・出土遺物計測開始、22 土層計測開始、29 表土掘削終了・遺構検出、11/4 遺構掘削開始（1・2号竪穴）、5 掘削開始（3号竪穴）、10 掘削開始（5・10号竪穴）、11 掘削開始（6号竪穴）、12 掘削開始（7号竪穴）、13 掘削開始（1・2号土坑）、19 掘削開始（4・8・9号竪穴）、24 掘削開始（9号竪穴）、25 ドローン空中写真撮影、30 掘削開始（3号土坑）、12/2 掘削開始（11号竪穴）、3 掘削開始（12・14号竪穴）、4 掘削開始（4号土坑）、8 掘削開始（13号竪穴）、11 掘削開始（5・6号土坑）、12 掘削開始（7号土坑）、14 掘削開始（8号土坑）、15 現場作業終了。

整理作業は令和2年12月16日に開始し、令和3年8月31日に終了した。出土遺物の水洗、注記、接合、実測遺物の選定、実測、トレース、写真撮影、図版作成、編集・版下データ作成を行い、報告書を刊行した。

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 地理的環境

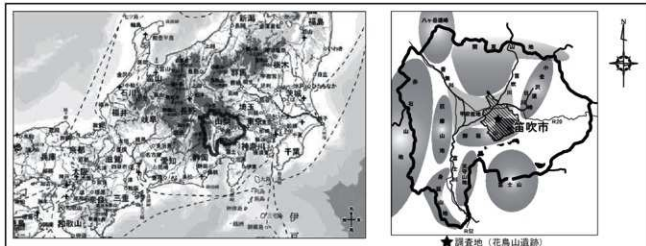
花鳥山遺跡は山梨県笛吹市八代町竹居に所在する。甲府盆地の南東部に位置し、南には御坂山地が連なり、北には笛吹川が流れる。御坂山地から笛吹川に向かっては金川・天川・浅川・境川などが注ぎ、これらの河川が扇状地を形成している。花鳥山遺跡は扇状地との境目の標高 500m 前後の山裾に広がる約 200 m 四方の緩傾斜面に位置する。西側を直近では信濃沢、大きくは浅川により開析され、東側は神有川の谷筋が入ることで舌状に張り出した台地の先端に広がる平坦面である。同様の遺跡立地として、御坂山地の先端にみられる平坦面には縄文時代の一の沢遺跡、鏡子原遺跡、桂野遺跡などが並んでいる（第1・2図）。

花鳥山遺跡から浅川の源流に向けて御坂山地に分け入るルートは、古代からの主要路とされる若彦路にあたる。浅川をたどり奈良原から、烏坂峠、大石峠を経て河口湖へ通じ、富士山麓をめぐる太平洋に至る。花鳥山遺跡からは原産地である御坂山地の花崗岩や富士山の溶岩を用いたと思われる石器が出土している。ほかにも伊豆・箱根方面の黒曜石や東海系の土器が出土しており、太平洋側への流通経路があったと思われる。また、信州方面の黒曜石や白馬岳が良質な産地と知られる滑石、関西系の土器、秩父方面にも産地を有する蛇紋岩などが出土しており、東西南北の広域に交流が行われていたと考えられる。

調査地点は花鳥山遺跡の中央部にあたる。北西へ向かって下る傾斜地となっており標高 517～519m を測る。現況はモモの果樹畑地帯で、約 300m 北には山梨リニア実験線が敷設されている。調査地点はリニア実験線にも電力を供給している送電線の真下に位置する（第3図）。

第2節 歴史的環境

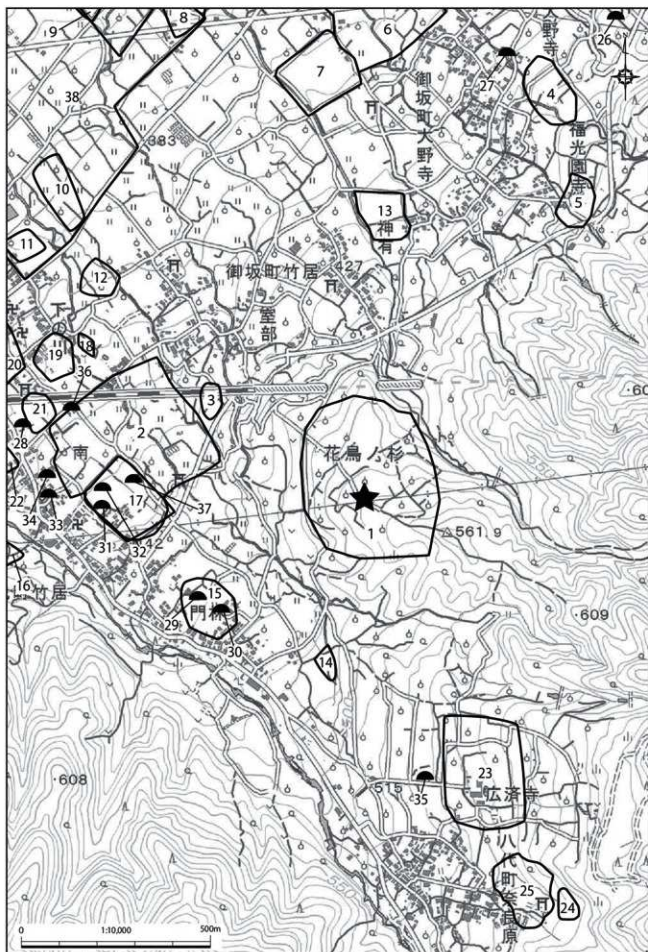
花鳥山遺跡の周辺には、縄文時代中期初頭から晩期の遺跡で中期の上土からヒスイの大珠が出土している三光遺跡（2）や、縄文時代前期・中期や平安時代の遺跡である太鼓畑遺跡（3）があり、その他にも縄文時代から近世までの遺跡が分布している（第3図、表1）。花鳥山遺跡の調査としては国学院大学樋口清之教授による昭和29年と30年調査の概要報告『八代町誌』1975）、山梨県埋蔵文化財センターによる昭和62年調査の報告『花鳥山遺跡・永谷場北遺跡』1989山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第45集）が知られる。それ以前の研究史についても詳述されており、古く明治期には中世・近世の古戦場として知られており、大正期には土器の出土が認識され、昭和20年代には住居址が確認されていたとされる。昭和29年・30年調査と昭和62年調査に加え今回の令和2年の調査区を加筆し第4・5図に示した。昭和29年の国学院大学第一次調査は台地の東縁辺、30年の第二次調査では台地中央部に2箇所と、西縁辺の1箇所を調査している。東縁で2軒、西縁で1軒の住居址を検出し、早期土器一楕円型土器、繊維土器、前期土



第1図 調査地の位置

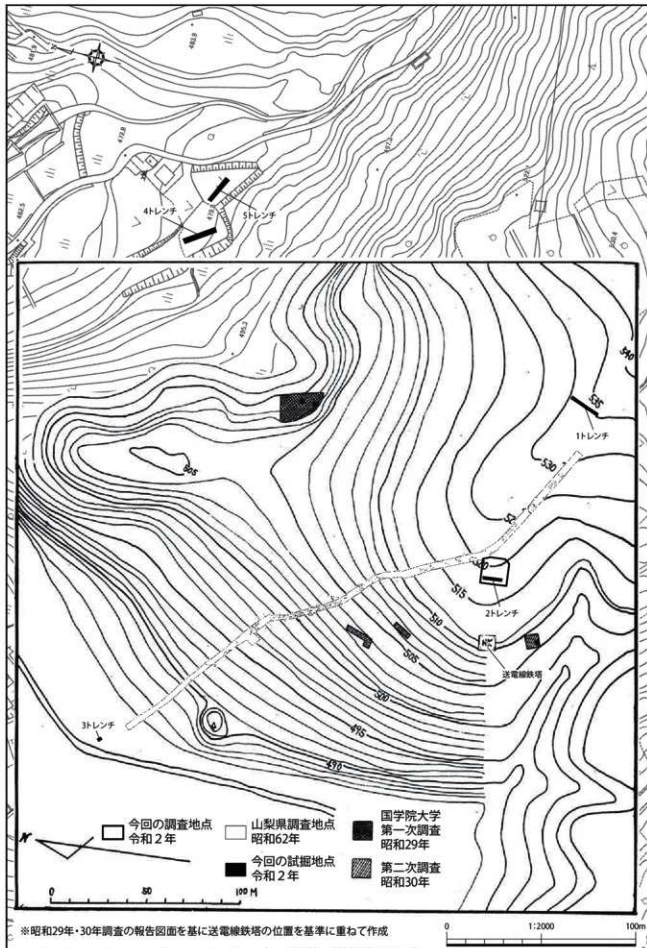


第2図 調査地の位置



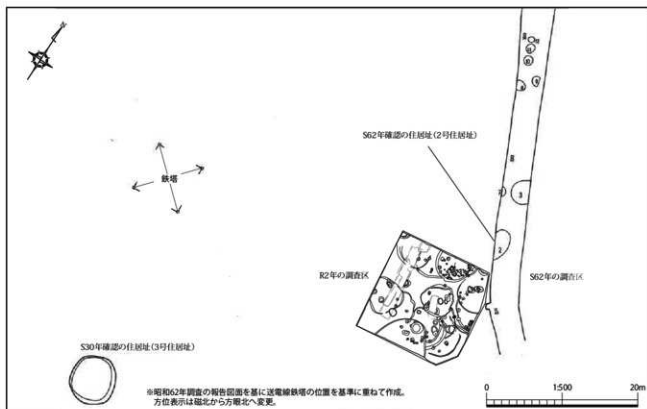
1 花鳥山道跡 ★調査地点

第3図 周辺の遺跡分布



第4図 既存の調査地点(遺跡全体)

器一花鳥山土器（諸磯土器）、北白川下層式土器、類浮島式土器、中期土器一五領ヶ台式土器、晩期土器一亀ヶ岡式土器の出土が報告されている。昭和62年の調査は農道下に水管を埋設する工事に起因する調査である。調査区は台地中央部を縦断し、長さ270mにもおよぶ坂道である。住居址24軒、土坑33基を検出している。遺構分布に粗密があり、調査区上部は疎、中央部が密、最下部50mは無となる。出土する土器は縄文時代前期諸磯b～c式期のものであり、早期の押型文土器や黒浜式併行と考えられる繊維土器なども見られるが、その量はごく僅かであることが報告されている。今回の令和2年調査では、送電線鉄塔建設工事に伴い笛吹市教育委員会による事前の試掘調査が花鳥山遺跡内で5箇所行われている。4箇所の試掘トレンチではごく少量遺物が出土するのみで、遺構の分布は確認されていない。今回本調査が行われた調査区は試掘の2トレンチにあたり、昭和62年調査の上部地区と隣接している。昭和62年調査の2号住居址との距離は5mほどである。また、昭和30年調査の台地西縁の調査区で検出された3号住居址との距離も約40mと近接する。



第5図 既存の調査地点(調査区周辺)

表1 周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代
1	花鳥山遺跡	集落跡	縄文	20	前田遺跡	散布地	縄文・古墳・平安・近世
2	三光遺跡	集落跡	縄文	21	柚木遺跡	散布地	縄文・平安・近世
3	大洲津遺跡	集落跡	縄文・平安	22	久保山遺跡	散布地	縄文・古墳・平安・近世
4	屋遺跡	散布地	縄文・平安	23	北詰寺遺跡	散布地	縄文・平安
5	上坊地遺跡	散布地	縄文	24	牛宮神社遺跡	散布地	平安
6	向田遺跡	散布地	縄文	25	堂ノ入口遺跡	散布地	縄文・平安
7	宮下・瓶光寺遺跡	散布地	奈良・平安・中世・近世	26	藤原古墳	古墳	古墳
8	宮ノ後遺跡	散布地	縄文・古墳・奈良・平安	27	宮原古墳	古墳	古墳
9	中丸遺跡	散布地	縄文・奈良・平安・近世	28	竹石7号墳	古墳	古墳
10	一丁田遺跡	散布地	平安・近世	29	竹石9号墳	古墳	古墳
11	九反田五遺跡	散布地	縄文・古墳・平安・中世・近世	30	竹石9号墳	古墳	古墳
12	櫛ノ木川遺跡	散布地	縄文・中世・近世	31	御崎2古墳	古墳	古墳
13	三ツ沢遺跡	散布地	奈良・平安	32	御崎古墳	古墳	古墳
14	坂下遺跡	散布地	縄文	33	無名墳	古墳	古墳
15	土原遺跡	散布地	縄文	34	無名墳	古墳	古墳
16	深沢上遺跡	散布地	縄文・平安	35	八幡塚古墳	古墳	古墳
17	竹石・御崎遺跡	散布地	縄文	36	二おの塚古墳	古墳	古墳
18	青木川遺跡	散布地	縄文・平安	37	無名墳	古墳	古墳
19	北原遺跡	散布地	縄文・平安・中世・近世	38	高家系祖遺構	桑重	奈良・平安

第3章 調査の方法

第1節 調査の方法

調査区は概ね14mの方形状である。調査区内の区分として10m方眼のグリッドを設定した。北西隅(X=44260m, Y=15270m)を起点として東西に数字、南北にアルファベットの名称を付した。(第7図)。測量成果は世界測地系とした。

着手前の環境整備にのみ重機を使用した。送電線の架線下であり架線からの隔離距離を保ち小型のバックホウ(0.03nl)で作業した。表土掘削は人力で行い、発生土は隣接する事業地内に仮置きした。表土の掘削後、精査を行い遺構の検出を行った。検出遺構は順に番号を付し遺構の掘削・記録を行った。

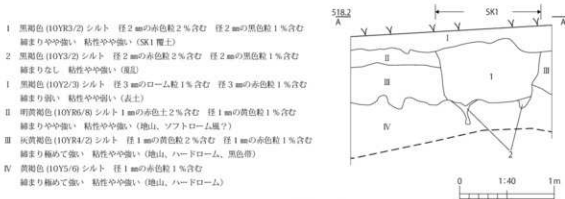
出土した遺物は順に番号を付して、トータルステーションを使用して位置を記録し取り上げを行った。小破片については一括出土遺物として取り上げた。遺構平面図・セクション図・エレベーション図は、トータルステーションを使用して計測し作図した。全体図・微細図はボール撮影の写真も使用し、写真計測も併用して作図した。ドローンによる空中撮影は送電線からの隔離距離を保ち景観撮影を行った。遺構・遺物の記録写真はデジタル一眼レフカメラで撮影した。

整理作業は出土遺物の水洗、注記、接合、実測遺物の選定、実測、計測、トレース、写真撮影、図版作成、調査報告書編集、版下データ作成を行った。遺物の実測は三次元測定機を用いて行った。トレースから調査報告書の版下データ作成までは、デザインソフト等を使用してデジタルデータで行った。遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影した。

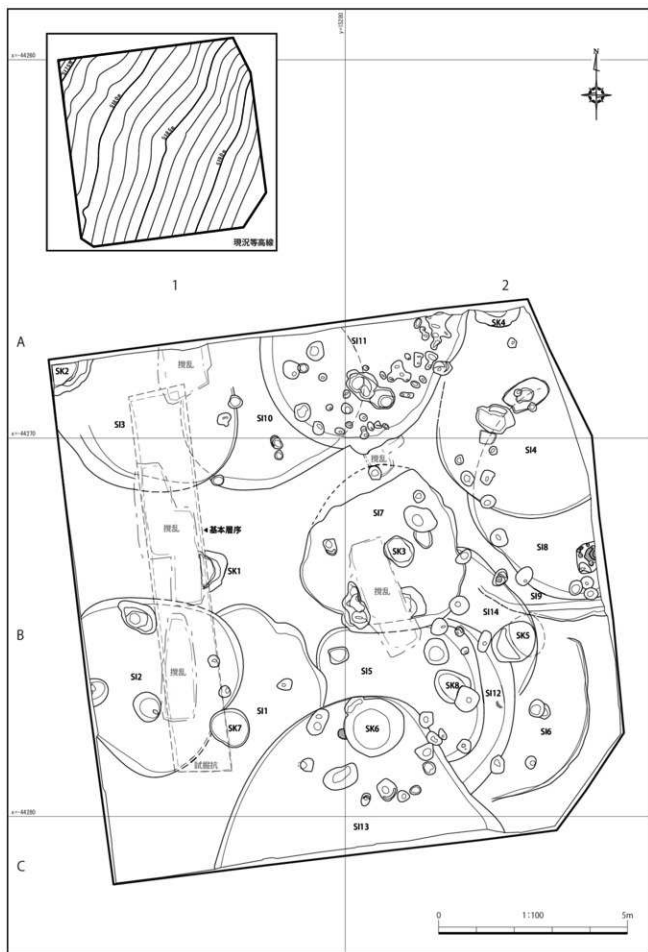
＜使用システム＞トータルステーション TOPCON OS-105。電子平板 Panasonic TOUGHBOOK CF-19。遺構実測支援ソフト CUBIC 社「遺構くん」電子平板対応。写真計測ソフト Agisoft 社「PhotoScan Professional」。デザインソフト adobe 社「illustratorCC」。写真ソフト adobe 社「PhotoshopCC」。編集ソフト adobe 社「InDesignCC」。三次元測定機キーエンス社「3D スキャナ型三次元測定機 VL-350」。

第2節 基本層序

調査区は南東から北西へ向かって下る傾斜地形である。調査範囲の現況標高は517.2m～519.3mである。表土(第6図1層)は厚さ30cmほどで畑の耕作土であるが遺物を包含している。尾根状の傾斜地のため浸食作用を受けており表土下はハードローム層(IV層)となる。一部の範囲ではソフトローム層に似通う土層(III層)を検出しており、浸食されたローム層が再堆積したものということも考えられる。遺構検出面はIII層上面、あるいはIV層上面であるが、一部の遺構はIII層直下から検出している。このためIII層とIV層を掘り込む遺構、III層に覆われIV層を掘り込む遺構、III層が検出されない範囲でIV層のみを掘り込む遺構の3パターンとなっている。基本層序は調査区グリッド1Bの試掘トレンチ壁面で確認した。重機によりローム層を深く掘り込んだ攪乱も利用して確認した(第6図)。



第6図 基本層序



第7図 調査区全体図

第4章 調査の成果

第1節 調査の概要(第7図、写真図版1)

調査区は概ね14mの方形状で、標高が517.2m～519.3mの傾斜地である。検出された遺構は竪穴遺構14基(SI1～14)、土坑8基(SK1～8)である。遺構密度が高く、重複が多い。このため遺構覆土には前後する時期のものが混入して出土している。竪穴遺構の時期は諸磯b主体が11基、諸磯c主体が3基である。少量ではあるが縄文時代早期の土器片や前期中葉・終末期のもの、関西・東海地域と思われる異系統の土器なども出土している。検出された遺物量は整理箱21箱分である。

第2節 遺構・遺物

【遺構】(第8～27図)

1号・2号竪穴、1号・7号土坑(第8～10図)は調査区南西に位置する。

1号竪穴(SI1) 重複が激しく正確な形状・規模は不明である。壁は北東部のみ確認ができた。壁は北西部は2号竪穴に削平されている。南西部は傾斜地形により削平されている。南東部は5号・12号・13号竪穴の複数遺構と重複するため明確に把握できなかった。広く検出された硬化した床面から推測すれば6m前後のプランではないかと思われる。床面では石組を伴わない炉跡を検出した。中央部で7号土坑に床下まで掘り込まれている。諸磯abc、北白川下層II acなどの遺物が出土し、諸磯b古が主体である。深鉢、有孔浅鉢、石鏃、石錐、打製石斧、磨石が出土している。

2号竪穴(SI2) 西側が調査区外に出るため正確な規模は不明であるが、4.7m前後の不正な円形と推定される。重複する1号竪穴の床下まで掘り込み、7号土坑の上部を削平している。硬化した床面は南端以外の広い範囲で検出した。炉跡はないが中央部に大きな攪乱があるため壊された可能性もある。諸磯bcなどの遺物が出土し、諸磯cが主体である。深鉢、有孔浅鉢、石鏃、磨石、大形の黒曜石原石が出土している。原石は床面に突き刺さるようなかたちで出土している。

1号土坑(SK1) 2号竪穴の北側に位置し、重複遺構はない。西側を重機により深く攪乱され半円形に残存する。長辺1.1m、残存短辺0.7m、深さ62cm。諸磯bcの遺物が混在して出土し、諸磯c期の遺構と考えられる。深鉢、石匙、打製石斧が出土している。

7号土坑(SK7) 長辺1.1m、短辺1.0m、深さ15cmの円形である。1号竪穴を床下まで掘り込み、西側の上部を2号竪穴に削平されている。諸磯bの深鉢が出土している。

3号竪穴、2号土坑(第11～12図)は調査区北西に位置する。

3号竪穴(SI3) 北側が調査区外に出るため正確な規模は不明であるが、4.5m前後の円形と推定される。壁は南側でわずかに確認できたが、残りのよい所でも15cmほどである。東側は10号竪穴に削平されている。10号竪穴の床面の下に5～10cmほどの深さで検出した。西側は傾斜地形により削平され、2号土坑が床下まで掘り込んでいる。北側と南側は重機により深く攪乱を受けている。炉跡はないが壊された可能性もある。硬化面は広く検出したがやや弱い。諸磯bが出土し、諸磯b新が主体である。深鉢、浅鉢、ミニチュア土器、石鏃、石錐、石匙が出土している。

2号土坑(SK2) 本体は調査区外側と思われる。南東側を扇形に検出した。検出範囲は長辺1.2m、短辺1m、深さ40cmである。3号竪穴の床面を掘り込んでいる。諸磯bの深鉢が出土している。

4号竪穴、4号土坑(第13～14図)は調査区北東に位置する。

4号竪穴(SI4) 東側が調査区外に出るため正確な規模は不明であるが、5m前後の円形と推定される。壁は南西側でわずかに確認できたが、残りのよい所でも15cmほどである。北側は傾斜地形により削平され

ている。南側は8号竪穴を掘り込むかたちで重複するが、4号竪穴の床面の方がやや高い。炉が2箇所検出されている。諸磯b、清水ノ上Ⅱ上の坊、北白川下層Ⅱbなどの遺物が出土し、諸磯b中が主体である。深鉢、石鏃、スクレイパー、石匙、打製石斧、磨石が出土している。

4号土坑(SK4) 4号竪穴の北側に位置し、重複遺構はない。北側が調査区外に出るため正確な規模は不明である。南側を半円形に検出した。検出範囲は長辺1.2m、短辺0.4m、深さ30cmである。諸磯bcの深鉢、石鏃が出土している。

5号・6号・12号・14号竪穴、5号・6号・8号土坑(第15～18図)は調査区南東に位置する。調査区内で最も重複が激しく複雑なために、先ずは各遺構の切り合い関係の概観を述べる。竪穴はいずれも正確な形状・規模が不明であり、その重複関係は床面や部分的に検出できた壁面から判断している。6号竪穴は他の遺構よりも床面が一段高く最も新しい。5号竪穴の床面は7号よりもやや高いが、直接の切り合いが確認できていない。5号・7号の下に12号の床面を検出している。14号の床面は12号と明確な高低差を持っていないが、部分的に検出できた壁面の位置から考え12号の方が新しいと判断した。土坑の重複関係は5号土坑が14号竪穴の床下、6号竪穴が12号竪穴の床下である。8号土坑は12号竪穴の床面で検出したが、切り合い関係は確認できていない。また、6号土坑は12号竪穴の床下から検出した13号竪穴の硬化面を掘り込んでいたため、13号竪穴よりは新しいと考えられる。

5号竪穴(SI5) 重複が激しく正確な形状・規模は不明であるが、5m前後の規模と推定される。壁は北東、東側の2箇所でのみ15～30cmの深さで検出した。東側の上部は6号竪穴に削平され、12号竪穴中央部の上層を掘り込んでいる。北側で7号竪穴と隣接するが接点に重機による大きな攪乱があるため切り合い関係が不明確である。土層観察では5号と7号の間にローム土層で土留めをして壁を作っているような箇所が検出されている。先に埋没していた12号竪穴の覆土に加え、5号竪穴か7号竪穴のどちらかの覆土が重なるために壁面形成時に補強の必要があったと考えられる。5号竪穴の方が壁面のカーブを持って検出している印象がある。また、5号竪穴東側の床面には12号竪穴の覆土の上にローム土層を敷いている箇所も認められることから、5号竪穴の方が新しい可能性がある。諸磯abc、北白川下層Ⅱbなどの遺物が出土し、諸磯b中の古手が主体である。深鉢、浅鉢、埴形、石鏃、石錐、打製石斧、磨石、石鏃、スクレイパー、石匙、磨製石斧、磨石、石皿が出土している。床面では台石も検出している。

6号竪穴(SI6) 重複が激しく正確な形状・規模は不明であるが、6m前後の規模と推定される。壁は南東側5mほどの範囲で、壁高15～20cmで検出した。北側と西側は傾斜地形により削平されている。床面は5号・12号・14号竪穴の上層を掘り込む。被熱した石と焼土が50cmほど離れて検出されている。諸磯bc、前期終末期、北白川下層Ⅱbなどの遺物が出土し、諸磯c古が主体である。深鉢、有孔浅鉢、壺形?、石鏃、スクレイパー、石匙が出土している。

12号竪穴(SI12) 重複が激しく正確な形状・規模は不明であるが、5m前後の規模と推定される。壁は南東側3mほどの範囲でのみ40cmほどの深さで検出した。南の上部は6号竪穴、中央の上部は5号竪穴に削平され、13号竪穴の北部の上層と14号竪穴の西部を掘り込んでいる。床面で8号土坑、床下で6号土坑が検出されている。炉跡は2箇所検出されている。諸磯ab、北白川下層Ⅱaなどの遺物が出土し、諸磯b古が主体である。深鉢、有孔浅鉢、ミニチュア土器、石鏃、石錐、磨石が出土している。

14号竪穴(SI14) 重複が激しく正確な形状・規模は不明である。壁は東側2mほどの範囲でのみ40cmほどの深さで検出した。南東の上部は6号竪穴、北東は9号竪穴、北西は7号竪穴、南は12号竪穴に削平されている。床下で5号土坑が検出されている。炉跡は1箇所検出されている。諸磯abc、北白川下層Ⅱaなどの遺物が出土し、諸磯b古が主体である。深鉢、浅鉢、石鏃、石錐が出土している。

5号土坑(SK5) 14号竪穴床面精査時に検出した。上端から50cm下で焼土が広がる面を検出し、70cm下で段が付く。以下は東側に斜めに潜り込むように1.2mまで下がり、平らな底面となる。上端は長辺1.3m、短辺1m、下端は長軸が90°回転して、長辺1.1m、短辺0.9mである。遺物は上端から20～

40cmに集中し諸磯 ab、北白川下層Ⅱ cなどの遺物が出土している。最上部の一括遺物として諸磯 cも1点出土しているが、諸磯 b古が主体である。焼土範囲下は遺物が稀少であるが、上端下50cmで3点、110cmで2点出土しており、どちらも諸磯 bの爪形土器と縄文のみ施文の破片の組み合わせである。深鉢、土製円盤、石錐が出土している。

6号土坑(S K 6) ビット1壁面精査時に判明し、12号竪穴の貼り床下から検出した。ビット1に切られる。長辺1.6m、短辺1.4m、深さ85cmの円形である。底面は平らである。13号竪穴を切っている。遺物は小破片が4点しか出土していない。諸磯の深鉢胴部片である。

8号土坑(S K 8) 12号竪穴の床面精査時にビット7に切られる関係で検出した。長辺0.9m、短辺0.8m、深さ15cm。諸磯abが3点出土している。いずれも小破片のため図示してはいないが、1点目は3cmの胴部片、諸磯 aの鉢胴部片のようである。無文帯を区画するために引かれる横位の結節沈線がわずかに見られる。内面は磨かれている。2点目は3cmの胴部片、ややよく焼き締まる。極粗い縄目か、あるいは半截竹管の刺突かが施文されている。3点目は2cmの胴部片で無文である。内面が厚みを持ちカーブし始めているところは底面との接点のようである。

7号竪穴、3号土坑(第19～20図)は調査区中央に位置する。

7号竪穴(S I 7) 重複が激しいがおおよそ4.5mほどの円形を呈する。壁は15～30cmの深さで検出した。北西部は傾斜地形により削平されている。南の端は5号竪穴と接するが、接点が重機により大きく攪乱されているため切り合い関係が不明確である。南東側で14号竪穴を掘り込んでいる。中央部で3号土坑に床下まで掘り込まれている。諸磯 ab、鶴ヶ島台、北白川下層Ⅱ aなどの遺物が出土し、諸磯 b中の古手が主体である。深鉢、浅鉢、石鏝、石錐、打製石斧、磨石が出土している。

3号土坑(S K 3) 長辺0.8m、短辺0.7m、深さ75cmの円形である。7号竪穴を床下まで掘り込み、わずかではあるが東端は重機による深い攪乱を受けている。諸磯 abcなどの遺物が出土し、諸磯 cが主体になると考えられる。深鉢、浅鉢、石鏝、砥石が出土している。

8号・9号竪穴(第21～22図)は調査区東に位置する。

8号竪穴(S I 8) 重複が激しく、東側が調査区外に出るため正確な形状・規模は不明であるが、6m前後の円形と考えられる。壁は南西側を15～30cmほどの深さで検出した。北側は4号竪穴に掘り込まれている。南側で9号竪穴を掘り込んでいる。重複する1号竪穴の床下まで掘り込み、7号土坑の上部を削平している。硬化した床面は広い範囲で検出した。炉跡は南側で、西半分を検出した。柱穴は壁際をめぐるように検出した。諸磯 abc、釈迦堂 Z3、北白川下層Ⅱ cなどの遺物が出土し、諸磯 b古が主体である。深鉢、人形土製品、石鏝、石匙、磨製石斧、石皿、水晶結晶が出土している。

9号竪穴(S I 9) 重複が激しく正確な形状・規模は不明である。壁は東側2mほどの範囲でのみ40cmほどの深さで検出した。北側の大半を8号竪穴に床下まで掘り込まれている。南西側は9号竪穴が14号竪穴を掘り込んでいる。諸磯 bcなどの遺物が出土し、諸磯 b古が主体である。深鉢、浅鉢、石鏝、スクレイパー、石匙、打製石斧、磨石が出土している。

10号竪穴(第23～25図)は調査区北に位置する。

10号竪穴(S I 10) 重複が激しく、北側が調査区外に出るため正確な形状・規模は不明であるが、5m前後の規模と推定される。壁は南東側3mほどの範囲でのみ30～40cmほどの深さで検出した。西は3号竪穴、東は11号竪穴の上部を掘り込み、重複範囲にはローム土層で床を貼っている。覆土中に礫が集中する範囲を、床面で炉跡を検出した。諸磯 abc、前期終末期、鶴ヶ島台、北白川下層Ⅱ bなどの遺物が出土し、諸磯 cが主体である。深鉢、有孔浅鉢、ミニチュア土器、石鏝、石錐、石匙、磨製石斧、打製石斧、磨石、石皿、垂飾が出土している。

11号竪穴(第23～25図)は調査区北に位置する。

11号竪穴(S I11) 重複が激しく、北側が調査区外に出るため正確な形状・規模は不明であるが、5m前後の規模で楕円か方形と推定される。壁は東側5mほどの範囲でのみ50～70cmほどの深さで検出した。西側の上部は10号竪穴に掘り込まれている。炉跡は2箇所検出されている。硬化した床面は広い範囲で検出した。諸磯ab、前期終末期、鶴ヶ島台、黒浜、釈迦堂Z3類型、北白川下層II aなどの遺物が出土し、諸磯b古が主体である。深鉢、浅鉢、石鉢、石匙、磨製石斧、磨石、石皿が出土している。

13号竪穴(第26・27図)は調査区南に位置する。

13号竪穴(S I13) 重複が激しく、南側が調査区外に出るため正確な形状・規模は不明であるが、6m前後の規模と推定される。壁は南東側1.5mほどの範囲でのみ20～50cmほどの深さで検出した。上部を1号竪穴と12号竪穴に削平され、6号土坑には床下まで掘り込まれている。床面の硬化は顕著で広い範囲で検出した。諸磯ab、黒浜、釈迦堂Z3、などの遺物が出土し、諸磯b古が主体である。深鉢、焼成粘土塊、石鉢、石匙、磨製石斧、磨石、石皿が出土している。

【土器】(第28～49図)

1号竪穴(第28・29・48図) 諸磯abc、北白川下層II acなどの土器が出土し、諸磯b古が主体である。1～14は深鉢、15は有孔浅鉢である。1は半載竹管の沈線による木葉文、地文に縄文がみられる部分あり。2は口縁部、外傾し開く、口唇部が外側に肥厚する。口縁部上端に横位の連続爪形文を施文、口縁部に横位の無文帯を区画するものか。内外ともよく磨かれている。1・2は諸磯aである。3は口縁部、平口縁、半載竹管により横位に押し引いた沈線が口縁に1条巡り、以下に半載竹管による鋸歯状モチーフか。4は口縁部、口縁部が開く、口唇部に爪形文による刻み目を巡らせ、口縁部は縄文を施文。5は胴部、文様は無節縄文で縄文とみられる痕あり。内面指頭圧痕が並ぶ。6は底部、底部の張り出しは目立たない、胴部外面に縦方向の羽状縄文を施文。底面には木葉痕の上に縄文が重なる。3～6は諸磯bであろう。7は胴部、口縁部文様帯に円形竹管文と連続爪形文による波状モチーフ。8は胴部、地文に縄文を施し、横位の連続爪形文2条。9は口縁部、平口縁、口唇部に連続爪形文を巡らす、地文縄文、横位の連続爪形文2条、その下に波状モチーフか。内面磨き。10は口縁～胴部、平口縁、外傾しながら広がり口唇部で内湾する。地文に縄文を施文し、口縁部文様帯として2～3条の横位の連続爪形文で区画し、複合した波状のモチーフを描く。7～10は諸磯bの爪形文土器である。11は口縁部、波状口縁、口唇部は一部内湾する、文様は無文。12は口縁部、波状口縁で波頂部が張り出す、口縁部は急角度に内折する、地文に縄文を施文す。13は胴部、地文に縄文を施文し、半載竹管とみられる横位の平行沈線3段。12・13は諸磯bの沈線文土器である。14は波状口縁の破片か。文様は貼り付けた粘土紐に半載竹管による押し引きを2条施文、平行沈線による弧状文。諸磯cであろう。15は諸磯bの有孔浅鉢である。口縁部、器形は口縁部内湾する、口縁部に穴を囲む弧状の浮線2条を施文、肩部に刻み目を巡らす。

2号竪穴(第29図) 諸磯bcなどの土器が出土し、諸磯cが主体である。1～15は深鉢、16・17は有孔浅鉢である。1は口縁部、口縁部開く、ヘラで斜めに刻まれる太い浮線文と内側がやや盛り上がる幅の狭い爪形文を横位に施文。2は口縁部、波状口縁で口縁部が内湾する、地文に縄文を施文し、ヘラで斜めに刻まれる太い浮線文で弧線が描かれる。3は胴部、地文に縄文を施す。ヘラで斜めに刻まれる浮線文で弧線文が描かれ、横位に区画される。1～3は諸磯bの浮線文土器である。4は口縁部、器形は口唇部小突起貼り付け、地文に縄文を施文し、横位の半載竹管による沈線2条。5は口縁部、波状口縁、波状の最低部のため口唇の内折が短い、地文に縄文を施文し横位沈線。4・5は諸磯bの沈線文土器である。6は胴部、羽状縄文を施す。諸磯a～bであろう。7は底部、半載竹管による横位の平行沈線。8は口縁部、波状口縁、地文に半載竹管

による平行沈線で矢羽根状沈線を施し、ボタン状貼付文と3本単位の棒状貼付文を施文。口唇部と棒状貼付文上を半載竹管状の工具で刺突する。9は胴部、口縁部文様帯は地文半載竹管による沈線を施文し、ボタン状貼付文と棒状貼付文上には半載竹管上の工具で刺突、胴部は縦位の沈線、胎土に金色雲母多い。10は胴部、膨らみがすぼまっていく胴部の下半か？、半載竹管による平行沈線を横位の下に縦位に施文。11は口縁部、波状口縁、地文に半載竹管による平行沈線と矢羽根状沈線を施す。口唇部に結節沈線文、口縁部に2個1組のボタン状貼付文と3本単位の結節浮線文を施文。内面は磨かれている。12は口縁部、口唇部やや肥厚、地文に矢羽根状沈線を施文、2個1組のボタン状貼付文を施す。13は胴部、地文半載竹管による平行沈線で横方向の矢羽根状文と縦方向の沈線文、2個1組のボタン状貼付文。14は胴部、地文に縦方向の矢羽根状沈線文を施文、2本単位の結節浮線文、2個1組のボタン状貼付文、器壁は5～6mmと薄い。15は深鉢、口縁部、波状口縁、地文に半載竹管による平行沈線で矢羽根状沈線文を施す。管の内面を使用した結節沈線文で口唇部に1条巡らし、口縁部には3本単位で縦位に施文。7～15は諸磯cである。16は有孔浅鉢胴部である。口縁部と胴部が張り出し、胴部に段を持つ、無文、外面は磨かれている。17は有孔浅鉢口縁部である。16・17は諸磯b～cであろう。

3号竪穴(第30図) 諸磯bなどの土器が出土し、諸磯b新が主体である。1～4は深鉢、5は浅鉢、6はミニチュア土器である。1は胴部、地文に縄文を施文し、横位と斜位に低い浮線文を施す。浮線文は体部と異なる白色粘土を用いる。浮線文上の斜位の刻みは浮線一本ごとに刻み方向が交互に換わる。2は口縁部、波状口縁、口縁部が外に張り出し、口唇部が急角度に内折、波頂部先端は欠損、地文を縄文とする、胴部には横位の条線が2段。3は口縁部、波状口縁、口唇部内折する。地文に縄文を施文し、横位の沈線を施す。4は胴部、地文に縄文を施文した後に棒あるいは竹管状工具でナデ調整、後に半載竹管による横位の沈線を2段施す。1は諸磯b浮線文土器、2～4は諸磯b沈線文土器である。5は浅鉢底部である。底部がやや張り出す。6はミニチュア土器である。壺形か、口縁部、半載竹管による横位と斜位の沈線。

4号竪穴(第31・48・49図) 諸磯b、清水ノ上Ⅱ・上の坊、北白川下層Ⅱbなどの土器が出土し、諸磯b中が主体である。1～12は深鉢である。1は胴部、ややくびれる、全体に縄文を施文する。縄の結節回転文が横方向に複数ある。諸磯bの古手であろう。2は口縁部、ゆるく内折する。地文に縄文を施文し、横位の連続爪形文で区画、下に弧状文で文様を描く。3は口縁部、低い波状口縁。地文に縄文を施文し、横位の連続爪形文で区画、下に波状モチーフを描く。胎土金色雲母多い。4は胴部、外面を磨いた後に横位の連続爪形文で区画、横位・斜位の文様を描く。2～4は諸磯bの爪形文土器である。5は口縁部、口縁部がゆるく内折する。地文は縄文、口唇部に刻み目が並ぶ、口縁部上部には横位の浮線文が4条巡る、浮線文はいずれもヘラで斜めに刻まれる。内面穴中に種実圧痕としてササゲ属アズキ亜属の炭化物が詰まる。6は胴部、ゆるくくびれる。口縁部から胴部の地文を縄文とする横位の沈線。7は口縁部、波状口縁、口縁部は外傾し口唇部で内折する。地文に羽状縄文を施文し、横位に低い浮線文を複数段巡らし間に渦巻文を描く。浮線文は体部と異なる白色粘土を用いる。浮線文上の斜位の刻みは浮線一本ごとに刻み方向が交互に換わる。8と9は4単位の波状口縁の一部で同一個体と思われる。口縁部、波状口縁、口縁部が大きく張り出し強く内折する。波頂部に突起を付ける。地文に縄文を施文し、低い浮線文により口縁部に入組渦巻文、以下に横位に段を巡らし、間に格子状文を描く。浮線文上の斜位の刻みは浮線一本ごとに刻み方向が交互に換わる。9は炉2から炉体のように出土している。5～9は諸磯bの浮線文土器である。10は口縁部、波状口縁、口縁部が張り出し強く内折する。地文に無節縄文を施文し、波頂部に突起を貼り付ける。11は口縁部、波状口縁、口縁部が張り出し強く内折する。地文に無節縄文を施文し、波頂部に突起を貼り付ける。12は胴部、外傾し口縁部内折か。羽状縄文を施文。10～12は諸磯bである。

5号竪穴(第31～33・49図) 諸磯abc、北白川下層Ⅱbなどの土器が出土し、諸磯b中の古手が主体で

ある。1～16は深鉢、17～21は浅鉢、22は鉢または埴形である。1は口縁部、平口縁。口唇部に突起、口縁部上端に横位の連続爪形文、以下に縦位の円形竹管文と横位の木葉肋骨文がある。口唇部にスス付着、胎土に金色雲母多い。2は口縁部、無節縄文を施文。内面は調整してあるが指頭痕の凹凸が残る。胎土に金色雲母多い。1・2は諸磯aである。3は口縁部、外反し開く。地文に縄文を施文。横位沈線で口縁を縁取り、弧状の沈線で文様を描く。内面は磨かれている。胎土に金色雲母が多い。3は諸磯a～bの古手であろう。4は口縁部、外傾し開く。口唇部に斜めの刻み目を付ける。口縁部に横位の爪形文を施文。胎土に金色雲母多い。5は胴部、地文に縄文を施文、縄の結節回転文が横方向にみえる。3条の連続爪形文を横位に施す。6は口縁部、口縁部は外反して開き、口唇部が内折する。内折面上に三角の小突起と粘土紐を貼り付け、内折角に刻み目を付ける。口縁部を連続爪形文で2段に区画し、鋸歯状と戴手状のモチーフを描く。7は口縁部、外傾し開く。口唇部上面に爪形文、両角にも斜位の刻み目を付ける。口縁部は4条の横位の連続爪形文で区画し、波状のモチーフを描く。4～7は諸磯b爪形文土器である。8は口縁部、ゆるく内湾する。地文に縄文を施文、口唇部に横位の太い浮線文が巡り、下に浮線文による弧線文が施される。浮線文はいずれもへらで斜めに刻まれている。内面に種実圧痕の可能性が高い痕跡があり分析中。9は胴部、横位と斜位の太い浮線で文様を描く。浮線文上の刻み目の付け方が粗い。8・9は諸磯b浮線文土器である。10は口縁部、波状口縁、口縁部ゆるく内湾する。地文に縄文を施文する。半截竹管による横位沈線で区画し、斜位沈線で文様を描く。11は口縁部、波状口縁、口縁部内湾する。口唇部に斜めの刻み目を付け、地文に縄文を施文する。半截竹管による横位の沈線で区画し、斜位沈線で文様を描く。以下は数条の横位沈線で段を巡らす。12は口縁部、口縁部がゆるく内湾する、口唇部に半截竹管による爪形文が並ぶ、口縁部上端から横位・斜位・横位の沈線が巡る。13は口縁部、内湾する。半截竹管による沈線で横位に区画し、渦巻き文と弧状線を描く。14は口縁部、波状口縁、口縁部は張り出して口唇部が内折。地文に縄文を施し、波頂部の下にボタン状文を貼り付け、半截竹管による沈線で渦巻状に向かい合う弧状線を描く。張り出し下部には横位沈線を施文。15は胴部、半截竹管による沈線を斜位、横位、弧状に施す。10～15は諸磯b沈線文土器である。16は口縁部、外反して開く、口唇部に細い刻み目を付ける。半截竹管による沈線で横位に区画し、横方向の矢羽根状に沈線を地文として、刺突のあるボタン状貼付文と2本1組の刻みのある棒状貼付文を施文する。諸磯cである。17～21は浅鉢である。17は胴部、胴部張り出す。張り出し部に斜めの刻みのある浮線を横位に2条施す。上下には半截竹管による斜位と渦巻状の沈線を施文する。18は胴～底部、胴部が2段に張り出す器形の下段以下の部分。斜めの刻み目を付け浮線文状にした張り出し部の角と、下部の横位浮線とを合わせて横位の文様帯を区画し、沈線で入組木葉文を描く。胎土に金色雲母が多い。19は口縁～胴部、口径31cm位。口唇部と肩の角に斜めの刻み目、口縁部浮線による波状文が施される。胴部無文、外面に種実圧痕の可能性が高い痕跡があり分析中。外面には赤彩が残る、胴部に焼成後の補修孔あり。20は胴部、2段に張り出す。くびれ部を挟んで2条の横位浮線を施す。浮線上の斜めの刻みは反転する。胎土に金色雲母が多い。21は口縁部、口縁部は張り出して、口唇部が内折する。無文。17～21は諸磯bである。22は鉢または埴形である。口縁部無文、胴部縄文、内面磨き。諸磯bであろう。

6号竪穴(第34・35・49図) 諸磯bc、前期終末期、北白川下層Ⅱbなどの土器が出土し、諸磯cが主体である。1～16は深鉢、17～20は有孔浅鉢・浅鉢である。21は壺形であろうか。1は口縁部、波状口縁か、口唇部に一部くぼみ。口唇部2本1組の丸い棒状工具による連続押圧文、口縁部縄文、内面は磨かれている。2は口縁部、波状口縁。口縁部やや内湾し、口唇部肥厚する。口唇部斜めの刻み目、口縁部半截竹管を直角に刺突する爪形文。連続爪形文に挟まれた部分が浮線化し斜めの刻みが付けられる。3は口縁部、外傾し先端が内折する。内折部に半截竹管を反転させ二度押しした円形竹管文を施文。以下は地文に縄文を施し、横位の沈線。4は口縁部、やや内湾する。半截竹管による横位の沈線を施文。1～4は諸磯bの古手であろう。5は口縁部、やや内湾する。地文に縄文を施し、へらで斜めに刻む太い浮線文で弧線文が描かれる。6は口縁部、波状口縁、口縁部つよく内湾する。地文に縄文を施し、へらで斜めに刻みを付けた

太い浮線文で横位に区画し、弧状の浮線文で文様を描く。7は胴部、くびれた胴部は口縁に向かい開きながら、やや内湾して行く。地文に縄文を施し、ヘラで斜めに刻まれる太い浮線文で弧線文が描かれる。8は胴部、地文に縄文を施し、ヘラで斜めに刻みを付けた低い浮線文を斜位と横位に施す。5～8は諸磯b浮線文土器である。9は底部、底面がわずかに張り出す。無文。10は口縁部、波状口縁。地文は半截竹管による平行沈線で斜位の沈線文。2個1組のボタン状貼付文、5本の棒状貼付文、その上を半截竹管状の工具で刺突を施す。11は口縁部、波状口縁。地文に横方向の矢羽根状沈線文を施し、口縁部を2条の結節文で縁取る。外側の1条は口唇部の角の高まりに直に施した結節沈線文である。口縁部文様帯には縦方向の結節浮線文と2個1組のボタン状貼付文を施す。12は胴部、縦位の沈線と縦方向の矢羽根状沈線を施す。2個1組のボタン状貼付文は施文密度が高い。13は胴部、縦位沈線で区画し縦方向の上下に対向する矢羽根状沈線とレンズ状沈線でうめる。14は胴部、上方が開き中間でくびれて下方はすぼまる。縦方向の沈線で区画し、縦方向に2段のレンズ状や上下に対向する矢羽根状のモチーフを描く。ボタン状貼付文は見られない。10から14は諸磯cである。15は口縁部、波状口縁、口縁部は外反し口唇部が肥厚する。口唇の肥厚部上を管の内面を使用した結節沈線文で、その内側を管の外面を使用した結節沈線文でそれぞれ施し口縁部を縁取る。以下には4本単位の結節沈線文で渦巻文を描く。その下に結節沈線文で双環状渦巻文を描く。内面は磨かれている。16は口縁部、口唇部に突起が割られた長方形の横位区画文。以下は縄文施文。15・16は前期終末期である。17は諸磯bの有孔浅鉢である。口縁部、ヘラで斜めに刻みを付けた太い浮線が上端に3条、下部に1条施文される。外面は磨かれている。内外面の一部に黒漆附着か。18は浅鉢、口縁部、内外面赤彩。外面は磨かれている。19は有孔浅鉢、口縁部、口唇部が立ち上がり、胴部は下方向に膨らむ。外面は磨かれている。20は浅鉢、底部、器形は胴部に浅い段がつく。底部が丸底、内面赤彩。21は壺形か、口縁部、口径4cm位、口唇部に小突起あり。口縁部内傾し、口唇部と内面は黒色、口縁部上端に赤彩。以下は縄文を施し透かし彫り。諸磯～十三菩提、あるいは晩期であろうか。

7号竪穴(第35～37・48・49図) 諸磯ab、鶴ヶ島台、北白川下層IIaなどの土器が出土し、諸磯b古が主体である。1～15は深鉢、16は浅鉢である。1は胴部、半截竹管による沈線で肋骨文を描く。外面にスス附着か、金色雲母多い。2は口縁部、波状口縁か。口唇部に突起貼り付け。半截竹管による結節沈線文を横位と斜位に施す。3は口縁部、やや内湾する。先を尖らせた半截竹管を刺突したような、狭いが深い爪形文を横位に2条施し、区画の下には縄文を施文する。4は胴部、地文に縄文を施し、横位の連続爪形文施文。内面にススが横位に幅2cmほどの带状に附着する。12は口縁部、平口縁。口径は30～35cm位で外傾してひらく。地文に縄文を施文し、半截竹管による8条の横位平行沈線を引き、下に太い沈線で木葉文を描く。文様間は地文を磨り消し。内面は磨かれている。1～4・12は諸磯aである。5は口縁部、やや内湾する。地文に縄文を施文し、横位の太い浮線、下に沈線で木葉文を描く。6は胴部、外反し広がる。格子状の連続爪形文の中に円形竹管文を配置する。縦位の隆帯を挟んで連続爪形文を施文し、隆帯中央を縦位連続爪形文で囲ませて2条の平行した浮線を出している。2条の浮線上には矢羽根状に対向する斜位の刻み目を付ける。7は胴部、地文に縄文を施文する。連続爪形文に挟まれた部分が浮線化し、斜めの刻みが付けられている。刻み目の付け方は粗い。内面は磨かれている。8は口縁部、波状口縁、波頂部下に焼成前の穿孔がある。口縁に沿って2条の連続爪形文を施文する。5～8は諸磯bの古手であろう。9は口縁部、やや内湾する波状口縁。口唇部の波頂部では、ひも状粘土により小突起を複数貼付け、波頂部以外には刻み目を付ける。口縁部は3～4条の連続爪形文で横位に区画し、以下波状モチーフを描く。内面は磨かれている。胎土に金色雲母多い。10は胴部、外反し広がる。連続爪形文で横位に区画し木葉文に類するような施文がみられる。内面は磨かれている。9・10は諸磯b爪形文土器である。11は諸磯bの浮線文土器である。地文に縄文を施文する。ヘラで斜めに刻みをつけた浮線で横位に区画し、渦巻文を描く。13は欠損部があるが口縁から底部まで残存。口縁部は外反し、胴部はくびれる。口唇部の刻みには縄の目が付く。地文に縄文を施文する。半截竹管により口縁4条、頸部2条の横位沈線で区画し、内部に鋸歯文や弧状文を描く。14は胴部、地文

に縄文を施文、半截竹管による弧状の沈線で文様を描く。Pit6 から出土している。13・14 は諸磯 b 沈線文土器である。15 は底部、外面と底面に縄文を施文する。16 は諸磯 b の浅鉢、口縁～胴部。口唇部の返しはなく、口縁部と胴部が2段に張り出す。ヘラで斜めに刻みを付けた太い横位の浮線と、張り出し部の先端に巡らせた斜めの刻みで区画し、口縁部の張り出し上面と胴部の下面に刻みのある沈線で弧状と鋸歯状モチーフを描く。木葉文の残存であろう。口縁の一部に赤彩が残る。

8号竪穴(第38・49図) 諸磯 abc、釈迦堂 Z3、北白川下層 II c などの土器が出土し、諸磯 b 中が主体である。人形土製品も出土している。1～13 は深鉢である。1 は諸磯 a の深鉢底部である。羽状縄文を菱形文状に施文する。胎土に金色雲母が多い。繊維は含まない。2 は口縁部、外反して開く。横位の連続爪形文と楔状の刺突文で口縁を縁取る。弧状の爪形文と縦位の沈線で描く文様は波状のモチーフか。内面は磨かれている。胎土に金色雲母が多く含まれる。3 は胴部、連続爪形文で波状モチーフを描く。2・3 は諸磯 b 爪形文土器である。4 は口縁部、波状口縁、ゆるく内湾する。口唇部に突起を貼り付け、地文に縄文を施文する。ヘラで斜めに刻みを付けた太い浮線を口縁と並行に施し、以下に縦位に施文する。5 は口縁部、ゆるく内湾し、口唇部突起の下に焼成前穿孔の穴が付く。口唇部に刻みを付け、地文に縄文を施文する。3条の横位浮線で口縁を縁取り、以下に縦位浮線などで文様を描く。浮線には網目が付けられている。穴の穿孔は浮線施文後で、内外両側から施されている。6 は口縁部、口縁部が張り出して強く内湾し、波頂部の口唇部が強く外反する。口唇部を半截竹管と細い円形竹管を用いた3種の刺突文で縁取る。口縁部は細い浮線と細い円形竹管の刺突で横位に区画し、渦巻文を描く。口縁張り出し部の下面は太い浮線と半截竹管による沈線を横位に巡らせる。7 は胴部、地文に縄文を施文し、横位の低い浮線を2条施す。2条の浮線上の斜位の刻みは方向が反対となる。4～7 は諸磯 b 浮線文土器である。8 は口縁部、内湾する。地文に縄文を施文し、横位と斜位の沈線で文様を描く。厚みのムラが目立つ。9 は口縁部、波状口縁。口縁は張り出し、強く内湾する。地文に縄文を施文する。半截竹管による沈線で口縁を縁取り、口縁の張り出しをまたいで弧状の文様を描く。以下には横位の沈線で段を付ける。10 は口縁部、波状口縁の低い位置にあたる。口縁部が外反し、口唇部が内折する。地文に縄文を施文し、横位の沈線を施す。8～10 は諸磯 b 沈線文土器である。11 は諸磯 b の深鉢口縁部である。波状口縁、口縁は張り出し、強く内折する。縄文を施文し、胎土には金色雲母が多い。12 は諸磯 c の深鉢胴部である。ゆるくくびれ、半截竹管による沈線で縦のレンズ状や、上下に向かい合う矢羽根状のモチーフを描く。下部は斜位の沈線がみられ、横方向の矢羽根状になるか。2個1組のボタン状貼付文は施文密度が高い。13 は諸磯 c 新の深鉢口縁部である。波状口縁、底部から外反して開く。2個1組のボタン状貼り付け文以外は沈線で施文される。双環状渦巻文を描き、下に半弧モチーフが並列する。

9号竪穴(第39図) 諸磯 bc などの土器が出土し、諸磯 b 古が主体である。1～7 は深鉢、8・9 は浅鉢である。1 は口縁部、外傾し開く。口唇部に小突起を貼り付け、口縁部に大きな爪形文で横位に4条を連続施文する。2 は胴部、横位の沈線を施文し、連続爪形文を横位に4条施す。3 は胴部、地文に縄文を施す。横位と斜位の連続爪形文を施文し、文様間は地文を磨り消す。爪形文は小さめで原体を器面に直角に刺突する。胎土が脆いのは焼成不良か。4 は口縁部、外傾し開く。平行する浮線文と連続爪形文を用いて施文する。横位の高い浮線にはヘラで斜めに刻みを付け、弧状の低い浮線には爪形文が施される。内面は磨かれている。1～4 は諸磯 b の古手であろう。5 は諸磯 b 浮線文土器口縁部である。口縁部が張り出し、口唇部が内折する。地文に縄文を施文し、半截竹管による沈線で口縁を縁取る。張り出し部を跨いで斜位に沈線を施し、以下は横位に巡らす。6 は諸磯 b の深鉢口縁部である。口径60cm位の波状口縁か。口縁部は張り出し、口唇部が内折する。羽状縄文を施文する。7 は諸磯 c の深鉢口縁部である。口唇部は角を半截竹管による押し引きで縁取る。口縁部は横位の矢羽根状に沈線を施し、縦位の結節浮線文を施文する。内面は磨かれている。8・9 は諸磯 b の浅鉢である。8 は胴部。張り出し部に斜めに刻みを付けた浮線を横位に施文し、上下に小さな爪形文で木葉文を描く。内面は磨かれている。9 は胴部、2段に張り出す。張り出し部に斜めの刻みを付け、

下のくびれ部に横位の浮線を施文する。張り出し部の下には刻み目と深い沈線で木葉文を描く。外面に赤彩が残存する。

10号壺穴(第39～42・48・49図) 諸磯abc、前期終末期、鶴ヶ島台、北白川下層Ⅱbなどの土器が出土し、諸磯cが主体である。1は鉢、2～12は深鉢、13～15は有孔浅鉢・鉢、16はミニチュア土器である。1は諸磯aの鉢である。口縁～底部、ゆるやかな波状口縁で外傾して開く。地文に縄文を施文する。半截竹管による押し引きで横位に区画し、地文を磨り消して無文帯とする。2は深鉢、口縁部、平口縁で外反して開く。横位の連続爪形文4条で区画し、下に波状のモチーフを描く。連続爪形文で挟まれた部分は浮線化している。3は口縁部、平行沈線施文。破断面に種実圧痕の可能性が高い痕跡があり分析中。4は口縁部、波状口縁。口縁は張り出し、強く内湾して、波頂部に突起を付ける。低い浮線文で渦巻文を描く。浮線文上の斜位の刻み方向は交互に換わらない。5は胴～底部で外傾して開く。上部は半截竹管による横位の沈線を施す。下部は縦方向の器面調整のみだが、一部に半截竹管による縦位平行沈線1条と斜位の交差する平行沈線3条が認められる。胴部縦位区画文様への移行期の諸磯bの最終であろうか。6は口縁部、外傾してやや内湾する。地文は斜位の沈線でやや不整な矢羽根状となる。口唇部に結節状の横位浮線をめぐらす。口縁部の結節状の棒状貼付文は3本単位の長いものと2本単位の短いものを均等配置し、半截竹管による刺突があるボタン状文を貼り付ける。内面は磨かれている。7は口縁～胴部、口縁は外傾して開き、くびれて胴部になる。口縁部地文に横位の矢羽根状沈線を2段施文し、口唇部に半截竹管で結節沈線状に刻みを付ける。刺突のある棒状貼付文を縦位に均等に配置し、棒状貼付文下にボタン状貼付文が並ぶ。くびれ部は横位の沈線と横位の棒状貼付文を施文、胴部は沈線で縦位区画の文様を描く。8は口縁～胴部、口縁は外反して開く。口縁部地文に横位の矢羽根状沈線を2段施文する。2条1組の結節浮線文で横位に区画し、3組単位の縦位結節浮線文と2個1組のボタン状貼付文を施文する。胴部は縦位沈線で区画し、縦位のレンズ状の沈線を施す。9は胴～底部、底径7.5cm位の小形の深鉢。横位沈線を施す。内面に炭化物付着。内面に種実圧痕の可能性が高い痕跡があり分析中。6～9は諸磯cである。10は口縁～胴部、波状口縁、口縁は外反して開き、胴部下半が膨らむ。口縁部地文に横位の矢羽根状沈線を2段施文し、口唇部に結節浮線文を2条巡らす。口縁部にはボタン状貼付文と3条単位の縦位の結節浮線文を均等に配置する。胴部は縦位沈線で区画し斜格子状沈線とレンズ状沈線でうめる。2個1組のボタン状貼付文が施される。外面下部が黒色化。11は底部、底面は平底で強く張り出す。半截竹管により横位の矢羽根状に沈線を施文し、2個1組のボタン状文を貼り付ける。10～11は諸磯c新である。12は前期終末期のトロフィー形の深鉢である。口縁～胴部、波状口縁。口唇部は内折する屈曲部に粘土を貼り付け肥厚させ、隆帯で「の」字状貼付文や2～3条単位の結節沈線文を施文する。口縁部は4条単位の結節沈線文で渦巻文を描く。胴部は2条の隆帯で胴部文様帯を上下に区画し、3条単位の結節沈線文と太い沈線文で施文する。内面は磨かれている。13は諸磯bの有孔浅鉢口縁部である。口唇部はやや内傾し立ち上がる。口唇屈曲部に穿孔する。穴は内外両側から穿孔。無文。14は口縁部、口唇部が外反し立ち上がる。口唇屈曲部に穿孔する。無文。内外面にも赤彩が残存する。孔内の一部にも赤彩残る。諸磯b～cであろう。15は浅鉢胴部である。胴部は張り出す。張り出し部に斜めの刻み目を横位に2条付け、下に小さな横位の爪形文と深い沈線を施文する。内面は磨かれている。外面に赤彩が残存する。諸磯bであろう。16は有孔浅鉢のミニチュア土器である。口縁～胴部、口唇部は直に立ち、口唇屈曲部に穿孔する。胴部は2段に張り出し、下に膨らむ。丸底か。外面は磨かれているが内面は整形していない。

11号壺穴(第42・48・49図) 諸磯ab、前期終末期、鶴ヶ島台、黒浜、釈迦堂Z3、北白川下層Ⅱaなどの土器が出土し、諸磯b古が主体である。1～15深鉢、16は浅鉢である。1は胴部、半截竹管による沈線で木葉文を描き、円形文を刺突し縦位に並べる。2は胴部、円形竹管文と沈線で縦位に区画し、3本歯の平行沈線を弧状に渡して肋骨文を描く。3は胴部、半截竹管による横位沈線、波状沈線、縦位の円形竹管文の順に重ねて施文する。4は胴部、小形の深鉢である。半截竹管による沈線で菱形状の文様を描く。縄文

で描いていた樽形文が沈線で描かれていることから前段階の黒浜式土器からの移行期ととらえることができるか。内面は磨かれている。外面中央および内面下部にスス付着。胎土に繊維を少し含む。5は口縁部、ゆるやかな波状口縁、波頂部は内側に肥厚し、斜め下には外側に突起を貼り付ける。地文に縄文を施文し、口縁に沿って半截竹管の内側による連続押し引きを施し、2条の結節沈線文が引かれる。6は口縁部、口縁が外反する。口縁部に半截竹管連続押し引き文が2条巡り、その下に結節縄文を施す。口唇部にスス付着。外面に種実圧痕の可能性が高い痕跡があり分析中。9は胴部、半截竹管による横位沈線を施し、以下には縄文を施文する。縄の結節回転文が横方向に複数みられる。1～6・9は諸磯aである。3はa末であろう。7は口縁部、口唇部に小突起が付き波状となる。口縁部は強く内弯する。口唇部に刻み目を付ける。口縁部はヘラで斜めに刻みを付けた横位の浮線文で区画し、蕨手文を描いて円形竹管文を付す。内面は磨かれている。8は胴部、地文に縄文を施文し、ヘラで斜めに刻みを付けた太い浮線を横位に施す。7・8は諸磯b浮線文土器である。10は胴部でくびれる。地文に縄文を施文し、半截竹管による沈線を横位に4条巡らす。11と12は同一個体の口縁部と思われる。口唇部がやや内傾する。地文に縄文を施文し、口縁部上端に1.5cm位の大きいボタン状文を2個貼り付ける。12には1個認められる。13は胴部、中央部が隆帯状に盛りあがる。縄文を施す。10～13は諸磯bである。14は口縁部、口唇部が肥厚し、上に突起を付ける。3条単位の結節沈線文を突起には縦位に、肥厚部には横位に施文する。肥厚部下端には三角印刻文が並び、以下は横位の沈線を施す。胎土に金色雲母多い。15は口縁部、内弯する。口径11cm位の小形深鉢。隆帯で「の」字状文を貼付し、3条単位の結節沈線文で渦巻文を描く。胎土に金色雲母多い。14・15は前期終末期である。16は諸磯bの浅鉢胴部である。胴部は強くくびれ、くびれ部を挟みヘラで斜めに刻みを付けた太い浮線を横位に2条施文する。内外面とも黒色を呈する。

12号竪穴(第43・44・49図) 諸磯ab、北白川下層IIなどの土器が出土し、諸磯b古が主体である。1・3～15は深鉢、2は鉢、16は有孔浅鉢、17はミニチュア土器である。1は口縁部、外反して開く。口唇部に刻み目を付ける。口縁部は棒状工具の押し引きによる横位の波状沈線と斜位の沈線を施す。2は鉢口縁部である。波状口縁、やや内弯する。平行沈線を弧状に施文する。薄手でよく磨かれている。3は小形の深鉢胴部でくびれる。地文に縄文を施文し、沈線で木葉文を描く。文様間の地文は磨り消している。4は口縁部、口唇部は外側に肥厚し、4mm程の幅の狭い爪形文を横位に施文する。5は胴部、縄文を施文する。縄の結節回転文が横方向にある。1～5は諸磯aもしくはbの古手であろう。6は胴部、横位に連続爪形文を施文。7は胴部、弧状の連続爪形文で文様を描く。8は口縁部、横位の連続爪形文に挟まれた部分が浮線化し、竹管刺突と斜めの刻みを付ける。6～8は諸磯b爪形文土器である。9は胴部、地文に縄文を施文し、ヘラで斜めに刻みを付けた横位の浮線を施す。10は胴部、地文に縄文を施文し、横位の沈線とヘラで斜めに刻みを付けた横位の浮線を施す。11は口縁部、波状口縁。口縁部は外傾し口唇部が短く内折する。地文に縄文を施文し、波頂部に突起を貼り付けて、ヘラで斜めに刻みを付けた浮線で蕨手文を描く。12は口縁部、波状口縁、張り出して強く内弯する。地文に縄文を施文し、波頂部に突起を貼り付けて、ヘラで斜めに刻みを付けた太い浮線を施す。9～12は諸磯b浮線文土器である。13は口縁部、平口縁で開く。口縁部は横位の平行沈線で2段に区画し波状文でうめる。胴部は地文に縄文を施文する。内面は磨かれている。内面に種実圧痕の可能性が高い痕跡があり分析中。14は口縁部、口縁部は外傾し、口唇部が外反する。地文に縄文を施文し、半截竹管による沈線を斜位と横位に施す。13・14は諸磯b沈線文土器である。15は底部、外面に縄文を施文する。底面には木葉痕がみられる。胎土に金色雲母が多い。16は諸磯bの有孔浅鉢、口縁～胴部、口縁部外折して開く。口縁部口唇部に穴を穿孔する。穴は2箇所とも焼成前に内外両側から穿孔されている。胴部無文。胴部下端がわずかに反り、底面につながる可能性がある。17はミニチュア土器。口縁～底部、鉢形の完形。文様は無文。外面内面に多数のシソ属の種実圧痕が残る。

13号竪穴(第44・48図) 諸磯ab、黒浜、釈迦堂Z3などの土器が出土し、諸磯b古が主体である。1～

7は深鉢、8は焼成粘土塊である。1は口縁部、波状口縁、外傾して開く。3本単位の浅い沈線で口縁を縁取り、肋骨文を描く。外面にスス付着、内面は磨かれている。2は口縁部、ゆるく内弯する。口唇部に刻み目を付け、地文に縄文を施文する。半載竹管による沈線に刺突列を重ねて、横位に口縁を縁取り、縦位で区画する。中に斜位の浅い沈線を施す。3は口縁部、外反し開く。口唇部に半載竹管内面の刺突で刻み目を付け、口縁部に縄文を施文する。4は口縁部、外反し開く。口唇部に刻み目を付け、口縁部に縄文を施文。器壁は6mmで、内面は調整されている。1～4は諸磯aである。5は諸磯b爪形文土器である。口縁部、波状口縁、外傾して開き、口唇部がわずかに内弯する。地文に縄文を施文し、連続爪形文で横位に区画し波状モチーフを描く。下に半円形刺突文の平行沈線を3条巡らし、内面は磨かれている。6は諸磯b沈線文土器である。口縁部、平口縁で開く。横位の平行沈線を3条巡らし、下に弧状文を描く。内面は磨かれている。内面に圧痕の可能性が高い痕跡があり分析中。7は地文に縄文を施す。破断面に種実圧痕の可能性が高い痕跡があり分析中。8は焼成粘土塊である。塊を握る形で指頭および指腹の圧痕が付く。外面に種実圧痕の可能性が高い痕跡があり分析中。

14号竪穴(第45・49図) 諸磯abc、北白川下層Ⅱaなどの土器が出土し、諸磯b古が主体である。1・3～7は深鉢、2は鉢、8は浅鉢である。1は胴部、外反し開く。半載竹管による沈線で横位に区画し鋸歯文を描く。2は鉢、胴部。地文に縄文を施文し、4mm幅の狭い連続爪形文で入組木葉文を描き、中に円形竹管文を充填、文様間は地文を磨り消している。内面は磨かれている。1・2は諸磯aである。3は口縁部、平口縁でやや内弯し、胴部へかけてくびれる。平行する浮線文と連続爪形文を用いて、横位区画内に文様を描く。半載竹管を用いて円形竹管文を施文する。連続爪形文に挟まれた部分は一部浮線化し、爪形文の端が刻み目状に架かっている。浮線化していない箇所にも爪形文に平行して刻み目を付けている。4は胴部、平行する浮線文と連続爪形文を用いて蕨手状の文様を描く。浮線文上の刻み目の付け方は粗い。内面は磨かれている。3・4は諸磯b爪形文土器である。5は諸磯b浮線文土器である。胴部、ゆるやかに内弯する。地文に縄文を施文し、ヘラで斜めに刻みを付けた太い浮線で横位に区画し、弧状の文様を施す。6は底部、底面がわずかに張り出す。胴部は縦位沈線、底部は横位沈線、ボタン状貼り付け文は見られない。7は底部、底面がわずかに張り出す。胴部は縦位沈線、底部は横位沈線を施す。全面にみられる2個1組のボタン状貼り付け文は施文密度が高い。6・7は諸磯cである。8は諸磯bの浅鉢である。口縁部、連続爪形文を施す。

1号土坑(第45図) 諸磯bcの土器が出土する。1・2は深鉢である。1は諸磯b浮線文土器である。胴部、斜位と横位に低い浮線文を施文、浮線文上の斜めの刻みは浮線一本ごとに刻み方向が交互に換わる。2は諸磯c深鉢口縁部。波状口縁で外反する。地文に半載竹管による平行沈線で横方向の矢羽根状沈線文を施文する。結節沈線文と結節浮線文を2条並べて口縁部を縁取り、以下に2個1組のボタン状貼付文、3本単位の結節浮線文を施文する。内面は磨かれている。

2号土坑(第45図) 諸磯bの土器が出土する。1・2は深鉢である。1は口縁部、波状口縁、口縁部が張り出し、口唇部は内折する。地文に縄文を施文する。口縁部は半載竹管による沈線で縁取り、縦位の沈線を施す。波頂部下には突起を貼り付ける。2は胴部、外反する。下端は底面粘土が剥がれた輪積み面。地文に縄文を施文する。4段の数条単位の横位沈線が胴部下端まで施文されている。1・2は諸磯b沈線文土器である。

3号土坑(第46図) 諸磯abcの土器が出土する。1・3は深鉢、2は鉢、4は浅鉢である。1は口縁部、口径14cmくらいの小形で、口唇部に小突起が並ぶ。口縁部上端に横位の沈線を施文し、さらに刺突文で口縁を縁取る。以下に3条単位の沈線で木葉文を描く。口唇部と内面は丹念に磨かれている。器壁の厚さは5～6mm。諸磯aである。2は胴部、胴径9cmくらいの小形の鉢。地文に縄文を施文し、横位波状の連続爪形文と円形竹管文を施す。諸磯aもしくはbの古手であろう。3は胴部、管の内面を使用した結節沈線文で

双環状渦巻文を描く。胎土に金色雲母多い。諸磯c新である。4は諸磯b浅鉢胴部である。くびれ部に横位の沈線を巡らし、張り出し部以下に縄文を施文する。張り出し部以上の外面を赤彩し、以下の内外面は黒色を呈する。

4号土坑(第46図) 諸磯bcの土器が出土する。1・2は深鉢である。1は口縁部、口縁部は外傾し、口唇部が内折する。縄文施文。諸磯bである。2は口縁部、波状口縁、口縁部外反する。地文に半截竹管による平行沈線と横方向の矢羽根状沈線文を施文する。結節浮線文を2条並べて口縁部を縁取り、以下に2個1組のボタン状貼付文、3本単位の結節浮線文を施文する。内面は磨かれている。諸磯cである。

5号土坑(第46・49図) 諸磯abc、北白川下層IIcなどの土器が出土し、諸磯b古が主体である。土製円盤も出土している。1～5、7～13は深鉢、6は鉢である。1は口縁部、外傾し開く。地文に縄文を施文する。横位の沈線で口縁を縁取り、8mm幅の浅い沈線で木葉文を描く。2は口縁部、外傾し開き、口唇部が内湾する。口唇部に刻み目をつけ、5mm幅の浅い押し引きで口縁を縁取り、同様の沈線で木葉文を描く。3は胴部、地文に縄文を施文する。半截竹管による沈線で入組木葉文を描き、文様間の地文を磨り消す。内面は磨かれている。4は口縁部、外傾し開く。地文に縄文を施文し、半截竹管による沈線で木葉文を描く。文様間の地文を磨り消し、連続爪形文で沈線ラインをなぞる。内面は磨かれている。胎土に金色雲母多い。5は口縁部、外傾し開く、口唇部が外側に肥厚する。口縁部上端を半截竹管により横位に連続刺突する。口縁部に横位の無文帯を区画するものか。6は鉢の胴部である。地文に縄文を施文する。半截竹管による押し引きで横位に区画し、無文帯とする。胎土に金色雲母が多い。7は胴部、縄文を施文する。下端に横方向に縄の結節回転文がならぶ。下端は底面との輪積み部で剥がれている。8は胴部、連続爪形文で木葉文を描き、円形竹管文を配置する。5～7は諸磯a、1～4・8は諸磯aもしくはbの古手であろう。9・10は同一個体と思われる。口縁・胴部、外傾し開く。地文に縄文を施文する。横位の連続爪形文を4条施文、挟まれた条間部分が高まり浮線化している。以下に連続爪形文で波状のモチーフを描く。内面はよく磨かれている。11は口縁部、外傾し開く。口唇部に斜めの刻み目を付ける。口縁部は浮線文と連続爪形文を横位に施文する。浮線文と連続爪形文に挟まれ浮線化した高まりに、斜めの刻みが付けられる。内面は磨かれている。12は口縁部、外傾し開く。横位2条の小さな連続爪形文の下に、平行する浮線文と連続爪形文で文様を描く。浮線文上の刻み目の付け方は粗い。内面は磨かれている。9～12は諸磯b爪形文土器である。13は口縁部、波状口縁、外傾し開く。口唇部の内角に結節沈線文、外角に結節浮線文を巡らせる。口縁部は半截竹管による沈線を施文、横位の矢羽根状か。諸磯cであろう。

6号土坑(第46図) 諸磯の土器がわずかに4点出土。1～3は深鉢胴部で縄文が施文される。3は無節縄文である。諸磯であろう。

7号土坑(第47図) 諸磯bの土器が出土し、諸磯bが主体である。1～6は深鉢である。1は口縁部、口縁部が外傾し開く、口唇部はやや内湾する。無節縄文を施文。2・3は同一個体である。口縁部・胴部、波状口縁、波頂部下に突起を貼り付ける。地文に縄文を施文し、口縁部に波状と横位の沈線、胴部に数条で2段の沈線を巡らす。口縁部と胴部で施文具の半截竹管が異なっている。4は口縁部、波状口縁、口縁部が張り出し、口唇部は内折する。地文に縄文を施文する。口縁部は半截竹管による沈線で縁取り、波頂部下に縦位と斜位の沈線を施す。胴部は横位の沈線を巡らせる。5は胴部、地文に無節縄文を施文し、横位の沈線を2段巡らす。内面に種実圧痕の可能性が高い痕跡があり分析中。6は底部、底面がわずかに張り出す。文様は無文。2～5は諸磯b沈線文土器である。1・6は諸磯bであろう。

早期・前期中葉・異系統土器(第48・49図)

1～6は縄文時代早期の深鉢である。竹管による沈線で幾何学文を描き、交点付近に円形文を刺突、文様内には沈線を充填する、内面には条痕文を施す。胎土に少ないながら繊維を含む。1は口縁部、緩い波状口縁、7号竪穴から出土している。2は胴部、強くくびれる、10号竪穴から出土している。3は胴部、強くくびれる、11号竪穴から出土している。4は口縁部、くびれて段がつく、口唇部に斜位の刻み、文様内を充填する沈線の中には結節化するものも混じる。7号竪穴から出土している。5は胴部、くびれて段がつく、10号竪穴から出土している。6は胴部、強くくびれる、11号竪穴から出土している。以上1～6は鶴ヶ島台式である。

7～15は前期中葉の深鉢である。7は口縁部、器壁4～5mmと薄い、灰褐色を呈し堅い。口唇部に貝殻腹縁文で刻み目、口縁部には横線状につないだ腹縁文を口縁に平行に4段施す。内面指押圧上に貝殻条痕文。試掘2トレンチから出土している。8は口縁部、器壁4～5mmと薄い、白色を呈す。口唇部に貝殻腹縁文で刻み目、口縁部には腹縁文で横位の刺突文列を3段施す。内面指押圧上に貝殻条痕文。4号竪穴から出土している。以上7・8は東海系（清水ノ上Ⅱ・上の坊）であろう。

9～11は胎土に繊維を含む。9は胴部、単節縄文を施し、竹管か貝殻の押し引きによる疑似縄文で間隙を埋める。外面内面にニワトコ属の種実圧痕が残る。11号竪穴から出土している。10は胴部、撚り糸文を施す。11は口縁部、単節縄文を施す。10・11は13号竪穴から出土している。以上9～11は黒浜式土器である。

12～15は胎土に繊維を含まず、堅緻である。12は口縁部、外傾し開く。口唇部に刻み目を付け、無節縄文を施す。一部が重なりあい羽状に見える。内面に指頭痕が残る。器壁6mm。8号竪穴から出土している。13は口縁部、外傾し開く。口唇部をわずかに肥厚させヨコナデ調整。縄文を施す。内面わずかに指頭痕が残る。11号竪穴から出土している。14と15は同一個体と思われる。14・15は口縁部、外傾し開く。無節縄文を施す。内面に指頭痕が残る。器壁6～7mm。13号竪穴から出土している。以上14・15は釈迦堂23式土器であり、12・13もその類型であろう。

16～30は関西系の土器である。16から23は鉢または壺と思われる。16は胴部、突帯文間に1.9cmと幅広の爪形文を施す。器壁が5mmと薄く、色調は明るい褐色。内面に浅い指押圧が残る。1号竪穴から出土している。17から23の7点は同一個体と思われる赤彩（ベンガラ）の施される彩文土器である。小突起がつく波状口縁、口唇部に刻み目、口縁に沿って刻みのある浮線を施す。口縁部外面は突帯文間に1.5cmと幅広の爪形文と赤彩、内面は赤彩で波頂部を基点として左右対称に曲線状の入り組み文様を描く（図では黒く表される）。器壁が4～5mmと薄く、胎土は黒色～褐色で緻密である。内外面一部に煤状の炭化物が付着する。17は胴部、18は口縁部で7号竪穴から出土している。19は胴部、20・21は口縁部で11号竪穴から出土している。22は胴部で12号竪穴から出土している。23は口縁部で14号竪穴から出土している。文様の位置関係を見ると18・20・21・23は別個の破片だが同じ部位の文様と認められる。波頂部を中心として、いずれも右側の口縁部であり、全体の器形は4単位の波状口縁と推定される。以上16～23は北白川下層Ⅱa式であろう。

24～26の爪形文は小さめで原体を器面に直角に刺突している。24は筒形の胴部。連続爪形文を挟んだ平行沈線の横位2条で区画し、上下に渦巻文を描く。外面と内面の全面を赤彩する。文様は北白川下層Ⅱb式に共通する。器壁は6～7mmである。4号竪穴から出土している。25は深鉢または壺形の胴部。横位爪形文で区画し赤彩する。以下は縄文を施す。器壁は4～5mmと薄い。6号竪穴から出土している。26は口径が12.5cm位の小形の深鉢で、口縁が筒状に立つ。平行沈線間に連続爪形文を施し、菱形モチーフを描く。外面の無文範囲と内面全面を赤彩する。10号竪穴から出土している。27は浅鉢底部で丸底である。地文に縄文を施し、小さめの爪形文を波状に施す。胎土の色調は淡色で堅緻で、器壁は4～5mmと薄い。赤彩がわずかに残存する。5号竪穴から出土している。以上24～27は北白川下層Ⅱb式であろう。

28～30は深鉢で、ヘラ刻みを付けた突帯文を施す。28は口縁部、平口縁。地文に縄文を施し、口唇から垂下する突帯と横位の突帯2条を貼り付ける。胎土は色調が黒色で堅緻である。器壁は5mm以下と

薄い。表面の一部は白色を呈する。1号竪穴から出土している。29は胴部。地文に縄文を施し、横位の突帯2条を貼り付ける。胎土は色調が淡色で堅緻である。器壁は4～5mmと薄い。8号竪穴から出土している。30は胴部。地文に縄文を施し、斜位の突帯を貼り付ける。胎土は色調が褐色で堅緻である。器壁は5mmと薄い。5号土坑から出土している。以上28～30は北白川下層Ⅱc式であろう。

【土製品】(第49図)

31・32は8号竪穴から出土している人形状土製品である。挟りの位置が真ん中よりやや上であり頭部が認識できる。深鉢口縁破片の転用とみられる。31は挟りおよび左側縁の一部は研磨による成形、右側面は土器口縁が残存、その他は破断面のままである。転用以前の土器文様として、深鉢口縁を録取る沈線と縦位の沈線が残る。32は断面の全面を研磨し成形されている。転用以前の土器文様として、深鉢胴部地文の縄文と横位の沈線が残る。

33は5号土坑から出土している土製円盤である。角の丸い台形状を呈する。諸磯aの深鉢破片の転用で、断面を研磨し成形している。表面には土器外面の地文縄文、横位の小さな爪形文、大きな円形竹管文、内面の磨きなどがみられる。

【石器・石製品】(第50～56図)

1～54は石鏃および石鏃未完成品である(第50図)。総数70点中54点を図示した。石鏃は黒曜石製が大半を占める。他の石材はチャート、凝灰岩、黒色安山岩がわずかに認められる。石鏃の形態は脚部を折損しているものも含めて概ね全て凹基無茎の形態とみられる。原石や小形の石核も出土しており、49など素材剥片の打面を残す石鏃未完成品などもあることから、ここに原石が搬入され石鏃が製作されていたことが分かる。

55～63は石錐である(第50図)。総数11点中9点を図示した。石錐は黒曜石製が多いが、チャート製、頁岩製が認められる。63は砂岩製とみられる。55は石鏃破損品からの転用と考えられる。

64～66は垂飾、原石である(第50・51図)。垂飾は1点中1点を図示した。64は滑石製で棒状を呈す。欠損する上部に、垂下するために通す穴が穿孔されていたものと思われる。65は水晶六角柱状結晶である。1点中1点を図示した。剥片・砕片も含め水晶はほとんど出土しておらず、その他の水晶製石器は石匙1点と剥片1点のみである。黒曜石原石総数19点中1点を図示した。66は他の黒曜石原石に比して1点だけ特に大形で、長さ9.1cm、幅5.4cm、厚さ3.9cmを測り、重さは172.4gである。未使用の原石とみられる。

67～70スクレイパーである(第51図)。総数8点中4点を図示した。石材は頁岩、チャート、黒曜石が使用されている。

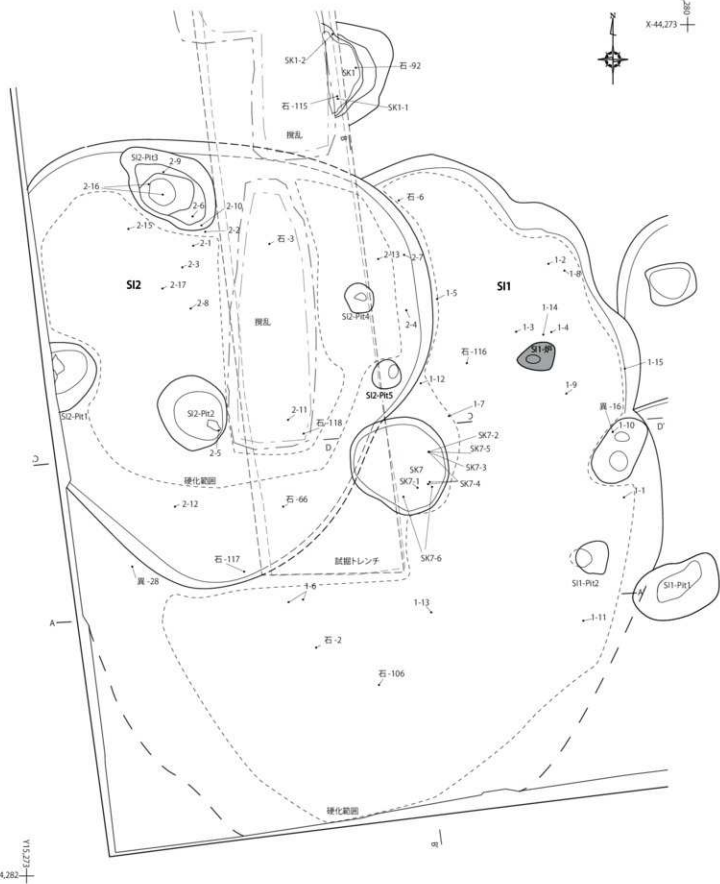
71～96は石匙である(第51・52図)。総数28点中26点を図示した。石材はホルンフェルスが多いが黒曜石も同程度に多く、その他にも頁岩、鉄石英、凝灰岩、チャート、水晶、黒色安山岩と多種の石材が用いられている。74はやや赤化し、熱ハジケも認められることから被熱しているものと考えられる。

97～104は磨製石斧である(第53図)。総数8点中8点を図示した。石材は結晶片岩、緑色岩類が主であるが1点のみ101は蛇紋岩製である。刃部は大きく刃こぼれを残し、基部は短くよく摩耗している。基部破損後も使用を続け、大事に使い込んだ石器のように思われる。

105～115は打製石斧である(第53・54図)。総数42点中11点を図示した。石材は結晶片岩が主であるがホルンフェルスも認められる。106は縁辺部が全て丸い。使用による摩耗の結果であろうか。107は断面三角形で厚みを残す。打製石斧の素材剥片であろうか。

116～136は磨石・砥石である(第55図)。総数40点中21点を図示した。石材は安山岩、閃緑岩、花崗岩が主であるが、砂岩も認められる。123は断面三角の尾根上の細長い面に磨面を持つ。

137～141は石皿である(第56図)。総数29点中5点を図示した。石材は安山岩、花崗岩、玄武岩である。磨石も含め花崗岩は御飯山地の現地石材と考えられ、玄武岩も富士山麓域の近隣地石材と思われる。

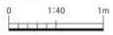


518.4m
A

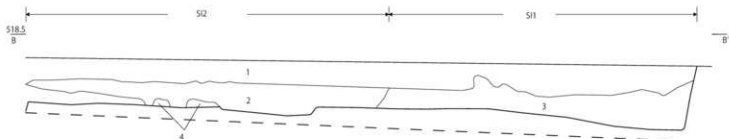


SI1 東西セクション

1 に近い黄褐色(10YR4/3)シルト 径3mmの赤色粒1%含む 径2mmのローム粒1%含む 締まり強い 粘性やや強い (SI1 層土)

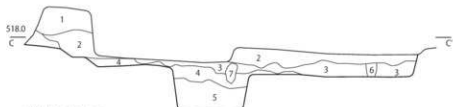


第8図 1号・2号竪穴 (1)



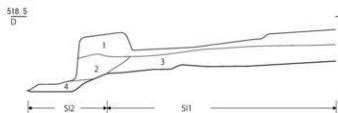
S1-2 南北セクション

- 1 黒褐色 (10Y2/3) シルト 径3mmのローム粒1%含む 径3mmの赤色粒1%含む 締まり強い 粘性やや強い(表土)
- 2 暗褐色 (10YR3/2) シルト 径1mmの焼土粒3%含む 径1mmの黄色粒1%含む 径1mmの炭化物1%含む 締まりやや強い 粘性弱い (S12 覆土)
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径3mmの焼土粒1%含む 径2mmのローム粒1%含む 締まり強い 粘性やや強い (S11 覆土)
- 4 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 径1mmの黄色粒2%含む 径1mmの赤色粒1%含む 締まり極めて強い 粘性やや強い(地山、ハードローム、黒色部)



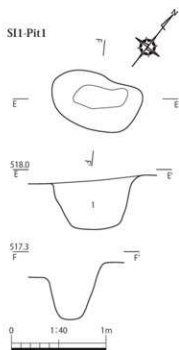
S12 東西セクション

- 1 黒褐色 (10Y2/3) シルト 径3mmのローム粒1%含む 径3mmの赤色粒1%含む 締まり強い 粘性やや強い(表土)
- 2 暗褐色 (10YR3/2) シルト 径1mmの焼土粒3%含む 径1mmの黄色粒1%含む 径1mmの炭化物1%含む 締まり強い 粘性やや強い (S12 覆土)
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径2mmの黄色粒1%含む 径2mmの赤色粒1%含む 締まり強い 粘性やや強い (S12 覆土)
- 4 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 径1mmの黄色粒2%含む 径1mmの赤色粒1%含む 締まり極めて強い 粘性やや強い(地山、ハードローム、黒色部)
- 5 黄褐色 (10YR5/6) シルト 径1mmの赤色粒1%含む 締まり極めて強い 粘性やや強い(ハードローム)
- 6 灰黄褐色 (10YR4/3) シルト 締まり強い 粘性やや強い(層足、4層のロームブロックが混じっている)
- 7 暗褐色 (10YR3/3) シルト 締まりなし 粘性弱い(覆足、2が落ちている動物物の穴)



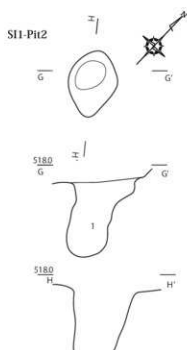
S11-2 東西セクション

- 1 黒褐色 (10Y2/3) シルト 径3mmのローム粒1%含む 径3mmの赤色粒1%含む 締まり強い 粘性やや強い(表土)
- 2 暗褐色 (10YR3/2) シルト 径1mmの焼土粒3%含む 径1mmの黄色粒1%含む 径1mmの炭化物1%含む 締まり強い 粘性やや強い (S12 覆土)
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径3mmの焼土粒1%含む 径2mmのローム粒1%含む 締まり強い 粘性やや強い (S11 覆土)
- 4 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 径1mmの黄色粒2%含む 径1mmの赤色粒1%含む 締まり極めて強い 粘性やや強い(地山、ハードローム、黒色部)



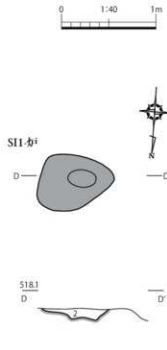
Pit 1-2・#1

- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径3mmの焼土粒1%含む 径2mmのローム粒1%含む 締まり強い 粘性やや強い
- 2 暗褐色 (10YR3/2) シルト 径1mmの焼土粒3%含む 径1mmの炭化物1%含む 締まりやや強い 粘性やや強い



Pit 2・#2

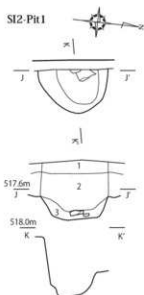
- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径3mmの焼土粒1%含む 径2mmのローム粒1%含む 締まり強い 粘性やや強い
- 2 暗褐色 (10YR3/2) シルト 径1mmの焼土粒3%含む 径1mmの炭化物1%含む 締まりやや強い 粘性やや強い



S11-Pit2・#1

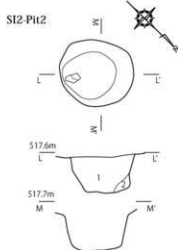
- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径3mmの焼土粒1%含む 径2mmのローム粒1%含む 締まり強い 粘性やや強い (S11 覆土)

第9図 1号・2号竪穴 (2)



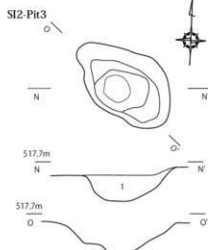
SI2-Pit1

- 1 黒褐色 (10YR2/3) シルト 径 3mm のローム粒 1% 含む
径 3mm の赤色粒 1% 含む 締まり弱い 粘性弱い (表土)
- 2 に近い黒褐色 (10YR4/3) シルト 径 2mm の黄色粒 1% 含む
径 2mm の赤色粒 1% 含む 締まり強い 粘性やや強い (SI2 覆土)
- 3 黒褐色 (10YR3/2) シルト 径 1mm の赤色粒 1% 含む 径 1mm の黄色粒 1% 含む
径 1mm の黒色粒 1% 含む 締まり強い 粘性やや強い (Pit1 覆土)



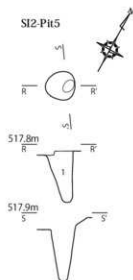
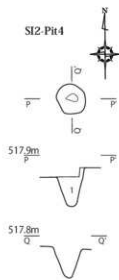
Pit2

- 1 黒褐色 (10YR2/3) シルト 径 1mm の炭化物 2% 含む
径 1mm の赤色粒 2% 含む 径 2mm の黄色粒 3% 含む
締まり強い 粘性やや強い
- 2 黒褐色 (10YR3/2) シルト 締まり強い 粘性やや強い



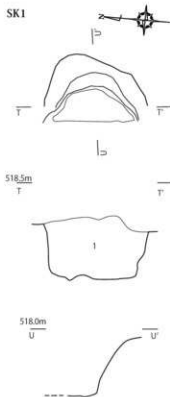
Pit3

- 1 黒褐色 (10YR2/3) シルト 径 1mm の炭化物 2% 含む
径 1mm の赤色粒 2% 含む 径 2mm の黄色粒 3% 含む
締まり強い 粘性やや強い



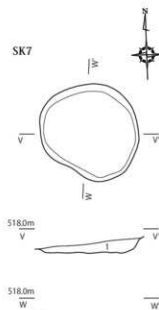
Pit4・Pit5

- 1 黒褐色 (10YR2/3) シルト 径 1mm の炭化物 2% 含む
径 1mm の赤色粒 2% 含む 径 2mm の黄色粒 3% 含む
締まり強い 粘性やや強い



SK1

- 1 黒褐色 (10YR3/2) シルト 径 2mm の赤色粒 2% 含む
径 2mm の黒色粒 1% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い

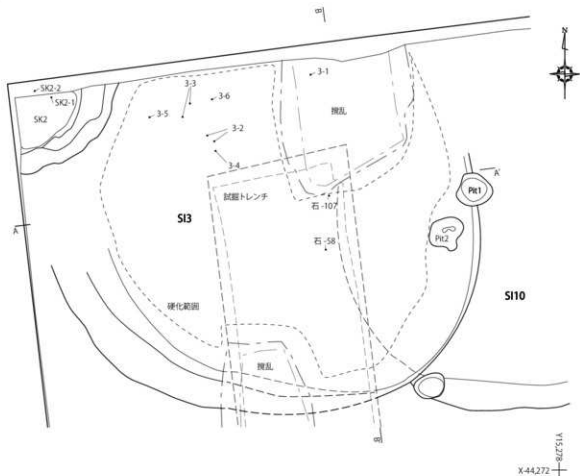


SK7

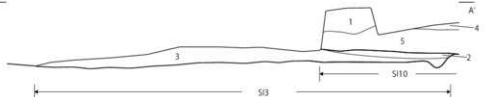
- 1 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径 1mm の炭化物 1% 含む
径 1mm の黒色粒 1% 含む 締まり強い 粘性やや強い



第 10 図 1号・2号竪穴 (3)



517.9m
A

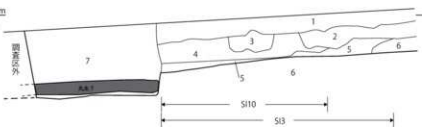


X44,272

SI3 東西セクション

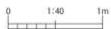
- 1 黒褐色 (10YR2/3) シルト 径 3 mm のローム粒 1% 含む 径 3 mm の赤色粒 1% 含む 締まり弱い 粘性強い (表土)
- 2 黄褐色 (10YR5/6) シルト 径 50 mm のローム粒 10% 含む 締まり強い 粘性やや強い (SI3)
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 1 mm の赤色粒 2% 含む 径 1 mm の黄色粒 1% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI3)
- 4 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 1 mm の赤色粒 1% 含む 径 3 mm の黄色粒 1% 含む 径 1 mm の黒色粒 1% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI10)
- 5 褐色 (10YR4/4) シルト 径 1 mm の赤色粒 3% 含む 径 1 mm の黄色粒 1% 含む 径 1 mm の黒色粒 1% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI10)

517.9m
B



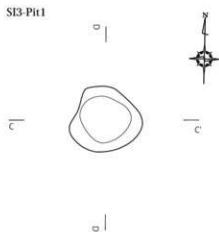
SI3 南北セクション

- 1 黒褐色 (10Y2/3) シルト 径 3 mm のローム粒 1% 含む 径 3 mm の赤色粒 1% 含む 締まり弱い 粘性やや強い (表土)
- 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径 2 mm の赤色粒 2% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い
- 3 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径 1 mm の黒色粒 1% 含む 径 1 mm の炭化物 1% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI10)
- 4 褐色 (10YR4/4) シルト 径 1 mm の赤色粒 1% 含む 径 1 mm の黄色粒 1% 含む 径 1 mm の黒色粒 1% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI10)
- 5 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 1 mm の赤色 粒 2% 含む 径 1 mm の黒色粒 1% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI3)
- 6 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 径 1 mm の黄色粒 2% 含む 径 1 mm の赤色粒 1% 含む 締まり極めて強い 粘性やや強い (地山、ローム、第一黒色部)
- 7 黒褐色 (10YR2/2) シルト 径 5 ~ 50 mm のロームブロック 30% 含む 締まり強い 粘性やや強い (産物残片)



第 11 図 3号壁穴 (1)

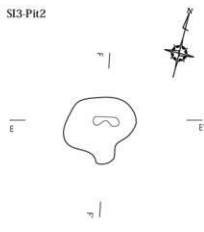
SI3-Pit1



Pit1

1 深い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 1 mm の赤色 粒 2 % 含む
径 1 mm の黒色粒 1 % 含む 締まりやや強い 粘性やや強い

SI3-Pit2

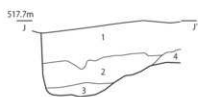
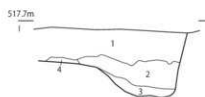
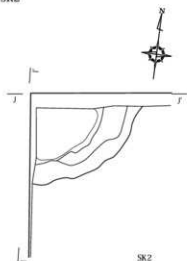


Pit2

1 深い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 1 mm の赤色 粒 2 % 含む
径 1 mm の黒色粒 1 % 含む 締まりやや強い 粘性やや強い



SK2

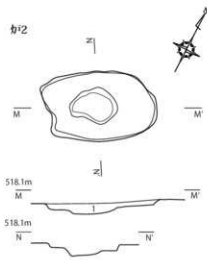
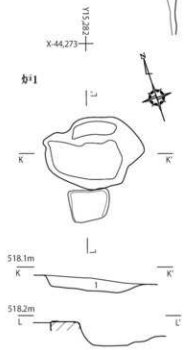
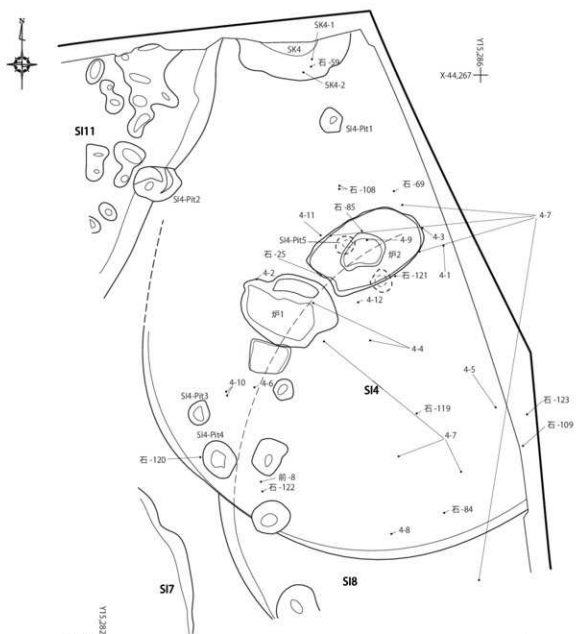


SK2

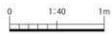
- 1 黒褐色 (10YR2/3) シルト 径 3 mm のローム粒 1 % 含む 径 3 mm の赤色粒 1 % 含む
締まり強い 粘性やや強い (表土)
- 2 オリーブ褐色 (2.5YR3/2) シルト 径 2 mm の黄色粒 2 % 含む 径 2 mm の赤色粒 1 % 含む
径 2 mm の黒色粒 1 % 含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SK2 覆土)
- 3 暗灰黄色 (2.5YR4/2) シルト 径 2 mm の黄色粒 1 % 含む 径 2 mm の赤色粒 1 % 含む
径 2 mm の黒色粒 1 % 含む 締まり強い 粘性やや強い (SK2 覆土)
- 4 深い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 1 mm の赤色粒 2 % 含む 径 1 mm の黒色粒 1 % 含む
締まりやや強い 粘性やや強い



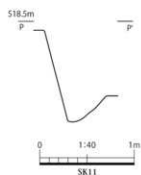
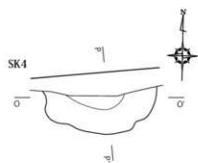
第 12 図 3号竪穴 (2)



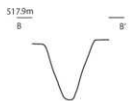
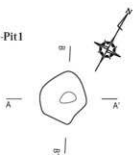
井戸 2
 1 褐色 (10YR4/4) シルト 径 1m の黄土粒 3% 含む
 径 1m の炭化粒 2% 含む 締まり強い 粘性やや強い



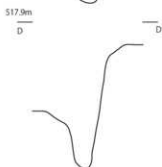
第 13 図 4号竪穴 (1)



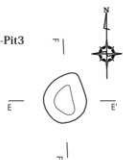
SI4-Pit1



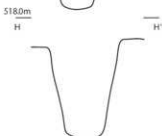
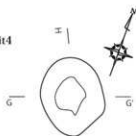
SI4-Pit2



SI4-Pit3



SI4-Pit4



SI4-Pit5



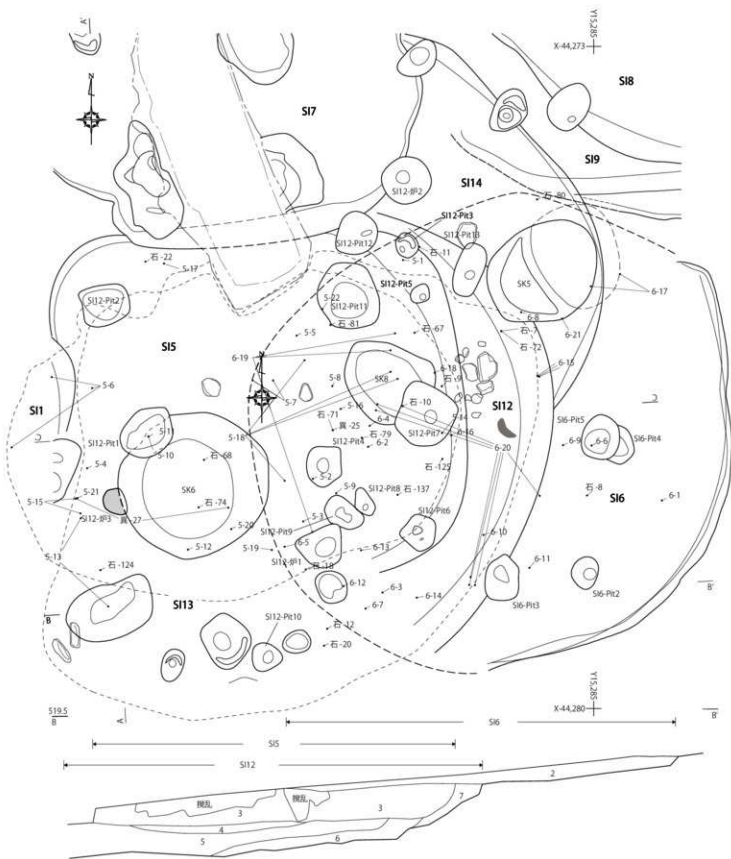
SK3・Pit-5

- 1 に近い黄褐色(10YR4/3)シルト 径50mmのロームブロック10%含む 径1mmの赤色粒1%含む 締まりや中強い 粘性やや強い
 2 褐色(10YR4/4)シルト 径1mmの赤色粒1%含む 径1mmの黄色粒1%含む 径1mmの黒色粒1%含む 締まりや中強い 粘性やや強い



Pit1-Pit5

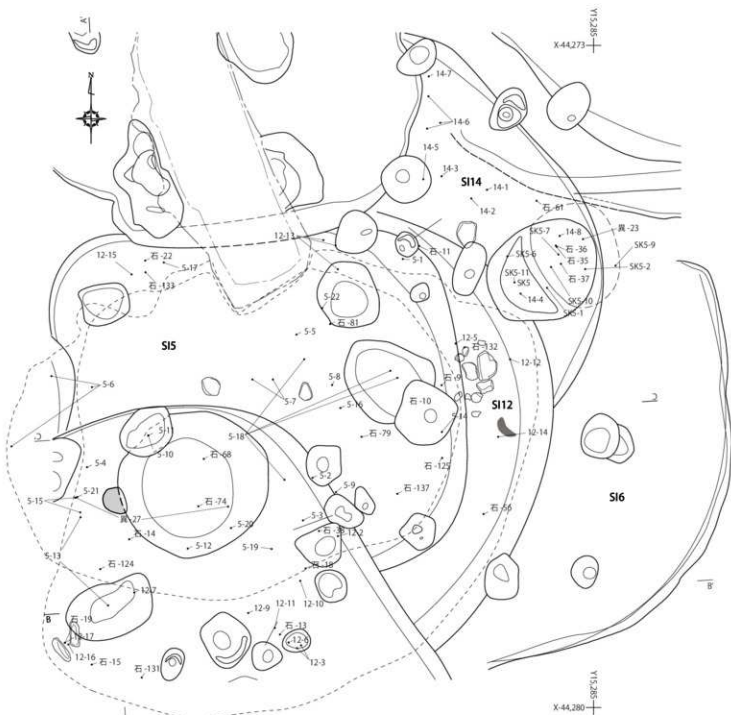
第14図 4号竪穴(2)



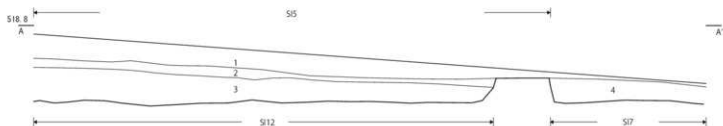
SIS・6・12 縦内セクション

- 2 黒褐色 (10YR3/2) シルト 径 1mm の黄色粒 2% 含む 粘り強い、粘性や中強い (SI6 覆土)
- 3 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径 2mm の赤色粒 3% 含む 径 2mm の黄色粒 2% 含む 粘り強い、粘性や中強い (SI5 覆土)
- 4 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径 2mm の赤色粒 3% 含む 径 2mm の黄色粒 2% 含む 粘り極めて強い、粘性や中強い (SI5 床)
- 5 暗褐色 (10YR3/4) シルト 径 2mm の赤色粒 5% 含む 径 2mm の黄色粒 3% 含む 径 2mm の炭化物 1% 含む 粘り強い、粘性や中強い (SI12 覆土)
- 6 褐色 (10YR4/4) シルト 径 3mm の赤色粒 5% 含む 径 3mm の黄色粒 5% 含む 径 2mm の炭化物 1% 含む 粘り強い、粘性や中強い (SI12 覆土)
- 7 褐色 (10YR4/4) シルト 径 2mm の黄色粒 2% 含む 径 1mm の赤色粒 3% 含む 粘り強い、粘性や中強い (SI12 覆土)

第 15 図 5号・6号・12号・14号竪穴 (1)

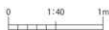


SIS-7・12・13南北セクション

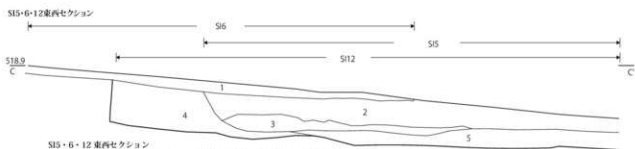


SIS・石・12東西セクション

- 1 黒褐色(10YR2/3)シルト 径3mmのローム粒1%含む 径3mmの赤色粒1%含む 締まり弱い 粘性やや強い(表土)
- 2 暗褐色(10YR3/3)シルト 径2mmの赤色粒3%含む 径2mmの黄色粒2%含む 締まり強い 粘性やや強い(SIS覆土)
- 3 暗褐色(10YR3/4)シルト 径2mmの赤色粒5%含む 径2mmの黄色粒3%含む 径2mmの炭化物1%含む 締まり強い 粘性やや強い(SI12覆土)
- 4 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 径1mmの赤色粒3%含む 径1mmの黄色粒3%含む 締まり強い 粘性やや強い(SI7覆土)



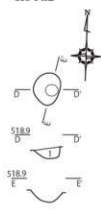
第16図 5号・6号・12号・14号竪穴(2)



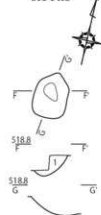
S15・6・12東西セクション

- 1 黒褐色 (10YR3/2) シルト 径 1mm の黄色粒 2% 含む 締まり強い、粘性やや強い、(S16 覆土)
- 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径 2mm の赤色粒 3% 含む 径 2mm の黄色粒 2% 含む 締まり強い、粘性やや強い、(S15 覆土)
- 3 黄褐色 (10YR5/8) シルト 径 2mm の赤色粒 3% 含む 径 2mm の黄色粒 2% 含む 締まり極めて強い、粘性やや強い、(S15 覆土)
- 4 暗褐色 (10YR3/4) シルト 径 2mm の赤色粒 5% 含む 径 2mm の黄色粒 3% 含む 径 2mm の炭化物 1% 含む 締まり強い、粘性やや強い、(S12 覆土)
- 5 褐色 (10YR4/4) シルト 径 2mm の黄色粒 2% 含む 径 1mm の赤色粒 3% 含む 締まり強い、粘性やや強い、(S12 覆土)

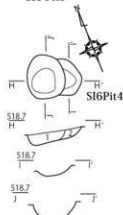
S16-Pit2



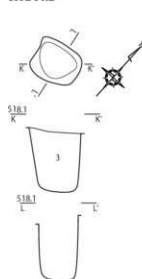
S16-Pit3



S16-Pit5



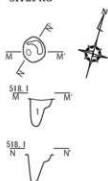
S112-Pit2



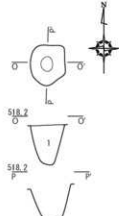
S16Pit2-5-S112Pit2

- 1 黒褐色 (10YR3/4) シルト 径 1mm の黄色粒 2% 含む 締まり強い、粘性やや強い
- 2 褐色 (10YR4/4) シルト 径 2mm の黄色粒 2% 含む 締まり強い、粘性やや強い
- 3 暗褐色 (10YR3/4) シルト 径 2mm の赤色粒 5% 含む 径 2mm の黄色粒 3% 含む 締まり強い、粘性やや強い

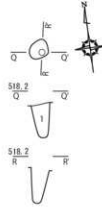
S112-Pit3



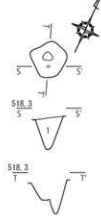
S112-Pit4



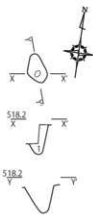
S112-Pit5



S112-Pit6



S112-Pit8

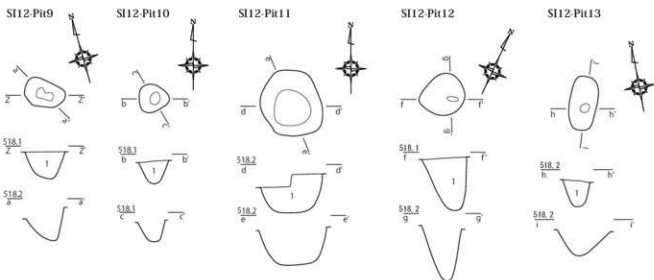


Pit3 ~ 10-SK8

- 1 暗褐色 (10YR3/4) シルト 径 2mm の赤色粒 5% 含む 径 2mm の黄色粒 3% 含む 締まり強い、粘性やや強い、(Pit 覆土)
- 2 褐色 (10YR4/4) シルト 径 2mm の黄色粒 2% 含む 締まり強い、粘性やや強い、(SK8 覆土)



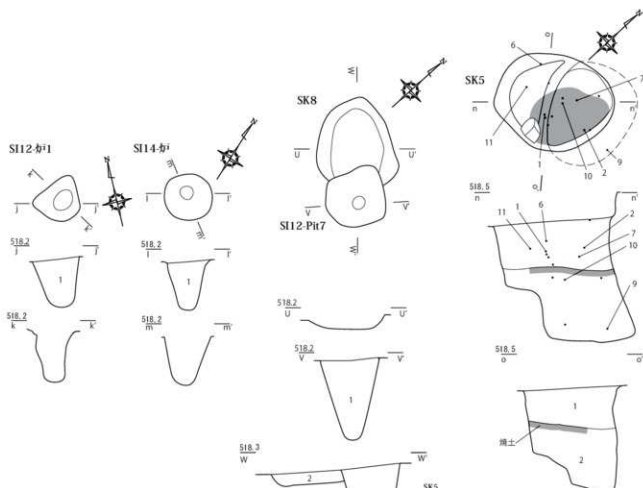
第 17 図 5号・6号・12号・14号竪穴 (3)



Pit11 ~ 13

1 暗褐色 (10YR3/4) シルト 径2mmの赤色粒5%含む

径2mmの黄色粒3%含む 締まり強い 粘性やや強い (Pz 覆土)



Pit3 ~ 10-SK8

1 暗褐色 (10YR3/4) シルト 径2mmの赤色粒5%含む

径2mmの黄色粒3%含む 締まり強い 粘性やや強い (Pz 覆土)

2 褐色 (10YR4/4) シルト 径2mmの黄色粒2%含む

締まり強い 粘性やや強い (SK8 覆土)

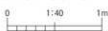
SK5

1 に近い黄褐色 (10YR4/2) シルト 径2mmの白色粒2%含む

締まり強い 粘性やや強い

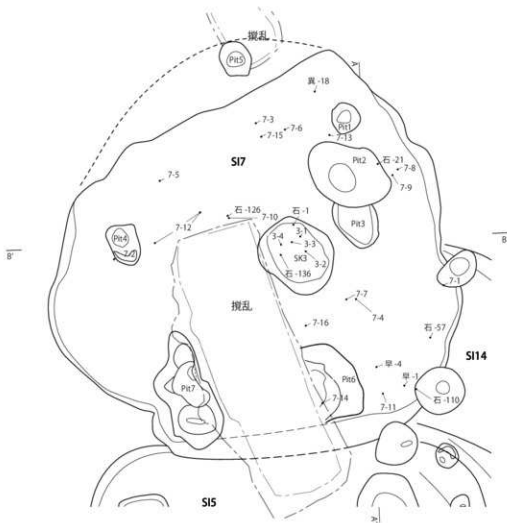
2 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 径2mmの白色粒5%含む

径2mmの黄色粒2%含む 締まり強い 粘性やや強い

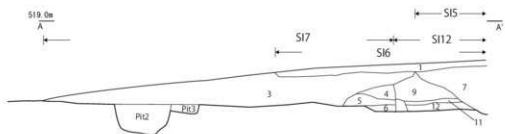


第18図 5号・6号・12号・14号竪穴(4)

X-44,271
RZT51A



X-44,275
RZT51A

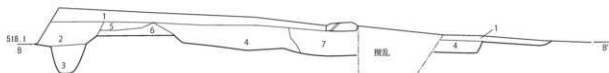


S15-6-7-12 南北セクション

- 1 褐色 (10YR4/4) シルト 径1mmの黄色粒2%含む 径1mmの黒色粒1%含む 締まり強い 粘性強い (S16 覆土)
- 3 濃い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径1mmの赤色粒3%含む 径1mmの黄色粒3%含む 締まり強い 粘性やや強い (S17 覆土)
- 4 濃い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径50mmのロームブロック5%含む 締まり強い 粘性やや強い (S17 覆土)
- 5 褐色 (10YR4/4) シルト 径2mmの赤色粒1%含む 径2mmの黄色粒1%含む 締まり強い 粘性やや強い (S17 覆土)
- 6 濃い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径1mmの赤色粒3%含む 径1mmの黄色粒1%含む 締まり強い 粘性やや強い (S17 覆土)
- 7 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径2mmの赤色粒3%含む 径2mmの黄色粒2%含む 締まり強い 粘性やや強い (S15 覆土)
- 9 黄褐色 (10YR5/6) シルト 径2mmの赤色粒3%含む 締まり強い 粘性やや強い (S12 覆土、S15 壁・底)
- 11 褐色 (10YR4/4) シルト 径30mmのロームブロック10%含む 締まり極めて強い 粘性やや強い (S12 床)
- 12 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 径1mmの黄色粒1%含む 径1mmの黒色粒1%含む 締まり極めて強い 粘性やや強い (S12 掘り方)

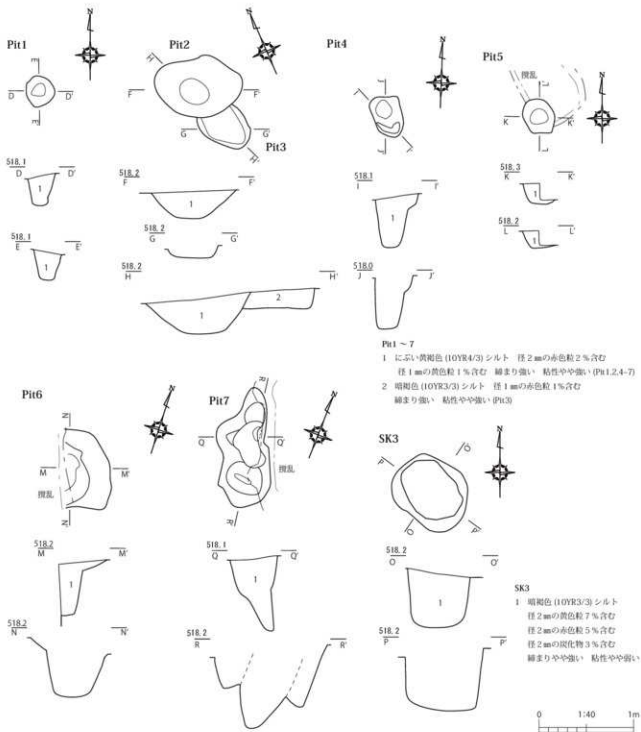
0 1:40 1m

第19図 7号壁穴(1)



517・8・9東西セクション

- 1 黒褐色 (10YR2/3) シルト 径3mmのローム粒1%含む 径3mmの赤色粒1%含む 締まり弱い、粘性やや弱い(表土)
- 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径1mmの赤色粒2%含む 径1mmの炭化物2%含む 径1mmの黄色粒1%含む 締まりやや強い、粘性やや弱い (518覆土)
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径5mmのローム粒2%含む 径2mmの赤色粒1%含む 締まり強い、粘性やや強い (518、Pit2覆土)
- 4 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径1mmの赤色粒3%含む 径1mmの黄色粒3%含む 締まり強い、粘性やや強い (517覆土)
- 5 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径3mmの赤色粒3%含む 径2mmの炭化物1%含む 締まり強い、粘性やや強い (518覆土)
- 6 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 径1mmの黄色粒2%含む 径1mmの赤色粒1%含む 締まり極めて強い、粘性やや強い(地盤、ブラックバンド、第一黒色部)
- 7 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径2mmの黄色粒7%含む 径2mmの赤色粒5%含む 径2mmの炭化物3%含む 締まりやや強い、粘性やや弱い (SK3)



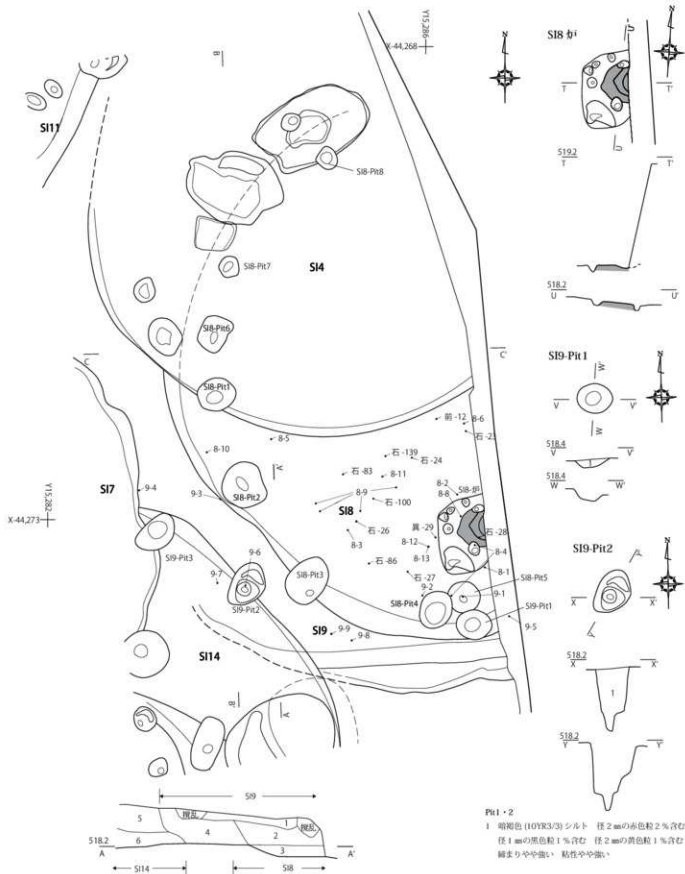
Pit1 ~ 7

- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径2mmの赤色粒2%含む 径1mmの黄色粒1%含む 締まり強い、粘性やや強い (Pit1, 2, 4-7)
- 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径1mmの赤色粒1%含む 締まり強い、粘性やや強い (Pit3)

SK3

- 1 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径2mmの黄色粒7%含む 径2mmの赤色粒5%含む 径2mmの炭化物3%含む 締まりやや強い、粘性やや弱い

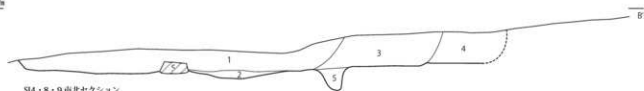
第20図 7号竪穴(2)



SIB・9・12 南北セクション

- 1 黒褐色 (10YR2/3) シルト 径 3mm のローム粒 1% 含む 径 3mm の赤色粒 1% 含む 締まり強い、粘性やや弱い (表土)
- 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 1mm の赤色粒 2% 含む 径 1mm の炭化物 2% 含む 径 1mm の黄色粒 1% 含む 締まりやや強い、粘性やや弱い (SIB 覆土)
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 2mm の赤色粒 1% 含む 締まり強い、粘性やや強い (SIB 覆土)
- 4 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径 2mm の赤色粒 2% 含む 径 1mm の黒色粒 1% 含む 径 2mm の黄色粒 1% 含む 締まりやや強い、粘性やや強い (SI9 覆土)
- 5 褐色 (10YR4/4) シルト 径 2mm の黄色粒 2% 含む 径 1mm の赤色粒 3% 含む 締まり強い、粘性やや強い (SI14 覆土)
- 6 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 2mm の赤色粒 3% 含む 径 5mm の炭化物 1% 含む 締まり強い、粘性強い (SI14 覆土)

第 21 図 8 号・9 号竪穴 (1)



S14・8・9 南北セクション

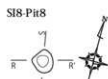
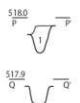
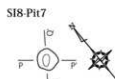
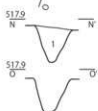
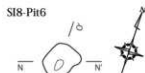
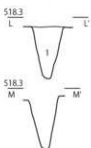
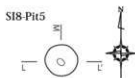
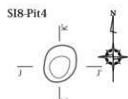
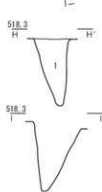
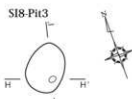
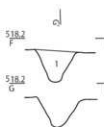
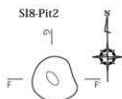
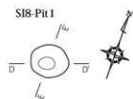
- 1 濃い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 1 mm の赤色粒 2% 含む 径 1 mm の炭化物 2% 含む 径 1 mm の黄色粒 1% 含む 締まりや中強い、粘性や中強い (S14 覆土)
- 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径 2 mm の黄色粒 1% 含む 径 1 mm の赤色粒 1% 含む 締まり強い、粘性や中強い、硬位面
- 3 濃い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 2 mm の赤色粒 1% 含む 締まり強い、粘性や中強い (S18 覆土)
- 4 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径 2 mm の赤色粒 2% 含む 径 1 mm の黒色粒 1% 含む 径 2 mm の黄色粒 1% 含む 締まりや中強い、粘性や中強い (S19 覆土)
- 5 濃い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 5 mm のローム粒 5% 含む 径 2 mm の赤色粒 1% 含む 締まり強い、粘性や中強い (Pit1 覆土)

519.1m
C



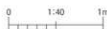
S14 東西セクション

- 1 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径 1 mm の赤色粒 5% 含む 径 1 mm の黄色粒 1% 含む 締まりや中強い、粘性や中強い (S14 覆土)
- 2 濃い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 1 mm の赤色粒 2% 含む 径 1 mm の炭化物 2% 含む 径 1 mm の黄色粒 1% 含む 締まりや中強い、粘性や中強い (S14 覆土)

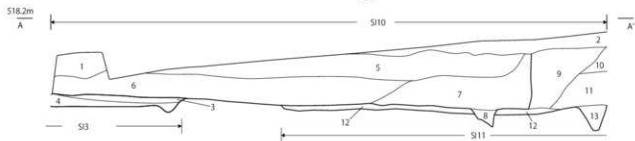
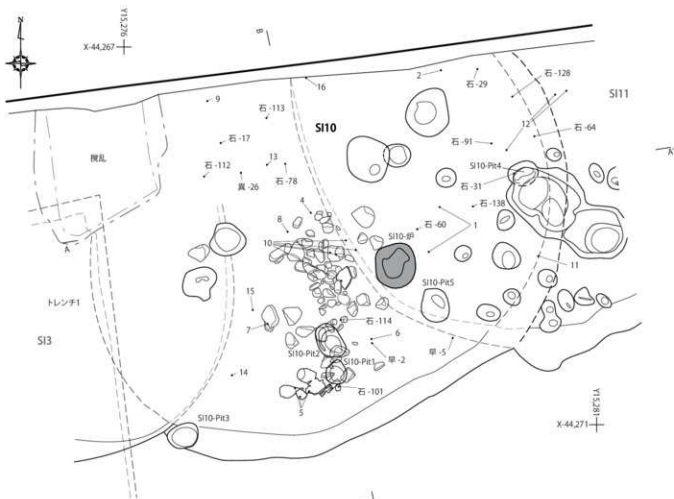


Pit1 ~ 8

- 1 濃い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 5 mm のローム粒 5% 含む 径 2 mm の赤色粒 1% 含む 締まり強い、粘性や中強い

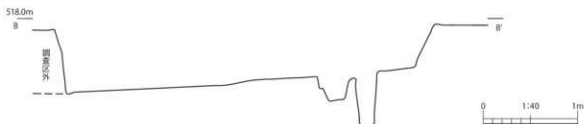


第 22 図 8号・9号竪穴 (2)

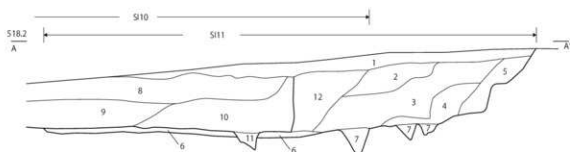
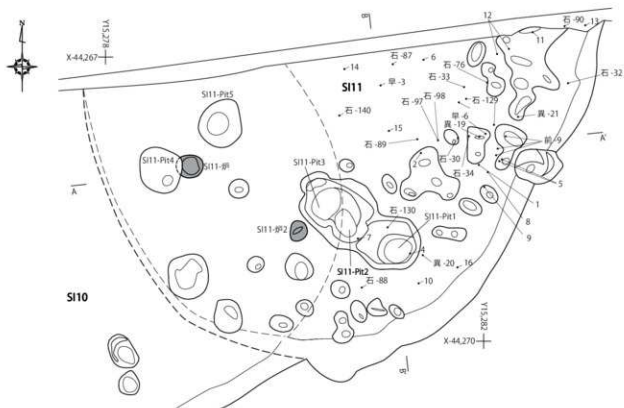


SI10 東西セクション

- 1 黒褐色 (10YR2/3) シルト 径 3mm のローム粒 1% 含む 径 3mm の赤色粒 1% 含む 締まり弱い 粘性弱い (表土)
- 2 黄褐色 (10Y5/6) シルト 径 1mm の赤色粒 1% 含む 径 1mm の黄色粒 1% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い (ソフトローム層)
- 3 黄褐色 (10YR5/6) シルト 径 50mm のローム粒 10% 含む 締まり強い 粘性やや強い (SI3)
- 4 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 1mm の赤色粒 2% 含む 径 1mm の黄色粒 1% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI3)
- 5 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 1mm の赤色粒 1% 含む 径 3mm の黄色粒 1% 含む 径 1mm の黒色粒 1% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI10)
- 6 褐色 (10YR4/4) シルト 径 1mm の赤色粒 3% 含む 径 1mm の黄色粒 1% 含む 径 1mm の黒色粒 1% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI10)
- 7 暗褐色 (10YR3/4) シルト 径 1mm の赤色粒 1% 含む 径 1mm の黄色粒 1% 含む 径 1mm の黒色粒 1% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI10)
- 8 褐色 (10YR4/4) シルト 径 1mm の赤色粒 1% 含む 径 1mm の黄色粒 1% 含む 径 1mm の黒色粒 1% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI10P4)
- 9 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 1mm の赤色粒 3% 含む 径 1mm の黄色粒 2% 含む 締まり強い 粘性やや強い (SI10、壁の補強層?)
- 10 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 5mm の赤色粒 2% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI11)
- 11 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径 5mm のローム粒 7% 含む 径 5mm の赤色粒 2% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI11)
- 12 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 10mm のローム粒 5% 含む 締まり強い 粘性やや強い (SI11)
- 13 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 径 2mm の黄色粒 3% 含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI11 小 Pit)

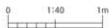
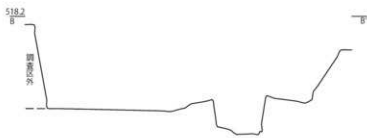


第 23 図 10 号・11 号竪穴 (1)

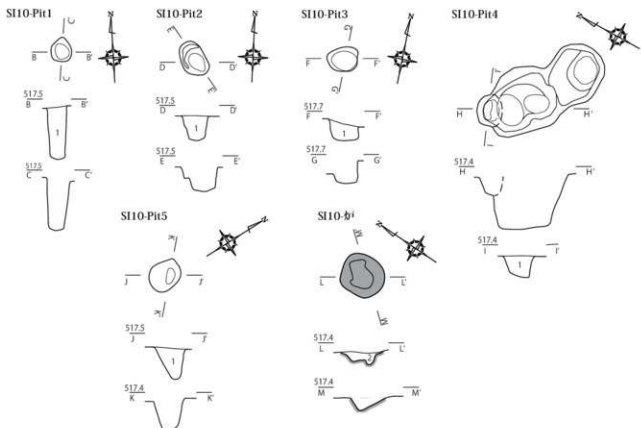


SI11 東西セクション

- 1 黄褐色 (10Y5/6) シルト 径1mmの赤色粒1%含む 径1mmの黄色粒1%含む 締まりやや強い 粘性やや強い (ソフトローム層)
- 2 に近い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径5mmの赤色粒2%含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI11)
- 3 明褐色 (10YR3/3) シルト 径5mmのローム粒7%含む 径5mmの赤色粒2%含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI11)
- 4 に近い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径5mmのローム粒7%含む 径5mmの赤色粒2%含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI11)
- 5 に近い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径50mmのロームブロック10%含む 径1mmの赤色粒1%含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI11)
- 6 に近い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径10mmのローム粒5%含む 締まり強い 粘性やや強い (SI11)
- 7 に近い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径2mmの黄色粒3%含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI11 小Pit)
- 8 に近い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径1mmの赤色粒1%含む 径3mmの黄色粒1%含む 径1mmの黒色粒1%含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI10)
- 8 褐色 (10YR4/4) シルト 径1mmの赤色粒3%含む 径1mmの黄色粒1%含む 径1mmの黒色粒1%含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI10)
- 9 明褐色 (10YR3/4) シルト 径1mmの赤色粒1%含む 径1mmの黄色粒1%含む 径1mmの黒色粒1%含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI10)
- 10 褐色 (10YR4/4) シルト 径1mmの赤色粒1%含む 径1mmの黄色粒1%含む 径1mmの黒色粒1%含む 締まりやや強い 粘性やや強い (SI10Pit4)
- 11 に近い黄褐色 (10YR4/3) シルト 径1mmの赤色粒3%含む 径1mmの黄色粒2%含む 締まり強い 粘性やや強い (SI10 覆土、壁の補強?)

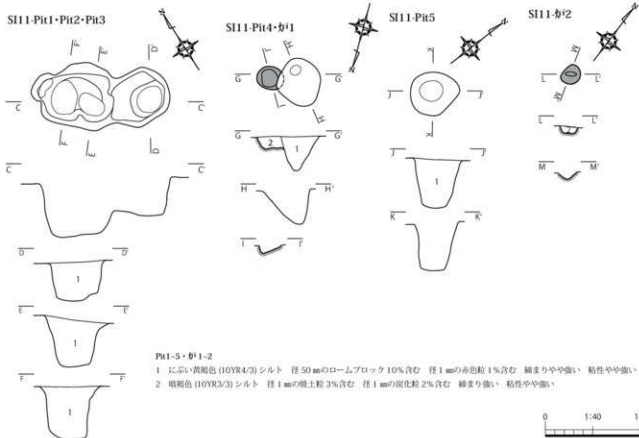


第24図 10号・11号竪穴(2)



Pit1-5・b1

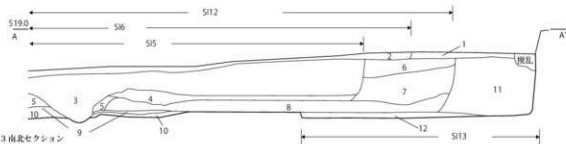
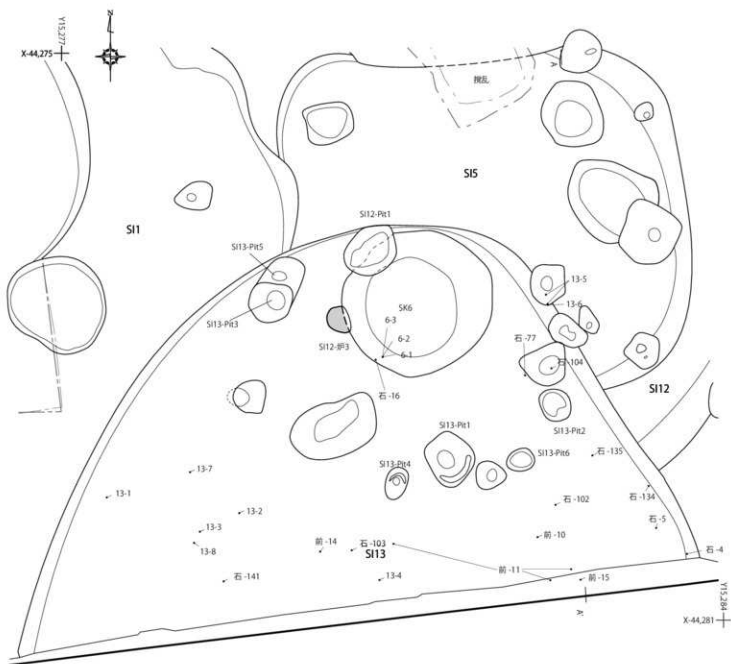
- 1 褐色(10YR4/4)シルト 径1mmの赤色粒1%含む 径1mmの黄色粒1%含む 径1mmの黒色粒1%含む 締まりやや強い 粘性やや強い
- 2 褐色(10YR4/4)シルト 径1mmの焼土粒3%含む 径1mmの炭化粒2%含む 締まり強い 粘性やや強い



Pit1-5・b1-2

- 1 に近い黄褐色(10YR4/3)シルト 径50mmのロームブロック10%含む 径1mmの赤色粒1%含む 締まりやや強い 粘性やや強い
- 2 暗褐色(10YR3/3)シルト 径1mmの焼土粒3%含む 径1mmの炭化粒2%含む 締まり強い 粘性やや強い

第25図 10号・11号竪穴(3)

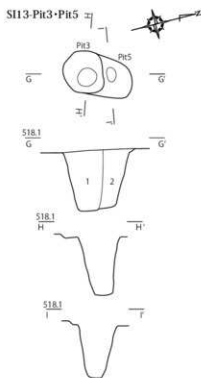
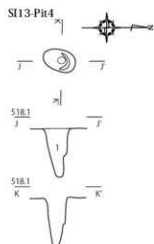
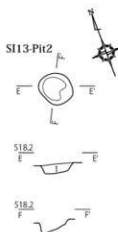
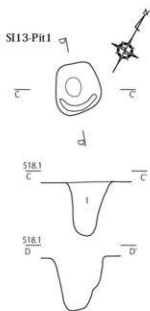


SI13 南北セクション

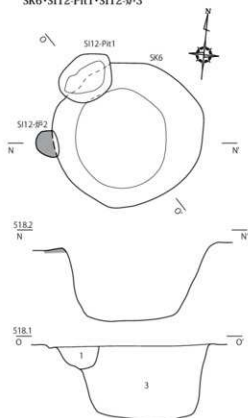
- 1 明黄褐色 (10YR6/8) シルト 径1mmの赤色土2%含む 径1mmの黄色粒1%含む 締まりやや強い 粘性やや強い (地山、ゾフトローム風?)
- 2 褐色 (10YR4/4) シルト 径1mmの黄色粒2%含む 径1mmの黒色粒1%含む 締まり強い 粘性強い (SI6 覆土)
- 3 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径2mmの赤色粒3%含む 径2mmの黄色粒2%含む 締まり強い 粘性やや強い (SI5 覆土)
- 4 黄褐色 (10YR5/6) シルト 径50mmのロームブロック5%含む 締まり極めて強い 粘性やや強い (SI5 床)
- 5 黄褐色 (10YR5/8) シルト 径2mmの赤色粒3%含む 締まり強い 粘性やや強い (SI12 覆土, SI5 埋床)
- 6 褐色 (10YR4/4) シルト 径2mmの黄色粒2%含む 径1mmの赤色粒3%含む 締まり強い 粘性やや強い (SI12 覆土)
- 7 暗褐色 (10YR3/4) シルト 径2mmの赤色粒5%含む 締まり強い 粘性やや強い (SI12 覆土)
- 8 褐色 (10YR4/4) シルト 径3mmの赤色粒5%含む 径3mmの黄色粒5%含む 径2mmの炭化物1%含む 締まり強い 粘性やや強い (SI12 覆土)
- 9 暗褐色 (10YR4/4) シルト 径30mmのロームブロック10%含む 締まり極めて強い 粘性やや強い (SI12 床)
- 10 灰黄褐色 (10YR 4/2) シルト 径1mmの黄色粒1%含む 径1mmの黒色粒1%含む 締まり極めて強い 粘性やや強い (SI12 埋方)
- 11 褐色 (10YR4/4) シルト 径3mmの白色粒5%含む 径1mmの炭化物1%含む 締まり強い 粘性やや強い (SI13 覆土)
- 12 黄褐色 (10YR5/8) シルト 径20mmのロームブロック5%含む 締まり極めて強い 粘性やや強い (SI13 覆土)



第26図 13号竪穴 (1)



SK6・SI12-Pit1・SI12-b'3

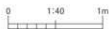


SK6・SI12Pit1

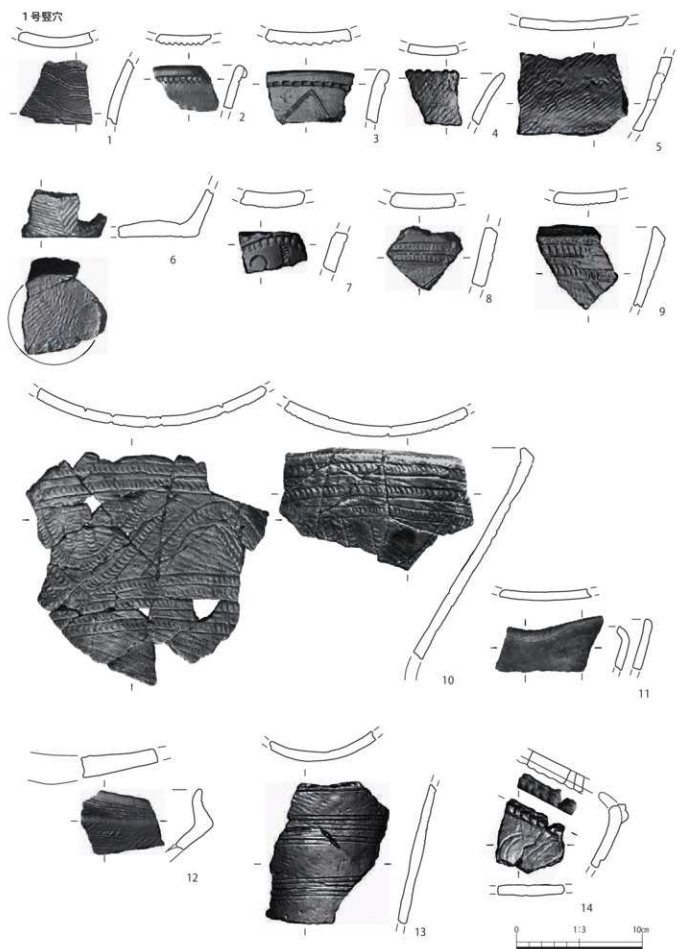
- 1 暗褐色 (10YR3/4) シルト 径 2mm の赤色粒 5% 含む
径 2mm の黄色粒 3% 含む 粘り強い
粘性や強い (SI12-Pit1)
- 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト 径 2mm の黄色粒 2% 含む
径 1mm の白色粒 1% 含む 粘り強い
粘性や強い (SK6)

Pit1 ~ 6

- 1 褐色 (10YR4/4) シルト 径 3mm の赤色粒 5% 含む 径 3mm の黄色粒 5% 含む 径 2mm の炭化物 1% 含む
粘り強い 粘性や強い (Pit1 ~ 4,6)
- 2 暗褐色 (10YR3/4) シルト 径 2mm の赤色粒 5% 含む 径 2mm の黄色粒 3% 含む 径 2mm の炭化物 1% 含む
粘り強い 粘性や強い (Pit5)



第 27 図 13号竪穴 (2)

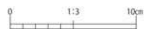
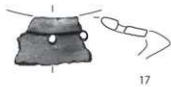
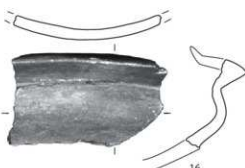
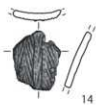
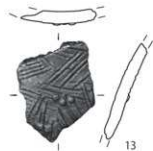
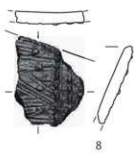
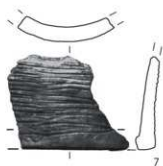
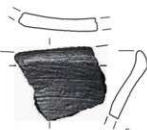
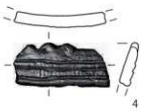
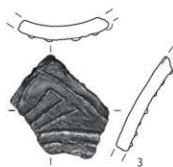
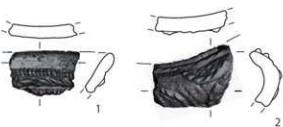


第 28 图 土器 (1号竖穴)

1号竖穴

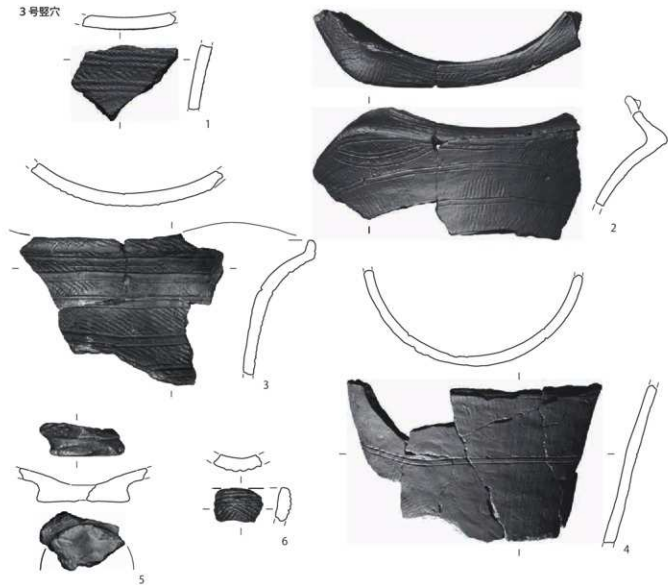


2号竖穴

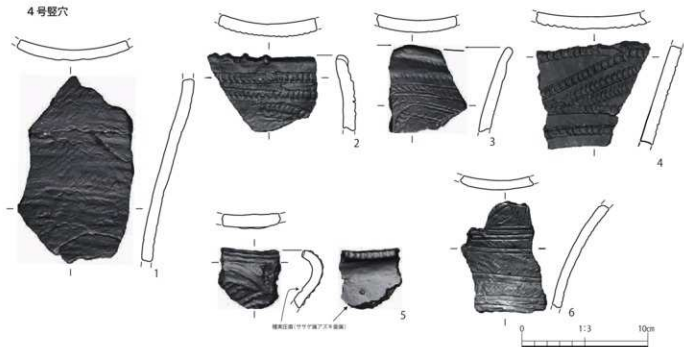


第29图 土器(1号·2号竖穴)

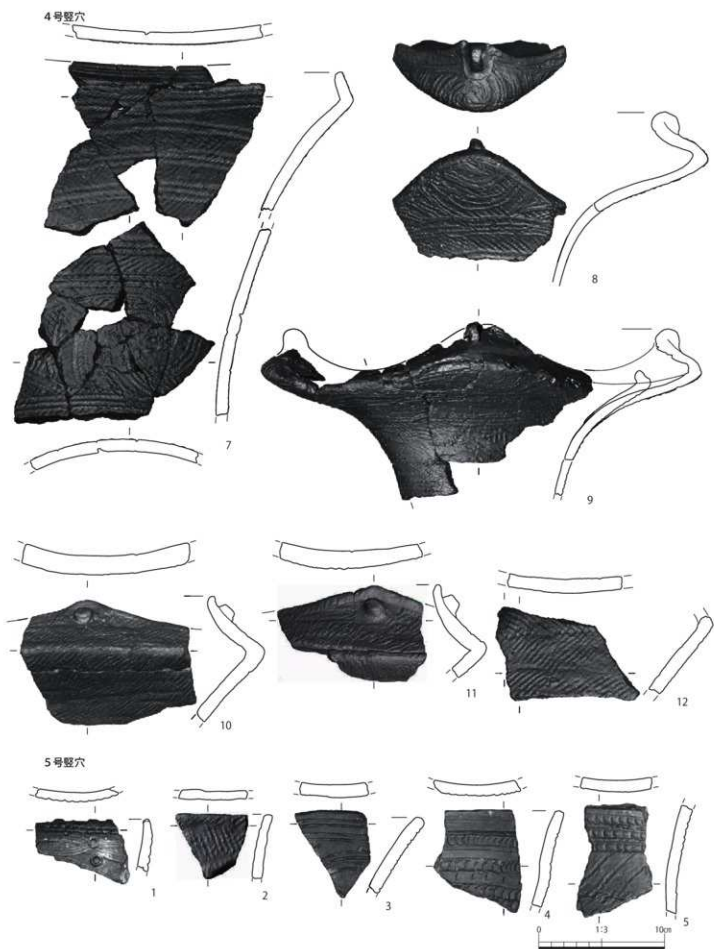
3号竖穴



4号竖穴

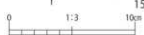
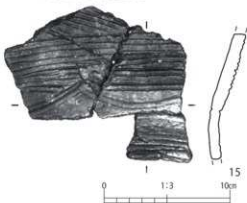
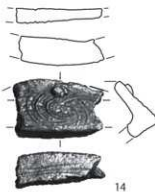
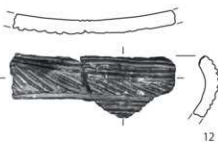
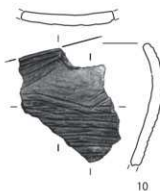
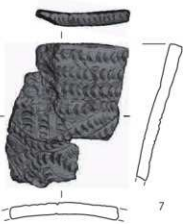
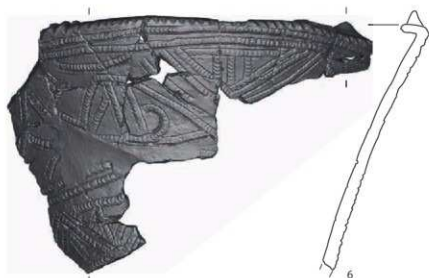


第30图 土器 (3号竖穴)



第31图 土器(4号·5号竖穴)

5号竖穴

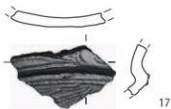


第32图 土器 (5号竖穴)

5号竖穴



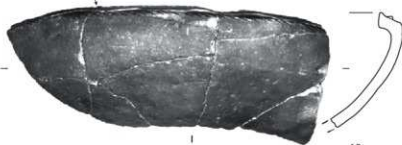
16



17



横溝(深約1)



19



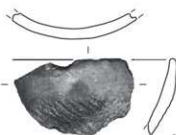
21



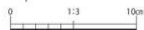
18



20

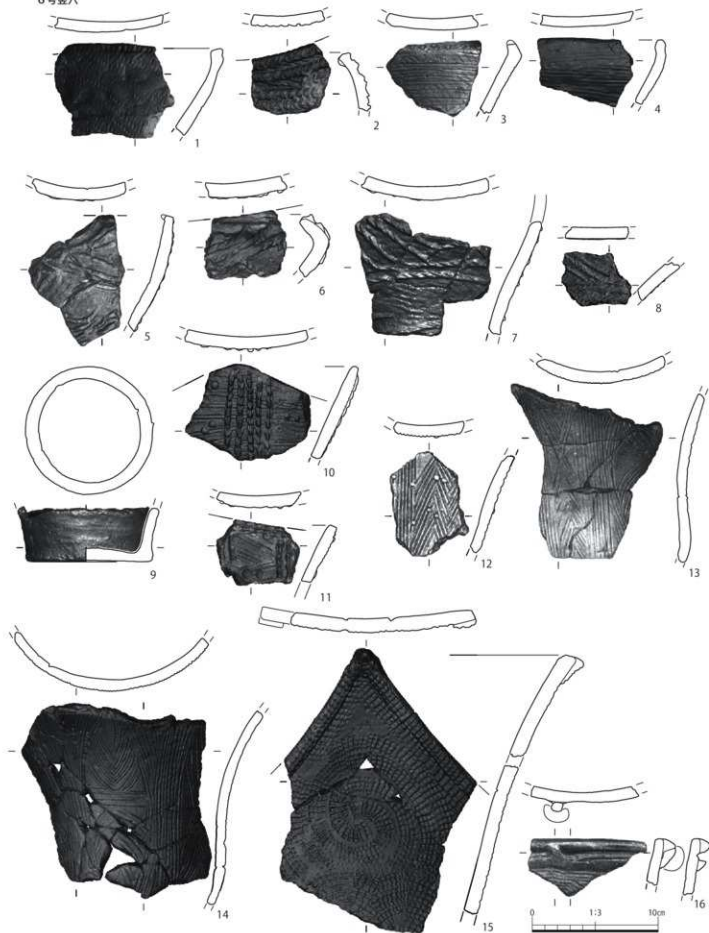


22



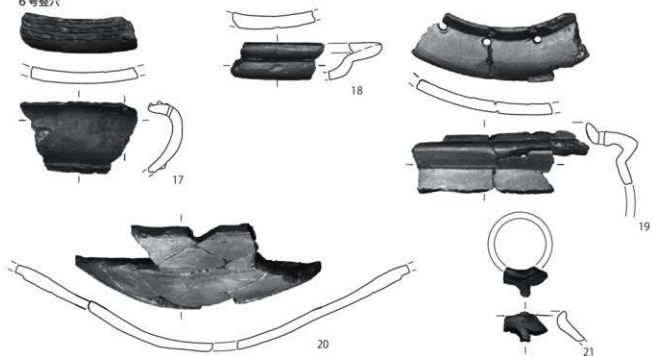
第33图 土器 (5号竖穴)

6号竖穴

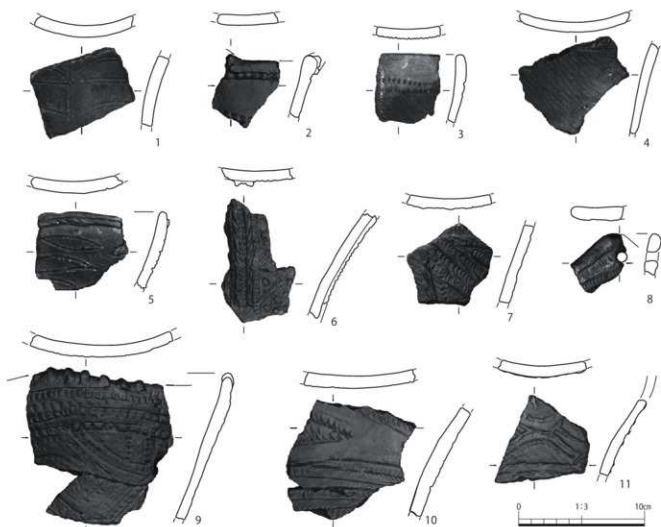


第34图 土器 (6号竖穴)

6号竖穴



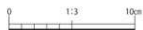
7号竖穴



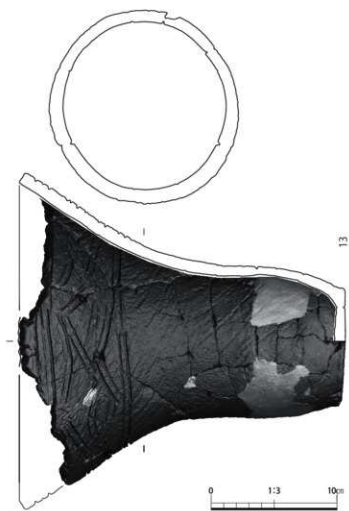
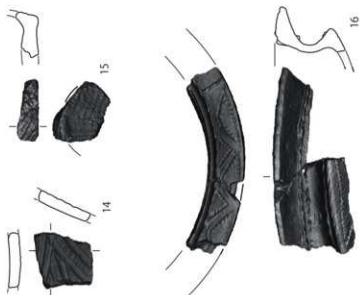
第35图 土器 (6号·7号竖穴)



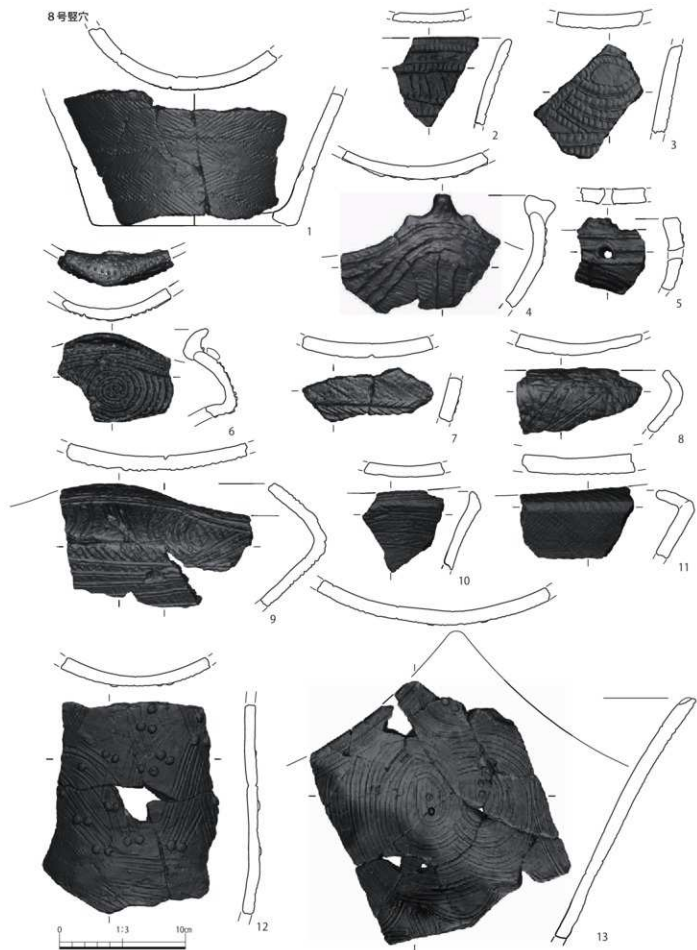
第 36 图 土器 (7号竖穴)



7号竖穴

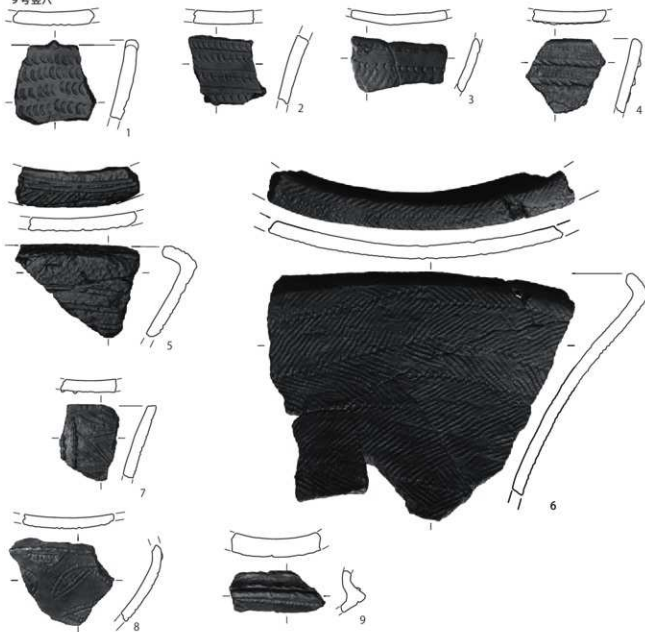


第 37 图 土器 (7号竖穴)

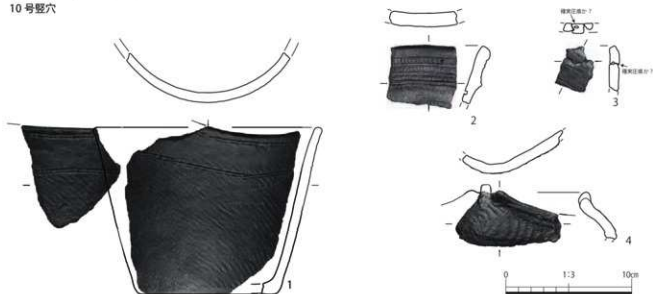


第38图 土器 (8号竖穴)

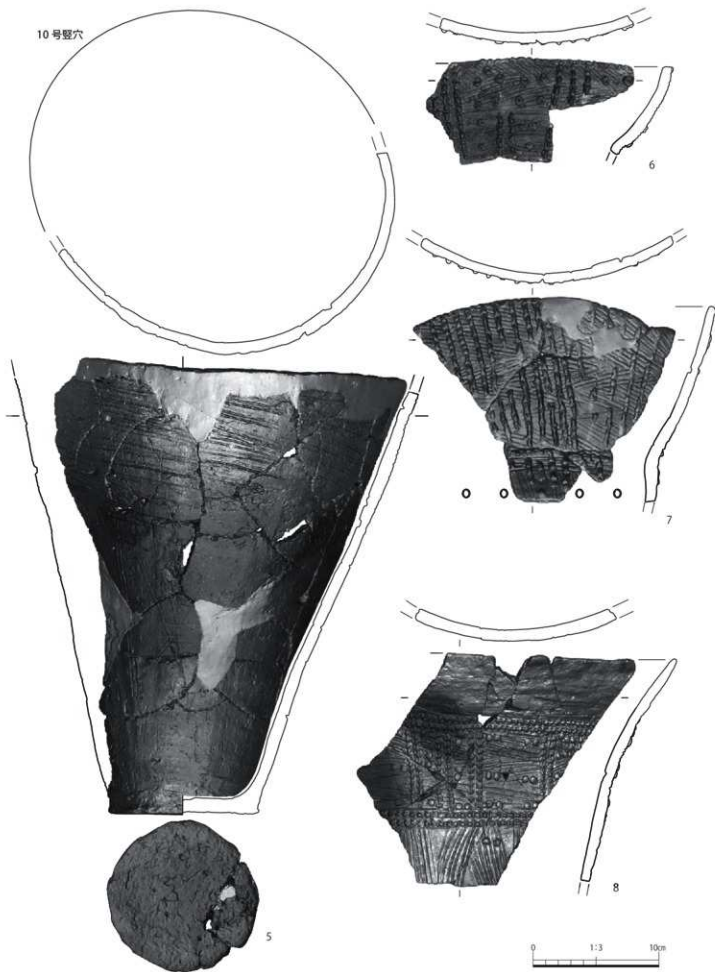
9号整穴



10号整穴

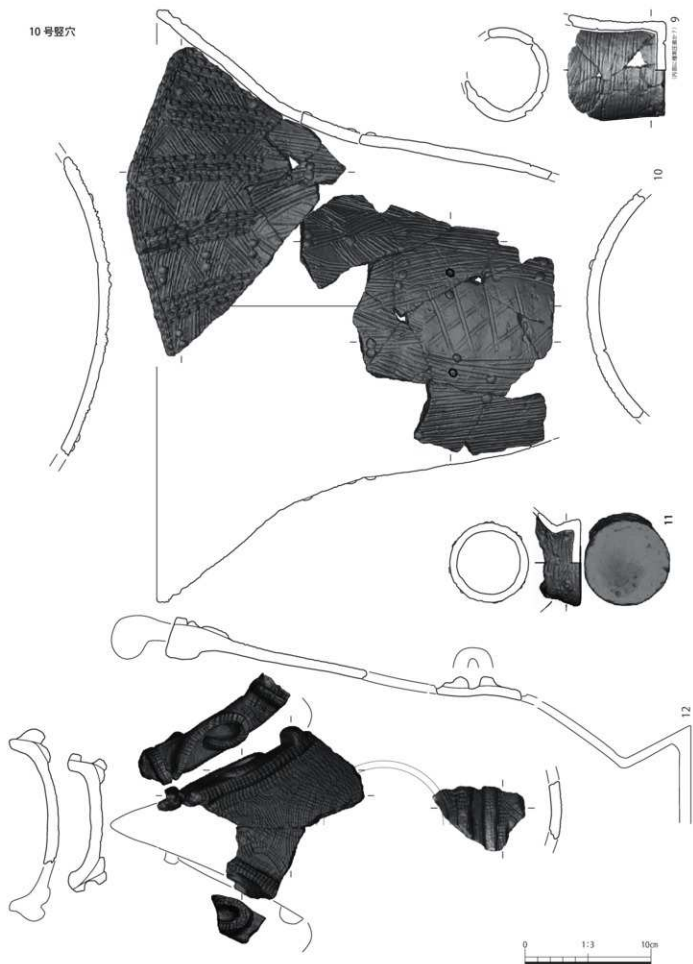


第39图 土器(9号·10号整穴)



第40图 土器 (10号竖穴)

10号竖穴

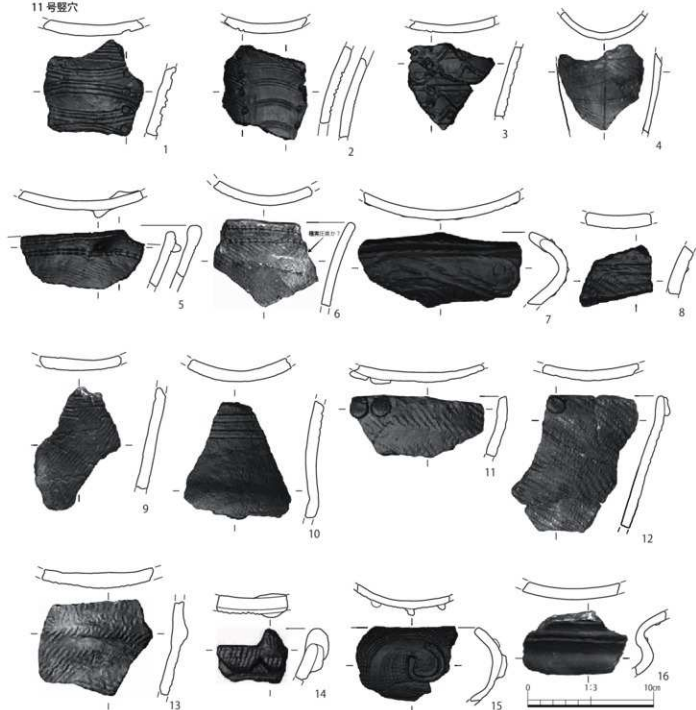


第41图 土器 (10号竖穴)

10号竖穴

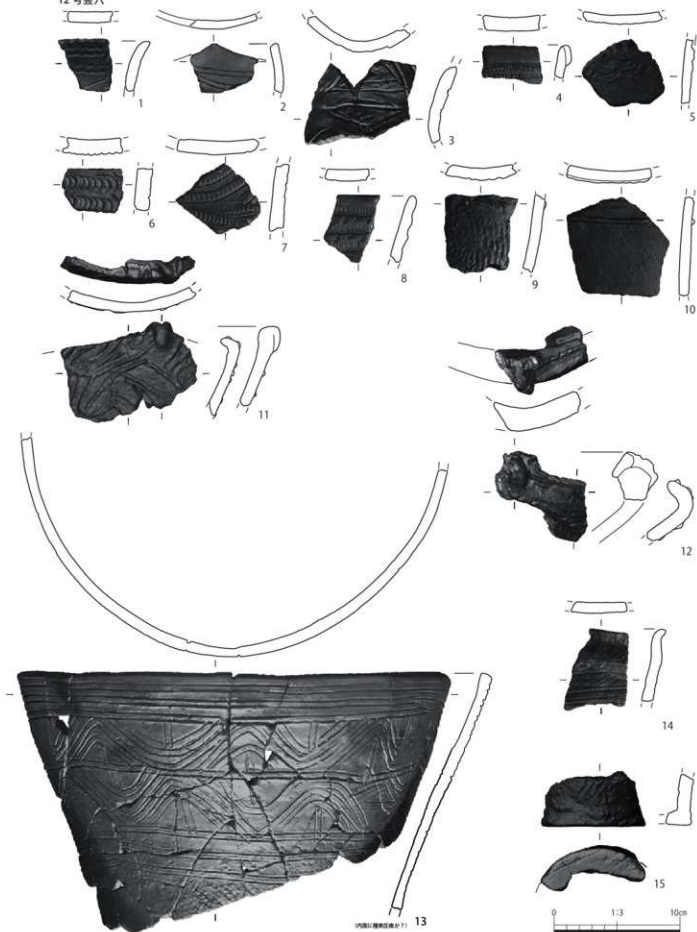


11号竖穴



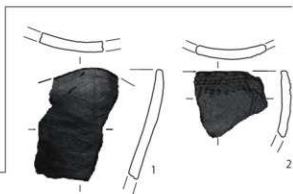
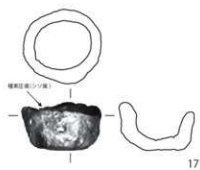
第42图 土器 (10号·11号竖穴)

12号竖穴

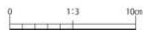
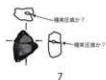
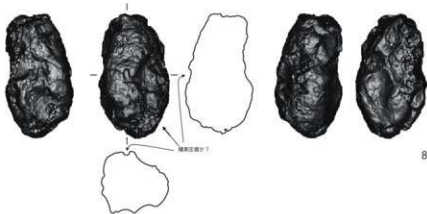
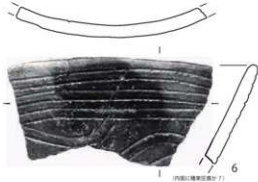
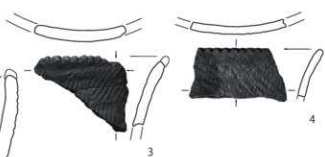
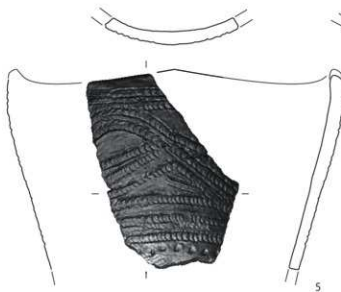


第43图 土器 (12号竖穴)

12号竪穴

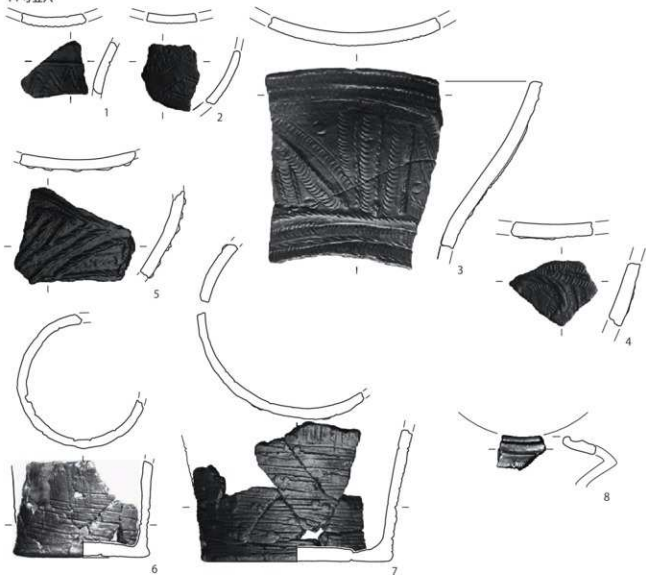


13号竪穴

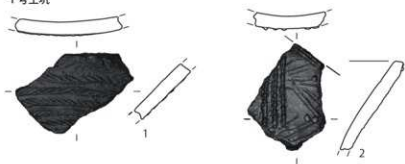


第44図 土器 (12号・13号竪穴)

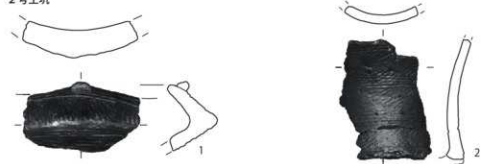
14号竖穴



1号土坑

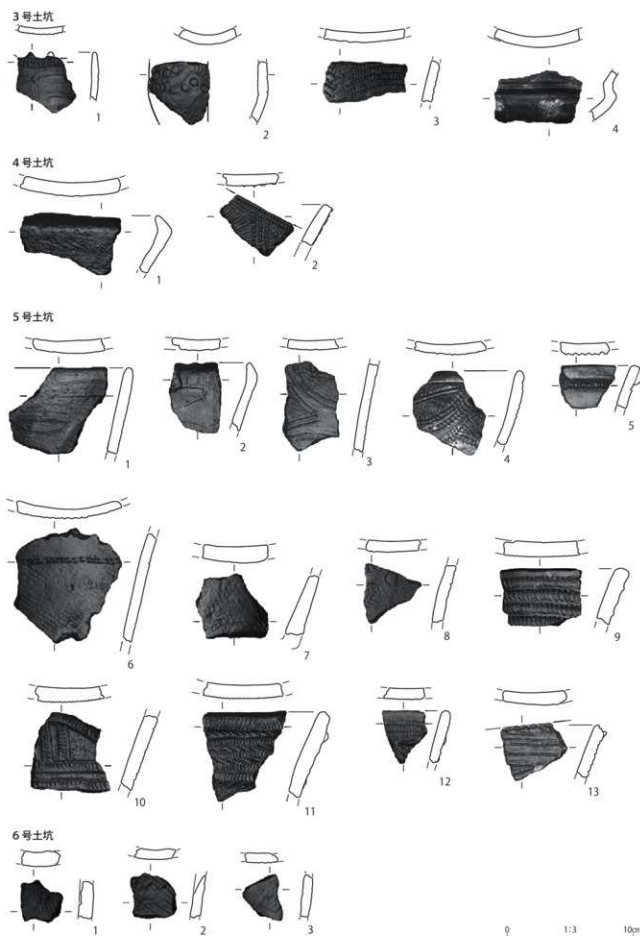


2号土坑



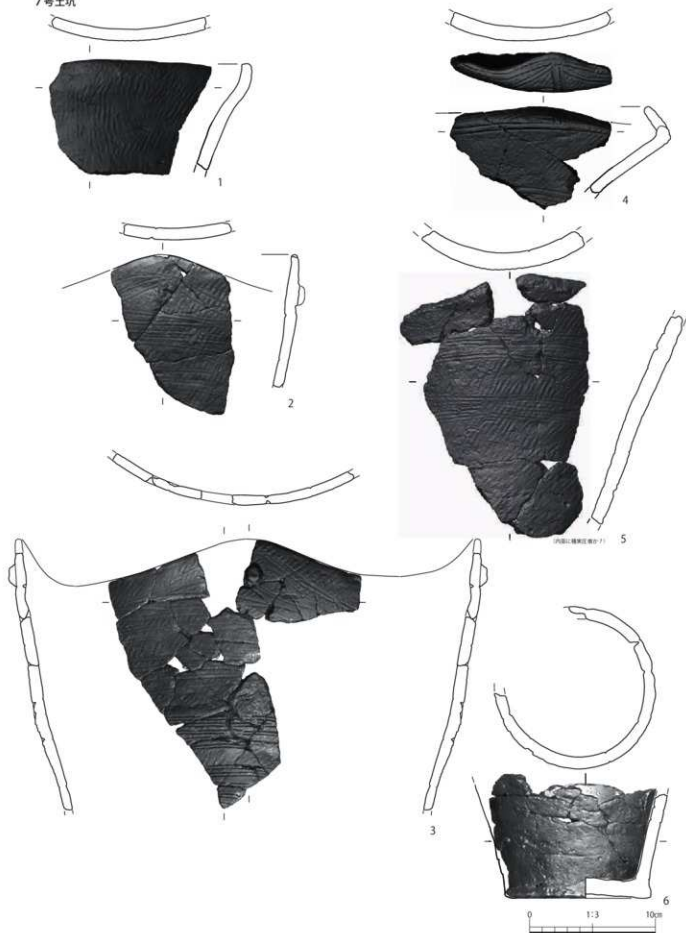
第45图 土器 (14号竖穴、1号·2号土坑)





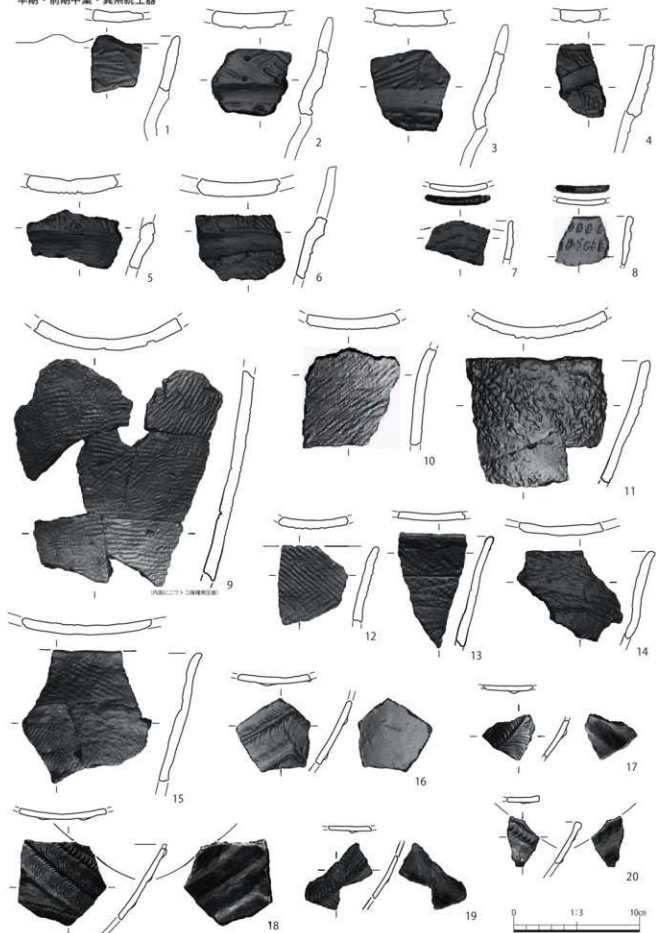
第46图 土器(3号~6号土坑)

7号土坑



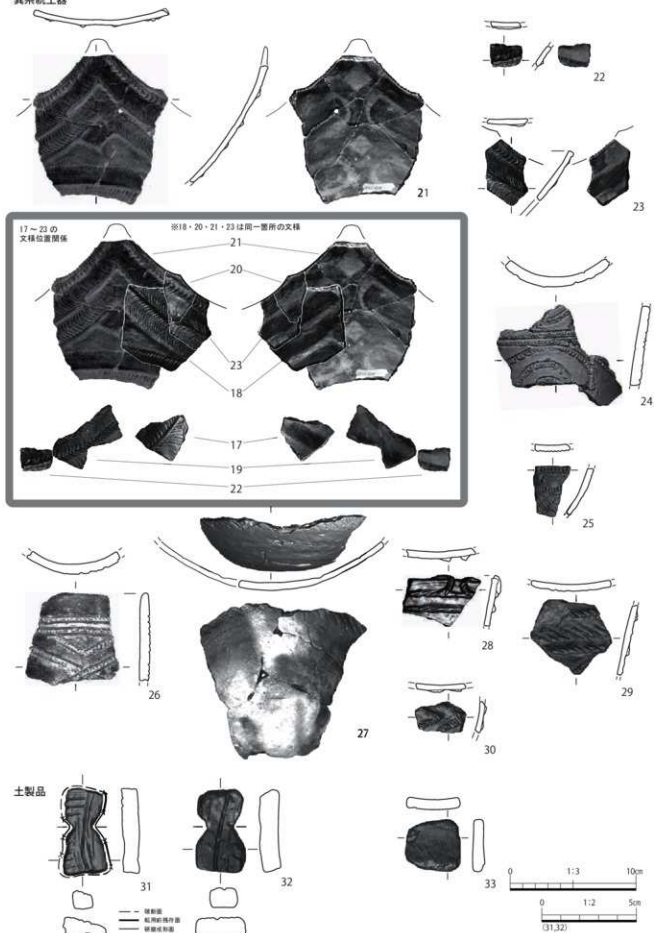
第 47 图 土器 (7号土坑)

早期・前期中葉・異系統土器

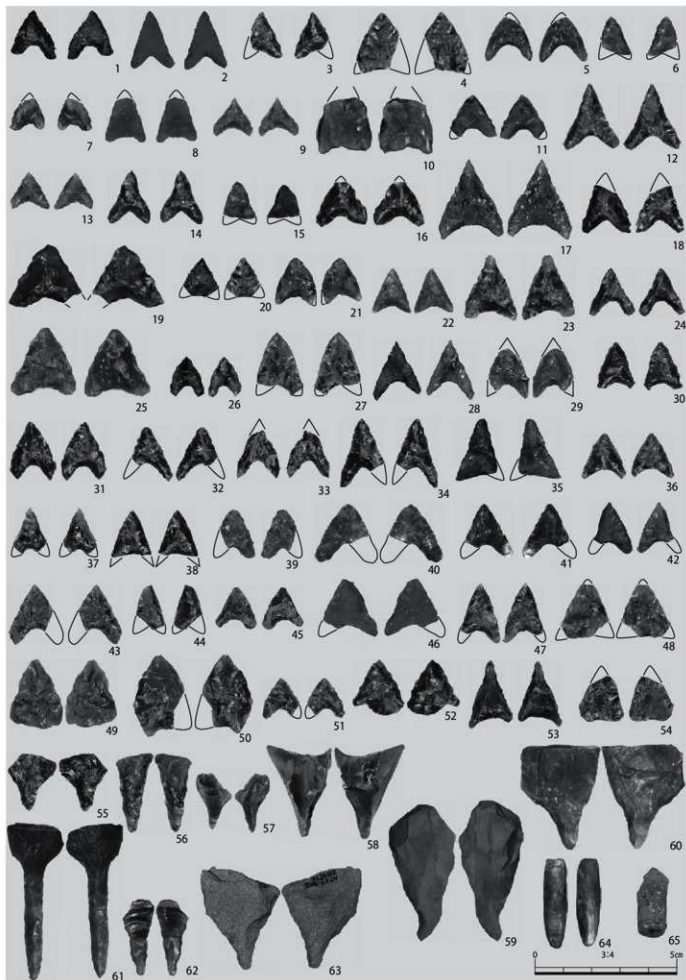


第48図 土器（早期、前期中葉、異系統）

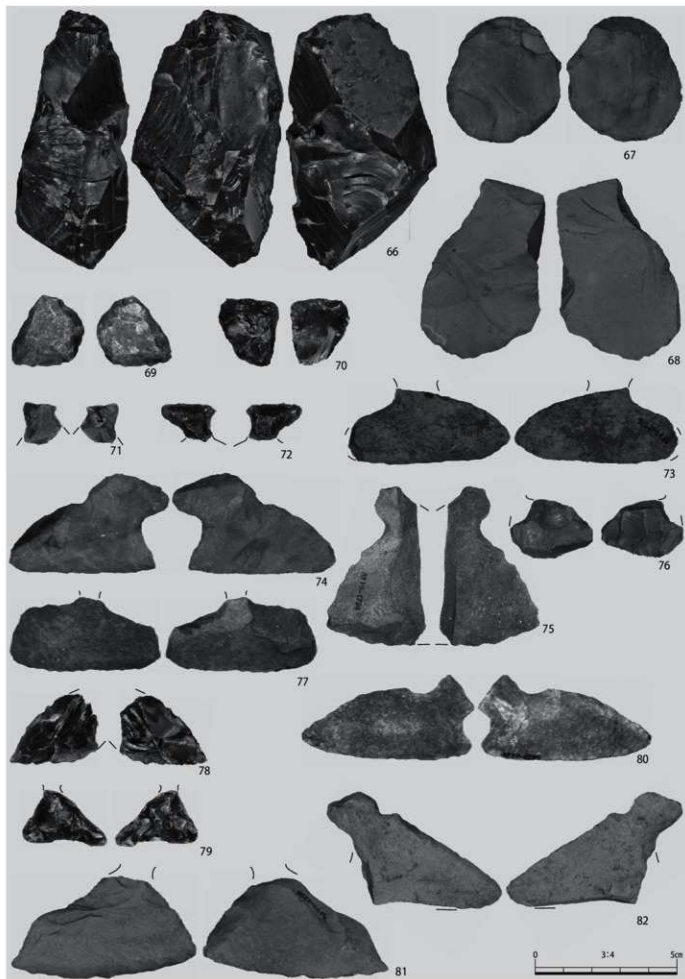
異系統土器



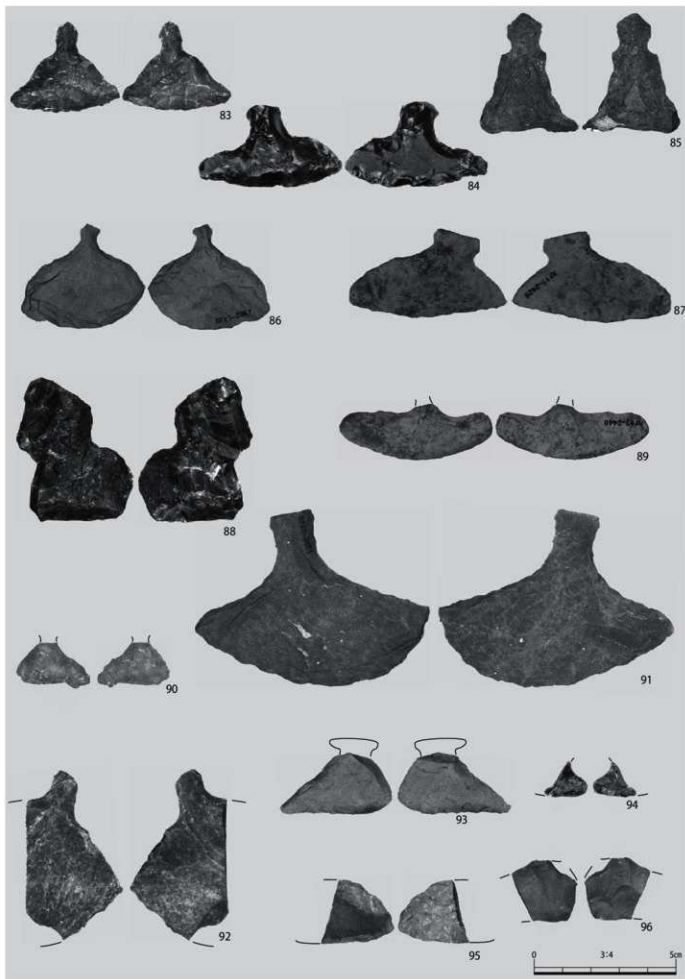
第49図 土器（異系統）、土製品



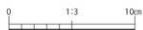
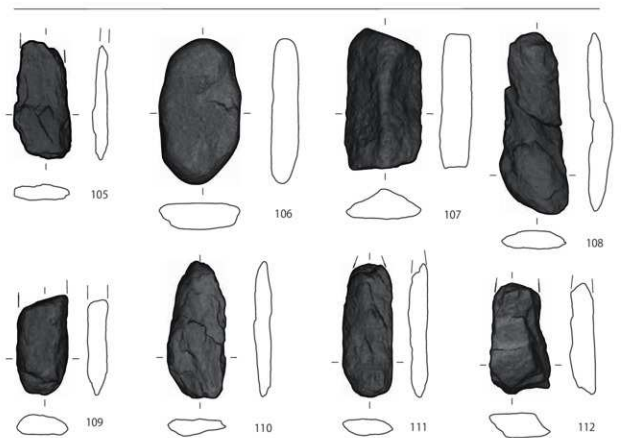
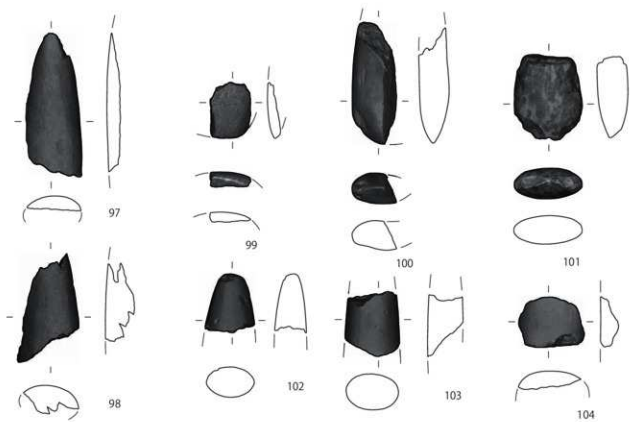
第50図 石器(石鏃、石錐、垂飾、原石)



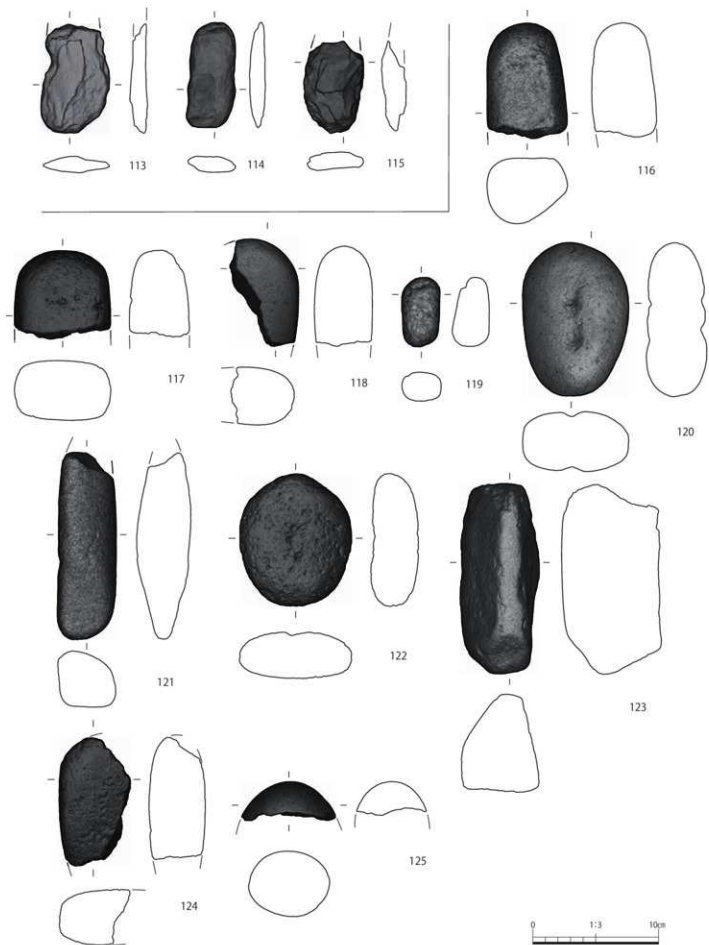
第 51 図 石器（原石、スクレイパー、石匙）



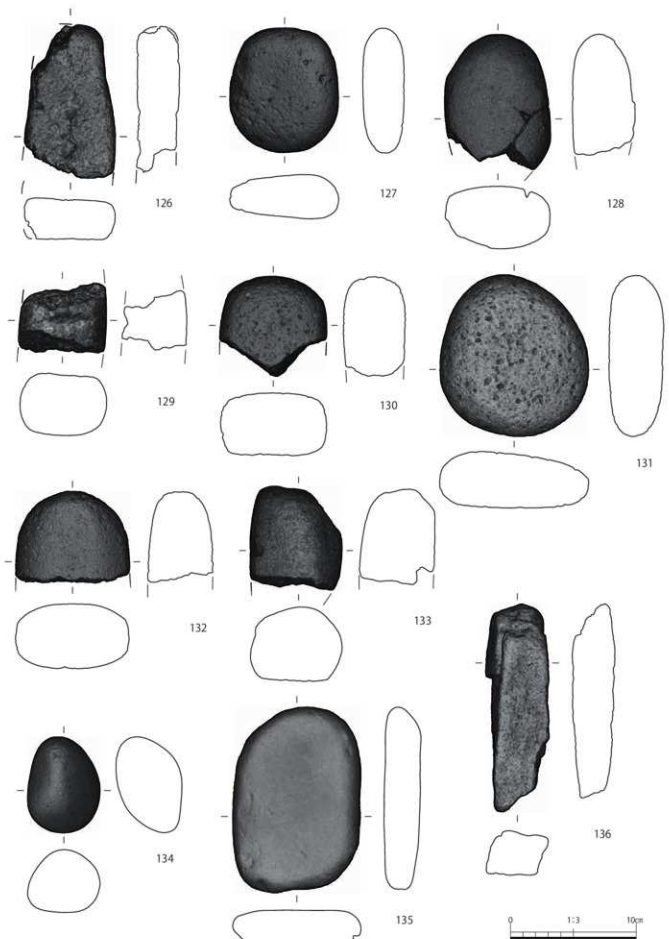
第 52 図 石器 (石匙)



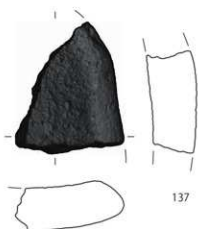
第53圖 石器（磨製石斧、打製石斧）



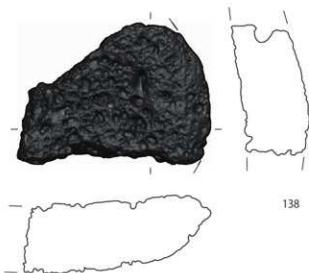
第 54 图 石器 (打製石斧、磨石)



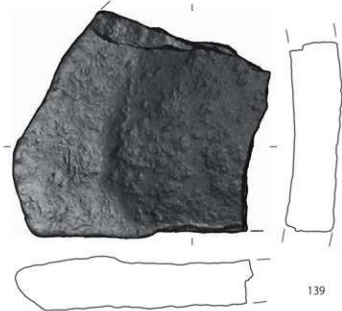
第55圖 石器(磨石、砥石)



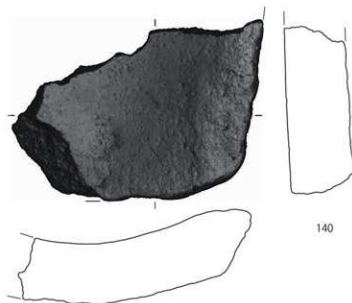
137



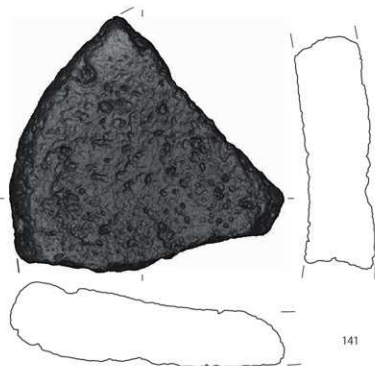
138



139



140



141



第56図 石器(石皿)

建築番号	遺構名	遺物の種類	種別	時期	用途	位置	寸法	高さ	数量	色調	形状	材質	備考
41	1195	6	瓦文土器	陶器	陶器	腰の口縁部瓦片	-	-	13.8	褐色土3000-9	筒形	赤土-赤土質	
42	1196	7	瓦文土器	陶器	陶器	腰の口縁部瓦片	-	-	13.8	褐色土3000-9	筒形	赤土-赤土質	
43	1197	8	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部瓦片、土師土器の口縁部	-	-	15.6	褐色土3000-9	筒形	赤土-赤土質	腰の口縁部瓦片
44	1198	9	瓦文土器	陶器	陶器	腰文土器、腰の口縁部瓦片	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土-赤土質	
45	1199	10	瓦文土器	陶器	陶器	腰文土器、腰の口縁部瓦片	-	-	17.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土-赤土質	腰の口縁部瓦片
46	1200	11	瓦文土器	陶器	土器	腰文土器、土師土器の口縁部	-	-	17.8	褐色土3000-9	筒形	赤土-赤土質	
47	1201	12	瓦文土器	陶器	土器	腰文土器、土師土器の口縁部	-	-	18.0	褐色土3000-9	筒形	赤土-赤土質	
48	1202	13	瓦文土器	陶器	土器	腰文土器、土師土器の口縁部	-	-	18.0	褐色土3000-9	筒形	赤土-赤土質	
49	1203	14	瓦文土器	陶器	土器	腰文土器、土師土器の口縁部	-	-	18.0	褐色土3000-9	筒形	赤土-赤土質	
50	1204	15	瓦文土器	陶器	土器	腰文土器、土師土器の口縁部	-	-	18.0	褐色土3000-9	筒形	赤土-赤土質	
51	1205	16	瓦文土器	陶器	土器	腰文土器、土師土器の口縁部	-	-	18.0	褐色土3000-9	筒形	赤土-赤土質	
52	1206	17	瓦文土器	土師土器	土師土器	腰文土器	4.0	3.0	2.5	褐色土3000-9	筒形	赤土-赤土質	
53	1207	1	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部、赤土、黒土、赤土	-	-	16.2	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
54	1208	2	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
55	1209	3	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
56	1210	4	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
57	1211	5	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
58	1212	6	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
59	1213	7	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
60	1214	8	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
61	1215	9	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
62	1216	10	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
63	1217	11	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
64	1218	12	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
65	1219	13	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
66	1220	14	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
67	1221	15	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
68	1222	16	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
69	1223	17	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
70	1224	18	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
71	1225	19	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
72	1226	20	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
73	1227	21	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
74	1228	22	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
75	1229	23	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
76	1230	24	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
77	1231	25	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
78	1232	26	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
79	1233	27	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
80	1234	28	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
81	1235	29	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
82	1236	30	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
83	1237	31	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
84	1238	32	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
85	1239	33	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
86	1240	34	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
87	1241	35	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
88	1242	36	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
89	1243	37	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
90	1244	38	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
91	1245	39	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
92	1246	40	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
93	1247	41	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
94	1248	42	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
95	1249	43	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
96	1250	44	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
97	1251	45	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
98	1252	46	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
99	1253	47	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	
100	1254	48	瓦文土器	陶器	土器	腰の口縁部	-	-	16.8	白土-赤褐色土3000-4	筒形	赤土	

第5章 自然科学分析

第1節 花鳥山遺跡出土の彩文土器に利用された赤色顔料の科学的調査

三浦麻衣子・藤澤 明 (帝京大学文化財研究所)

1. 目的

彩文土器に付着した赤色顔料の同定を行うため、蛍光 X 線分析による元素分析とデジタル顕微鏡による形態観察を行った。

2. 分析方法

元素分析には可搬型蛍光 X 線分析装置 (Innov-X Systems DELTA PREMIUM DP-4000) を使用し、非破壊で行った。分析モードは 2 Beam Mining Plus を使用し、タンタル管球の電圧を自動で 40kV と 10kV に切り替えて測定することにより塩素、硫黄、カルシウムなどの軽元素の分析も可能である。分析時間は 90 [sec] とし、X 線の照射範囲は約 10mm である。赤色顔料が塗られている部分と塗られていない部分について測定を行い、分析結果を比較し検討を行った。

赤色顔料部分の観察にはデジタル顕微鏡 (Hirox RH-2000) を使用した。土器の表面は埋蔵時の土の影響があることから、なるべく赤色顔料が鮮明に観察できる箇所を選んで観察を行った。

3. 結果

蛍光 X 線分析の測定位置を図 1 に、測定で得られた蛍光 X 線スペクトルを図 2 (a) ~ (d) で示す。赤色顔料が塗られている部分からは外面・内面ともに、Si (ケイ素)、K (カリウム)、Ca (カルシウム)、Ti (チタン)、Mn (マンガン)、Fe (鉄)、Sr (ストロンチウム)、Zr (ジルコニウム) を検出した。Hg (水銀) が検出されなかったため、赤色顔料が朱 (HgS) でないことが確認できた。赤色顔料が塗られていない部分の内面・外面からは Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Sr、Zr を検出した。検出したこれらの元素は土器の胎土に由来すると考えられる。

赤色顔料が塗られている部分と塗られていない部分の測定結果を比較すると、検出元素は同じであるが、蛍光 X 線スペクトルにおいて Fe の検出強度が異なっており、赤色顔料が塗られている部分の方が Fe を強く検出している。以上のことから、土器の内面・外面ともに利用された赤色顔料は Fe 由来の顔料であるベンガラと考えられる。

図 3 にデジタル顕微鏡による観察で得られた画像を示す。図 3 (a) では長さ約 15 μ m の棒状の構造が、図 3 (b) では棒状の構造が押しつぶされた状態で複数存在することが観察できた。ベンガラは鉄バクテリアの鞘状殻に由来するパイプ状のものと赤鉄鉱などの鉱物を原料とするものが知られている。棒状の構造がパイプ状ならば、本資料に利用されている赤色顔料はパイプ状ベンガラである可能性を示唆できる。今後、パイプ状ベンガラであるかを明確にするには、電子顕微鏡を用いた観察を行う必要がある。

[参考文献]

- ・北野信彦『ベンガラ塗装史の研究』雄山閣、2013年
- ・藤澤明・三橋友暁「横浜市高田貝塚出土の諸磯式土器に使用された赤色顔料の科学的調査」『帝京史学』第33号、pp.382-374、2018年

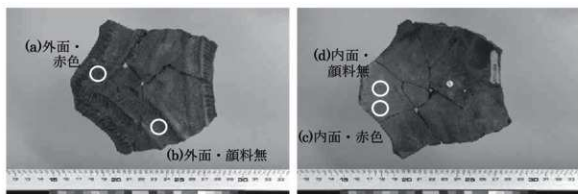


図1. 測定位置

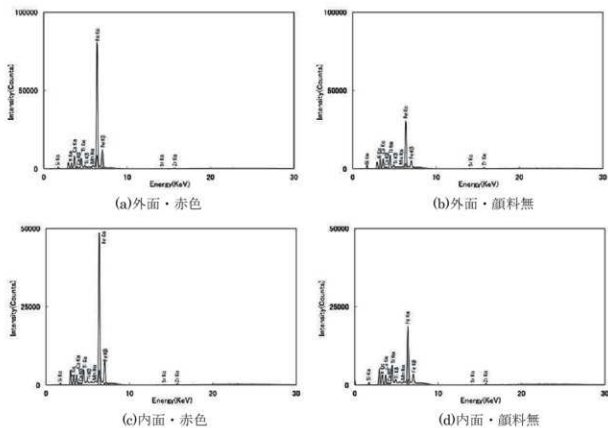


図2. 蛍光 X 線スペクトル

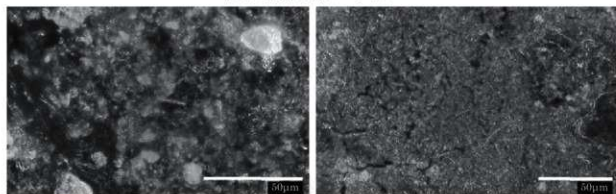


図3. デジタル顕微鏡画像 (a)×2000, (b)×1500

第2節 花鳥山遺跡、令和2年発掘調査における出土土器の種実圧痕

赤司千恵・中山誠二（帝京大学文化財研究所）

花鳥山遺跡の植物考古学的分析については、これまでに山梨県埋蔵文化財センターによる昭和62年の発掘調査で出土した炭化種実（山梨県教育委員会 1989）、および土器の種実圧痕調査（中山ほか 2017）の分析結果が報告されている。本稿では、昭和測量による令和2年発掘調査で出土した縄文時代前期後葉に属する土器片を対象に行った、種実圧痕調査結果の概要を報告する。

手順としては、土器片のうち約半数を点検し、まず種実の可能性のある圧痕が見られた61点の土器片を抽出した（一次選別）。次に圧痕部分の実体顕微鏡下で二次選別を行い、圧痕86点（土器63点）についてシリコン印象材（JM シリコン）と離型剤（パラロイド B-72 をアセトンに溶かした4%溶液）を用いてレプリカを採取した。レプリカは蒸着処理し、走査型電子顕微鏡で観察した。なお土器断面の圧痕3点には、空隙内に粉末状になった炭化物が残存していたため、将来的な研究に備えて炭化物を採取し、別に保管することとした。

結果

ササゲ属（*Vigna* spp.）、ニワトコ属（*Sambucus* spp.）、シソ属（*Perilla* spp.）、ミズキ属（*Cornus* spp.）の種実圧痕が含まれることが分かった。主な種実圧痕は次のとおりである。

HNT46（図1:a） 深鉢内壁の口縁部付近。長さ4.15 mm、幅2.95 mm。表面が平滑で、臍部（2.28 mm 長）が確認された。大きさと構造から、ササゲ属アズキ亜属と同定した。

HNT63-1, 63-4（図1:b, c） 深鉢の胴部内壁。少なくとも2点は、卵形の外形、表面に平行に並んだ突起列などから、ニワトコ属と同定できる。HNT63-1が長さ2.35 mm、幅1.35 mm、HNT63-4は長さ1.86 mm、幅1.33 mmであった。

シソ属とアズキ亜属は中山ほか（2017）の土器圧痕分析でも検出されているが、ニワトコ属とミズキ属は、今回調査で初めて圧痕として確認した種である。ニワトコ属、ミズキ属、シソ属は、昭和62年調査時に炭化種実の出土が確認されており、今回の調査で圧痕としても存在が裏付けられた。その他の種実圧痕についての詳細は、別途報告する予定である。

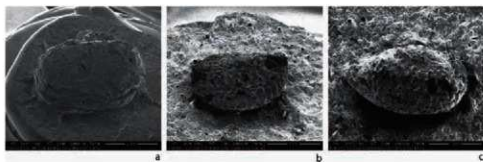


図1 a: HNT46, b: HNT63-1, c: HNT63-4

山梨県教育委員会, (1989)『花鳥山遺跡・水呑場遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第45集。
中山誠二, 西願麻衣, 赤司千恵, 前川優, (2017). 山梨県花鳥山遺跡における縄文時代前期後葉の植物圧痕。
『山梨県埋蔵文化財センター研究紀要』33, 1-12.

第3節 花鳥山遺跡出土炭化材の樹種同定

小林克也 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

山梨県笛吹市の花鳥山遺跡から出土した炭化材の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料はいずれも炭化材で、4号住居 SI4 から2点、7号住居 SI7 から4点、10号住居 SI10 から1点、10号住居 SI10の礫集中範囲から3点の、計10点である。時期については、いずれも縄文時代前期後半と考えられている。

樹種同定は、まず試料を乾燥させ、材の横断面(木口)、接線断面(板目)、放射断面(柎目)について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡 (KEYENCE 社製 VE-9800) にて検鏡および写真撮影を行なった。

3. 結果

同定の結果、針葉樹のカヤと、広葉樹のクリとコナラ属クスギ節 (以下、クスギ節) の、計3分類群が確認された。クリとクスギ節が各4点で、

表1 花鳥山遺跡出土炭化材の樹種同定結果

	4号住居	7号住居	10号住居	10号住居	合計
樹種/遺構	SI4	SI7	SI10	SI10礫集中範囲	
カヤ	2				2
クリ			1	3	4
コナラ属クスギ節		4			4
合計	2	4	1	3	10

カヤが2点であった。同定結果を表1に、一覧を付表1に示す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版に走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) カヤ *Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc. イチイ科 図版1 1a-1c (No. ①-1)

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、1~5細胞高である。分野壁孔は小型のヒノキ型で、1分野に2~4個みられる。また、仮道管の内壁には2本1対のらせん肥厚がみられる。

カヤは暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材は比較的重硬で、弾力性に富み、切削等の加工は容易で、水湿によく耐える。

(2) クリ *Castanea crenata* Siebold, et Zucc. ブナ科 図版1 2a-2c (No. ①-1)

年輪のはじめに大型の道管が1~3列並び、晩材部では徐々に径を減じる道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列である。

クリは、北海道の石狩、日高地方以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

(3) コナラ属クスギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版1 3a-3c (No. ②-1)

年輪のはじめに大型の道管が1~3列並び、晩材部では急に径を減じた厚壁で丸い道管が、放射方向

に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属クスギ節にはクスギとアベマキがあり、温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で、切削などの加工はやや困難である。

4. 考察

同定の結果、10号住居 SI10 および SI10 の縄集中範囲の炭化材はクリ、4号住居 SI4 の炭化材はカヤ、7号住居 SI7 の炭化材はクスギ節であった。試料の用途は不明である。カヤは木理通直で真っすぐに生育する加工性が良い樹種で、クリとクスギ節は堅硬で、薪炭材としても多く利用される樹種である（伊東ほか、2011）。

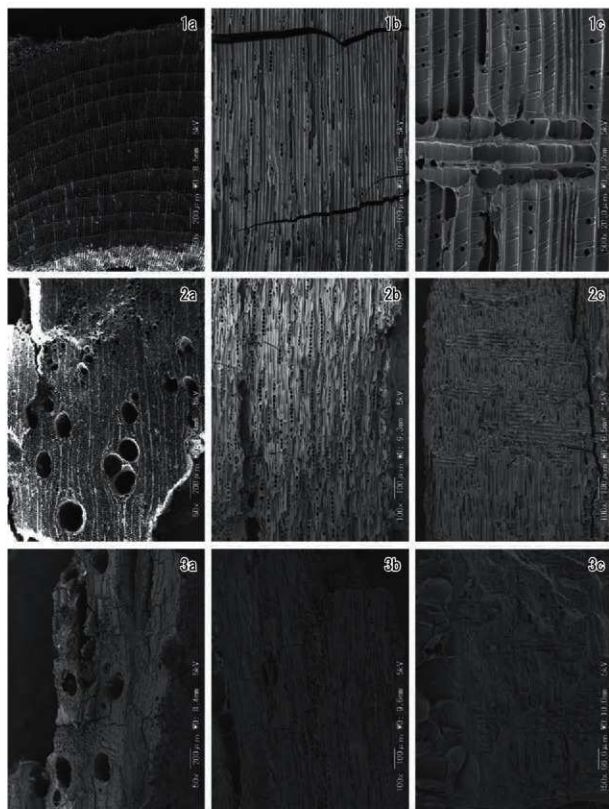
山梨県内の縄文時代中期の遺跡から出土する炭化材では、クリやブナ科の樹木が多くみられ、傾向は一致するが、カヤの利用は確認されていない（伊東・山田編、2012）。

引用文献

- 伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌、238p、海青社。
伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学—出土木製品用材データベース—、449p、海青社。

付表1 花鳥山遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

試料No.	遺構名	遺物No.	種類	樹種	時期
①-1	10号住居SI10縄集中範囲		炭化材	クリ	縄文時代前期後半
①-2	10号住居SI10縄集中範囲		炭化材	クリ	縄文時代前期後半
①-3	10号住居SI10縄集中範囲		炭化材	クリ	縄文時代前期後半
②-1	7号住居SI7		炭化材	コナラ属クスギ節	縄文時代前期後半
②-2	7号住居SI7		炭化材	コナラ属クスギ節	縄文時代前期後半
②-3	7号住居SI7		炭化材	コナラ属クスギ節	縄文時代前期後半
②-4	7号住居SI7		炭化材	コナラ属クスギ節	縄文時代前期後半
④-1	4号住居SI4	352	炭化材	カヤ	縄文時代前期後半
④-2	4号住居SI4	352	炭化材	カヤ	縄文時代前期後半
⑨-1	10号住居SI10	2	炭化材	クリ	縄文時代前期後半



図版1 花鳥山遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. カヤ(No. ④-1)、2a-2c. クリ(No. ①-1)、3a-3c. コナラ属クヌギ節(No. ②-4)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

第4節 花鳥山遺跡から出土した炭化種実

バンダリ スダグシヤン (パレオ・ラゴ)

1. はじめに

山梨県笛吹市に所在する花鳥山遺跡は、縄文時代前期後半を中心とした集落跡である。ここでは、竪穴住居跡などから得られた炭化種実の同定を行い、当時利用された種実について検討した。

2. 試料と方法

試料は、現地取り上げ試料6試料である。試料が採取された遺構は、竪穴住居跡SI-10とSI-10の礫集中範囲、SI-8の炉1、SI-11の炉1、SI-14の炉1、土坑SK-1の底である。遺構の時期は、いずれも縄文時代前期後半である。

試料の採取は、昭和測量株式会社によって行われた。試料は、甲府市教育委員会に保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物で広葉樹のクリ炭化子葉とオニグルミ炭化核、トチノキ炭化種子の3分類群が得られた。この他に、同定ができなかった不明炭化鱗茎と、残存状態が悪く、科以上の細分に必要な識別点が残存していない同定不能炭化種実が得られた。

表1 花鳥山遺跡から出土した炭化種実 (括弧内は破片数)

分類群	試料番号	時期						
		1	3	5	7	8	9	
		遺構	SI-8	SI-11	SI-14	SK-1	SI-10	
		採取位置	礫集中範囲	炉1	炉1	炉1	底	-
			-	-	No. 2225	No. 2037	-	No. 2385
			縄文時代前期後半					
クリ	炭化子葉	(2)						
オニグルミ	炭化核			(1)	(1)	(1)		
トチノキ	炭化種子				(1)			
不明	炭化鱗茎							1 (13)
同定不能	炭化種実	(1)						

以下に、炭化種実と炭化鱗茎の産出状況を遺構別に記載する (同定不能炭化種実は除く)。

SI-10 礫集中範囲：クリがわずかに得られた。

SI-8 炉1：同定可能な炭化種実は得られなかった。

SI-11 炉1：オニグルミがわずかに得られた。

SI-14 炉1：オニグルミとトチノキがわずかに得られた。

SK-1 底：オニグルミがわずかに得られた。

SI-10：不明炭化鱗茎がわずかに得られた。

次に、得られた分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田 (2003-) に準拠し、APGⅢリストの順とした。

(1) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. 炭化子葉 プナ科

完全形ならば広卵形で、表面に縦方向のしわ状の溝がある。しわ以外の面は平坦で、硬質。残存高 6.9mm、残存幅 5.3mm。

(2) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam. 炭化核 クルミ科

完形ならば側面観は広卵形。木質で、壁は厚くて硬く、ときどき空隙がある。表面に浅い縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。断面は角が尖るものが多い。内部は二室に分かれる。残存高 11.1mm、残存幅 8.3mm。

(3) トチノキ *Aesculus turbinata* Blume 炭化種子 ムクロジ科

完形ならば楕円形で、下半部は光沢がなく、上半部にはやや光沢がある。上下の境目の下に、少し突出した着点がある。種皮は薄く、やや硬い。種皮は3層からなり、各層で細胞の配列方向が異なる。種皮の表面には指紋状の微細模様が密にある。残存長 6.5mm、残存幅 6.0mm。

(4) 不明 Unknown 炭化鱗茎

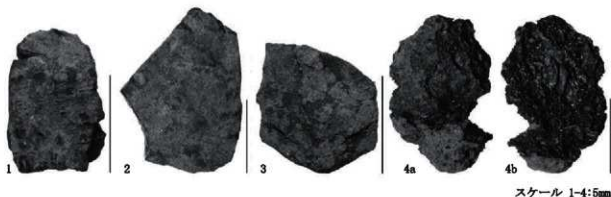
残存状態は悪いが、完形ならば上面観は円形、側面観は狭卵形か。鱗片葉が層状に密に重なっており、ユリ科ノビルまたはキジカクシ科ツルボの鱗茎に類似する。基部に円形の盤茎があり、突出する。実体顕微鏡による観察では、科以上の詳細な同定はできなかった。残存高 10.5mm、残存幅 7.5mm。

4. 考察

花鳥山遺跡の縄文時代前期後半の堅穴住居跡や土坑から出土した炭化種実を同定した結果、野生植物で食用可能なクリとオニグルミ、トチノキが得られた。SI-11 炉 1 や SI-14 炉 1、SK-1 から得られたオニグルミの核やトチノキの種子は、内部の子葉を利用するために割られた後に、食用にならない不要な部位が燃やされるなどして廃棄された可能性がある。SI-10 礫集中範囲では、食用になるクリ子葉の破片が出土しており、調理中に炭化し、堆積した可能性がある。

引用文献

米倉浩司・梶田 忠 (2003-) BG Plants 和名-学名インデックス (YList), <http://ylist.info>



図版1 花鳥山遺跡から出土した炭化種実

1. クリ炭化子葉 (SI-10礫集中範囲、No. 1)、2. オニグルミ炭化核 (SI-14炉1、No. 7)、3. トチノキ炭化種子 (SI-14炉1、No. 7)、4. 不明炭化鱗茎 (SI-10、No. 9)

第6章 まとめ

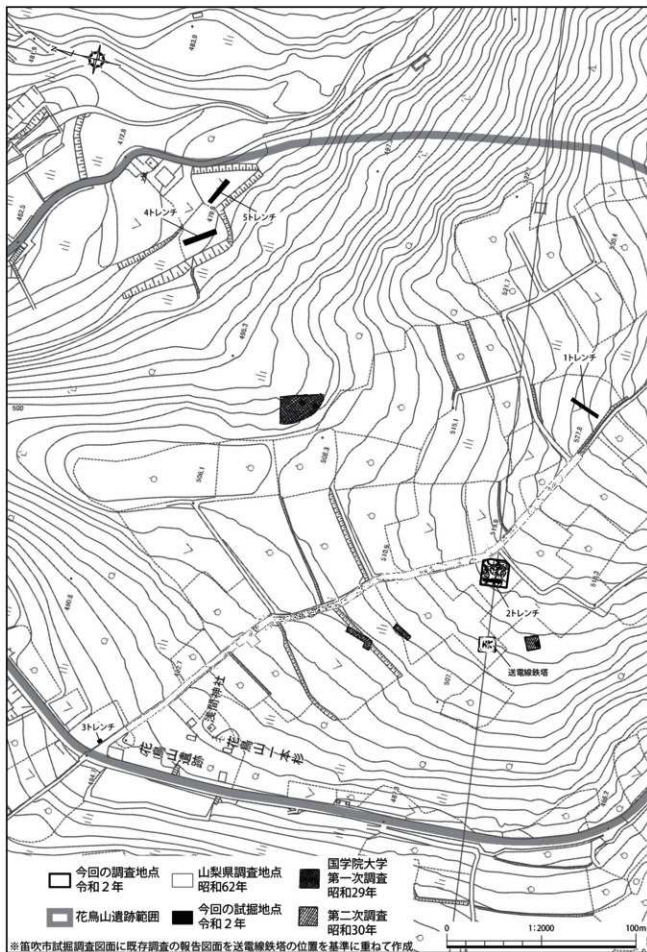
第1節 令和2年調査の遺構と時期

今回の花鳥山遺跡令和2年調査では竪穴遺構14基、土坑8基が検出され、出土遺物量は整理箱21箱分であった。狭い調査区内で重複する遺構の状況は昭和62年調査区の遺構集中範囲と同様と見ることができ、花鳥山遺跡の新たな遺構集中範囲を検出することができたといえる(第58図)。花鳥山遺跡は山地を背にする尾根状の台地のため土壌が削られており、検出した竪穴遺構も谷側の壁もしくは床面が削平され、覆土が流出している傾向があった。また、今回の調査地点は遺構密度が高く重複が複雑なことも加わり、全般に遺構覆土に前後する時期のものが混入しやすい出土状況であった。このため各遺構の時期は主体となる土器の時期から位置付をしている(第57図)。

今回の調査地点では縄文時代早期鶴ヶ島台式、前期中葉黒浜式や釈迦堂Z3式土器、清水ノ上Ⅱ式・上の坊式とみられる土器、十三苜提式的な前期終末期の土器など、前期後半以外の時期の土器もわずかに出土しているが、これらの時期の遺構はいずれも検出されていない。検出した竪穴遺構は諸磯b式期が11基、諸磯c式期が3基であり、諸磯b式期に集中している。最も古い遺構は11号竪穴で諸磯b式の前段階土器が主体となるが、他の遺構と比較して縦位の円形竹管文と沈線による木葉文や肋骨文などが施文された諸磯a式の土器も多く、また北白川下層Ⅱa式の彩文土器も属すると考えられ、全体的に諸磯b式の最も古い段階とみられる。次に古いと考えられるのは5号土坑で、爪形文を用いた木葉文などが施文される土器などが主体となり、やはり諸磯b式の最も古い段階とみられる。次の段階は13号竪穴、1号竪穴、14号竪穴、9号竪穴で爪形文、あるいは爪形文と浮線文が並行して施文される土器が主体となり、諸磯b式の前段階とみられる。北白川下層Ⅱb式の土器もこの時期に属すると思われる。7号竪穴、7号土坑、12号竪穴、8号竪穴、5号竪穴で高い浮線文や沈線文が施文される土器が主体となる。諸磯b式の中段階の古手とみられ、北白川下層Ⅱc式の土器もこの時期に属すると思われる。次には4号竪穴で低い浮線文が施文される土器などが主体となり、諸磯b式の中段階の新手とみられる。3号竪穴では沈線文が施文される土器が主体となり、諸磯b式の新段階とみられる。さらに10号竪穴では棒状貼付文や結節浮線文が施文される土器が主体となるが、横位の沈線で段を巡らせた下に縦位のモチーフを描きかけたような土器も認められており、諸磯c式の最も古い段階とみられる。6号竪穴、2号竪穴ではそれぞれ結節浮線文、細い結節浮線文が施文される土器が主体となり、諸磯c式の前段階とみられる。



第57図 遺構の時期



第58図 花鳥山遺跡の遺構分布

第2節 花鳥山遺跡の立地と集落

1 住居分布と生業資源

花鳥山遺跡の主な遺構は、尾根北西斜面の標高 495 m から 530 m の間に展開している。1987 年（昭和 62）の調査では諸磯 b 式期 8、c 式期 5、b～c 式期 4 を含め 19 軒の住居が発見された。畑地灌漑水管理埋設の限られた範囲の調査ではあるが、それ以前 2 回の発掘成果も含めて長沢宏昌氏は東西 160 m、南北 100 m に及ぶ馬蹄形集落の可能性を想定した（長沢 1989）。今回の調査は尾根上部に近い標高 520 m 地点であり、集落の南端に近い箇所にあたる。今回の調査箇所から発見された住居は諸磯 b 式期主体 11、c 式期主体 3 の合計 14 軒であり、14 m 四方の調査面積からすると密度が高い箇所といえる。遺跡内における時期別分布をみると前回の調査では中央に諸磯 b 式期が位置し、その上下（南北）に c 式期が密集する傾向がある。この斜面上方の c 式期住居が多い箇所今回調査区が接近しているものの b 式期が多く認められた。過去三回調査が行なわれているとはいえ、一部の範囲に限られることから時期別占地については今後の課題でもある。但し調査成果からみると遺構の密集度は高く、遺物の状況からもこの地域にあつての拠点的な集落であったことが考えられる。

集落を支えた生業に関わる遺物としては、打製石斧・石皿・磨石など植物採取・加工具類に加え、前回調査ではエゴマ炭化種子塊や多量のオニグルミ破片、クリ、ドングリ類、ミズキ、球根類などの炭化物、さらにはシカ・イノシシの焼骨片やコイ鰓蓋骨までもが確認されている。今回の調査でも炉内・床面・坑底等の土壌水洗選別により得られた炭化物の同定を（株）パレオ・ラボに依頼したところ、炭化材ではクリ・カヤ・コナラ属クヌギ節、炭化種実ではクリ・オニグルミ・トチノキの破片があり、分類不明ながら炭化鱗茎も確認でき、ユリ科ノビル・キジカクシ科ツルポに類似とのことであった。炭化鱗茎は前回調査でも出土し、松谷暁子氏の観察ではノビルなどを含めたユリ科やヒガンバナ科の鱗茎が考えられるとともに、食用・薬用などの用途が課題となった（松谷 1989）。土器の種実圧痕分析では前回調査後、中山誠二氏等の悉皆調査によりシソ属 11、アズキ亜属 2 など 19 点が確認されている（中山他 2017）。今回も中山氏・赤司氏に依頼し分析途中ではあるが、多くのシソ属に加えアズキ亜属も確認できている。これらの成果から、堅果類はもちろんな野生のマメ類やシソ類（エゴマ）など豊富な植物資源利用の一端が垣間見える。獸類や淡水魚の活用を含めて、生業に関わつての立地ということもできる。

2 立地と継続性

花鳥山遺跡は、部分的に斜度 8°～12°と傾斜が強い尾根上に位置する。諸磯式期の集落立地については、斜面特有の住居構造が想定されている長野県富士見町机原遺跡（小林 1991）にみる急傾斜地（12～15°）例がある反面、中央墓城型集落である北杜市天神遺跡のような傾斜の緩い尾根上に展開する例もある。概して諸磯 b 式期には平地・傾斜地を含めて遺跡が急増する傾向があり、立地を異にした複数の集落間関係も課題となる（新津 1994）。

花鳥山遺跡からは早期後葉・前期中葉・前期終末期の土器片も出土しており、未発掘箇所からそれらの時期の遺構が発見される可能性はある。しかし現状での住居等は諸磯式期に限られており、拠点性が高い集落ではあるものの継続性の視点からは短期的ともいえる。このことについて、花鳥山遺跡とは浅川を隔てた西方 2.5 km に位置する銚子原遺跡（第 2 図）と比較してみる。3 回の調査により合計 40 軒近い住居が発見されており、内訳は釈迦堂 Z 3 式期 3、諸磯 a 式期 3、b 式期 4、c 式期 7、b～c 式期 2、十三菩提式期 5、五領ヶ台式期 6（Ⅰ期 2、Ⅱ期 4）、曾利Ⅲ～V 式期 8 などである（笛吹市教育委員会他 2006）。諸磯段階が最も多いが、前期終末期になっても 5 軒がみられることに注目したい。この時期は遺跡が減少するとともに住居数も極端に少なくなる傾向にあるが、銚子原遺跡では減少率は低くしかも五領ヶ台Ⅰ式・Ⅱ式期にまで継続する。特に 4 基の炉が一列に並ぶ大型住居 26 号では、前期終末期から中期初頭に連続する土器の状況が確認できる。この時期には列島内における人の大きな動きが考えられており、大型住居の分布もその動向を物語る。山梨県内出土の土器からも北陸・中部・東北・関東といった地域とのつながりを見ることができ、銚子原遺跡での継続性は、その立地条件にも関わると考えられる。標高 420 m、東西 500 m 南北 400 m と

いう傾斜の緩い平坦面を持つ丘陵は、継続して集落を営むには適した広さを有するといえる。諸磯式期や五領ヶ台式期の集落でもある八ヶ岳山麓天神遺跡とも共通する。

花鳥山遺跡の東方4kmにある桂野遺跡(第2図)もまた継続性の高い集落である。御坂山地から金川に向かって傾斜する標高520~590mの斜面に立地する東西400m以上、南北300m以上にも及ぶ広範な遺跡である(山梨県教育委員会他2000)。傾斜が強い箇所もあるが居住域は8°前後でありしかも台地の範囲は圧倒的に広い。浅い谷(埋没谷)に画された幅80~100mの尾根が複数あり、この範囲を含めて前期終末期から中期終末期までの集落が分布する(榎原2004)。背後にピラミッド形をした大塚山を望む奥行のある立地でもある。これまで60軒程の住居が調査され、十三菩提式期3、五領ヶ台I式期2、五領ヶ台II式期18という数値から分かるように前期終末期から中期初頭に継続・発達している。以後曾利V式期まで場所を移しながら継続し、各時期それぞれ拠点的な集落が形成されたと推測できる。諸磯式土器が出土する箇所もあるが、集落形成は十三菩提式期からとみられる。花鳥山遺跡が縮小する時期に集落形成が始まることになる。

このように諸磯式期中心の花鳥山、諸磯から十三菩提を経て五領ヶ台式期につながる銚子原、十三菩提式期から中期終末期までの桂野といった継続性を異にする大規模遺跡が直線距離で10km以内に形成されている。その要因の一つはやはり地形にある。まず水場や生産地としての便宜性が基本であろうが、継続して集落が展開するのに必要な平坦面の広さ、適度な傾斜といった地形が大きな条件となる。さらに他地域とのつながりからは交通路の問題がある。桂野遺跡は後世の古代官道(御坂道)にも面している。地域を超えての交流といった大きなうねりの中で形成された前期終末期から中期初頭という時期に集落の展開が始まる桂野遺跡はこのような視点で考える必要があろう。

銚子原や桂野ほどの平坦地を持たず、しかも背後の山までの奥行が少ない尾根に位置する花鳥山遺跡が諸磯式期のみ集落であったことは、一つにはこの地形にあったものと考えたい。一方東海系や北白川下層系の土器も多く、特にベンガラで文様が描かれた精巧な土器の存在からはこの花鳥山集落が他地域との交流も含めた中心地であったことも想定できる。交通路といった視点からすると、花鳥山遺跡のすぐ西側には盆地から富士西麓を経て駿河方面に抜ける古代ルートのひとつ若彦路がある。また現在のことではあるが御坂山塊大塚山(標高1,414m)に達するこの尾根は猪や鹿のけもの道にあたっているようで、調査中にも罾罟が盛んに行なわれていた。このような動・植物資源も含めた生業に関わる環境や交易路に支えられて発達したと思われる花鳥山集落ではあったが、前期終末期での環境変化や人の動きといった条件を満たすには十分な立地ではなかったことを意味する。広汎なうねりの時期から中期への胎動を受けて、隣接する銚子原や桂野の地を選ぶことになったのではないか。もちろんこの3遺跡だけでの問題ではなく、八ヶ岳山麓から甲府盆地南辺の曾根丘陵地帯には諸磯式期も含めて前期終末期から中期初頭の遺跡が点在する。これらの遺跡との関連から考える必要があろう。

引用文献

- 榎原功一 2004 『集落の変遷』『桂野遺跡』山梨県農務部・御坂町教育委員会・(財)山梨文化財研究所
小林公明 1991 『新石器時代の文化と遺跡の概観』『富士見町史』上巻
長沢宏昌 1989 『第4節花鳥山遺跡の諸問題』『花鳥山遺跡・水呑場北遺跡』山梨県教育委員会他
中山誠二他 2017 『山梨県花鳥山遺跡における縄文時代前期後葉の植物圧痕』『研究紀要』33 山梨県立博物館・山梨県埋蔵文化財センター
新津健 1994 『集落の検討』『天神遺跡』山梨県教育委員会
笛吹市教育委員会他 2006 『銚子原遺跡』笛吹市文化財調査報告書第4集
松谷暁子 1989 『水呑場北遺跡出土土器付着球根状炭化物の識別について』『花鳥山遺跡・水呑場北遺跡』山梨県教育委員会他
御坂町教育委員会他 2004 『桂野遺跡』御坂町埋蔵文化財報告書
山梨県教育委員会他 2000 『桂野遺跡・西馬鞭遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 172

図版 1



道跡遠景 (写真中央 円形範囲) 北西から



道跡遠景 (台地上中央☆鉄塔下が調査地点、右が一本杉) 北から



道跡近景 (中央は山梨リニア実験線) 上空南から



道跡近景 上空西から



道跡近景 (奥は浅川の谷筋：若彦路) 上空北から



調査区近景 上空北から



調査区近景 東から



調査区近景 (調査後) 東から



1号竪穴 完掘状況 西から



2号竪穴 遺物出土状況 西から



3号竪穴 遺物出土状況 西から



4号竪穴 土層堆積状況 北から



6号竪穴 遺物出土状況 西から



7・12・14号竪穴 完掘状況 東から



8・9号竪穴 完掘状況 北から



10号竪穴 遺物出土状況 北から

図版 3



10・11号竪穴 完掘状況 東から



13号竪穴 完掘状況 西から



1号土坑 遺物出土状況 西から



2号土坑 遺物出土状況 東から



5号土坑 焼土検出状況 北から



5号土坑 完掘状況 南から



6号土坑 完掘状況 南から



7号土坑 遺物出土状況 北から



4号竪穴炉跡1 完備状況 北から



4号竪穴炉跡2 遺物出土状況 南から



5号竪穴 遺物出土状況 西から



6号竪穴 被熱礫出土状況 北から



7号竪穴 遺物出土状況 北から



7号竪穴 遺物出土状況 南から



10号竪穴 遺物出土状況 西から



10号竪穴 遺物出土状況 南から

報告書抄録

ふりがな	はなとりやまいせき							
書名	花鳥山遺跡							
副書名	天竜南線リニア増強工事2期(その1)(送電線鉄塔建設)に伴う発掘調査報告書							
編著者名	瀬田 正明・高野 高潔・新津 健・三浦 麻衣子・藤澤 明・赤司 千恵・中山 誠二・小林 克也 ・パンダリ スタルジャン							
編集機関	昭和測量株式会社							
所在地	〒400-0032 山梨県甲府市中央 3-11-27 ℡055-235-4448							
発行年月日	西暦 2021(令和3)年 8月 31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				(㎡)	
はなとりやまいせき 花鳥山遺跡	やまなしけん 山梨県 ふたふきしやつしろちょう 笛吹市八代町 たけい 竹居5 1 4 4	19211	八代-110	35°36'02"	138°40'07"	20201019 ～ 20201215	198	送電線 鉄塔建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
花鳥山遺跡	集落跡	縄文	竪穴、土坑	縄文土器、石器、人形状土製品、 土製円盤、焼成粘土塊、石製品			縄文前期諸磯期集落、 彩文土器(ベンガラ)、 炭化物・種子圧痕	

笛吹市文化財調査報告書 第45集

花鳥山遺跡

—天竜南線リニア増強工事2期(その1)(送電線鉄塔建設)に伴う発掘調査報告書—

発行日 令和3年8月31日

編集 昭和測量株式会社
〒400-0032 山梨県甲府市中央 3-11-27 ℡055-235-4448

発行 東京電力パワーグリッド株式会社・笛吹市教育委員会
・昭和測量株式会社

印刷・製本 株式会社内田印刷

〒400-0032 山梨県甲府市中央 2-10-18 ℡055-233-0188

The Report of
Archaeological Research of
HANATORIYAMA Site in Yatsushiro

Archaeological Survey prior to construction of the
Transmission Tower

2021

TEPCO Power Grid, Inc.
Fuefuki City Board of Education
Showa Survey Co., Ltd.